

始



263.6-42



島田牛稚著

尋常科
第六學年

地理教材の敷衍と附說

大正
8.7.12
内交

東京 目黒書店發兌

例言

一、本書は新定地理書卷二を教授する士のために各材料取扱の主眼を闡明し、教材内容の解説を加へ、又教科書記載事項の徹底を期す上に執るべき敷衍附説の標準と方法を示し、趣味ある参考資料を掲げたものである。

一、敷衍附説事項は徒らに多きを貪らず、教科書記載事項の收得を本旨とし、又地理書編纂の趣意に鑑み、極めて必要なりと思惟するものを成るべく具體的に記述せんとつとめたのである。併しながら敷衍附説の項にあげて居るものは、固より悉くを教了せねばならぬ性質のものではない。依て地方の事情、児童成績の如何によつて適宜の取舍を施されたい。

一、取扱上の注意の項には比較的忽諸に附せられ易い教科書本

文中の地理的用語を指摘し、又教科書挿繪の解説を加へ、學習上兒童に課し得べき問題を選定し、或は必要教具の指示をなし、以て教師の準備方面に、將た實地教授の上に、幾分の參考を供したつもりである。

一、各教材取扱上參考となるべき資料の蒐集は極めて必要の事であつて、本書『參考資料』の項は『敷衍及附説事項』と共に著者の最も苦心せる所である。併し繁多なる資料を到底本書中に收容する事は出来ぬから、若し書中に收むる紀行文と同種のもの、教材研究上、實地の教授上利用せんとする人士は、白井規一氏と余との共著『趣味の地理』叢書博文館發行を参照せられたい。尙又統計類はなるべく最新のものを擧げたつもりではあるが、使用者は不斷の注意によつて時々修正を加へ教授せられん事を望む。

一、本書執筆に際しては公私共に繁忙の期に會し、十分に資料を究め思索を練るの餘裕がなかつた。而も其間に處し極めて短時日間に脱稿したのであるから、事實の相違、魯魚の誤も尠くない事と思ふ。依て是等は忌憚なき讀者の正教を得たいものである。曩に發行せる五年用『地理教材の敷衍と附説』は幸に多くの人から高教忠言を賜はつて著者は多大の利益を感じた次第であるが、本書も前卷同様大方識者の是正によつて漸次改竄を加へて行きたいものである。

一、教材内容の調査に關しては同僚諸君の勞を煩はした事もあり、又知友先輩の援助に據つた事も尠くない。本書が比較的早く成つたのは一にこれ等の人の援助にある事と信じ、謹んで茲に謝意を表する次第である。

大正八年五月上旬

廣島元安河畔にて

著者識

尋常第六學年地理教材配當表 (新法令に據る)

第一學期 十四週 (豫定時間 二十八時間)

題目		教授事項		時間配當
第一、九州地方	一、九州地方の區分	一、九州地方の區分	一	一
	二、同 山脈	二、同 山脈	一	一
	三、九州地方の火山脈	三、九州地方の火山脈	一	一
	四、同 河川・平野	四、同 河川・平野	一	一
	五、九州地方の海岸	五、九州地方の海岸	一	一
	六、同 島	六、同 島	一	一
第二、地區勢分	一、九州地方の農業	一、九州地方の農業	一	一
	二、同 林業	二、同 林業	一	一
	三、同 牧畜業	三、同 牧畜業	一	一
	四、同 礦業	四、同 礦業	一	一
	五、九州地方の工業	五、九州地方の工業	一	一
	六、同 水産業	六、同 水産業	一	一
第三、産業	一、九州地方の農業	一、九州地方の農業	一	一
	二、同 林業	二、同 林業	一	一
	三、同 牧畜業	三、同 牧畜業	一	一
	四、同 礦業	四、同 礦業	一	一
	五、九州地方の工業	五、九州地方の工業	一	一
	六、同 水産業	六、同 水産業	一	一
第四、交通	一、九州地方の鐵道	一、九州地方の鐵道	一	一
	二、同 海上の交通	二、同 海上の交通	一	一
	三、福岡縣の都邑	三、福岡縣の都邑	一	一
	四、佐賀縣の都邑	四、佐賀縣の都邑	一	一
	五、長崎縣の都邑	五、長崎縣の都邑	一	一
	六、熊本縣の都邑	六、熊本縣の都邑	一	一
第五、都邑	一、鹿兒島縣の都邑	一、鹿兒島縣の都邑	一	一
	二、宮崎縣の都邑	二、宮崎縣の都邑	一	一
	三、大分縣の都邑	三、大分縣の都邑	一	一
	四、同 都邑	四、同 都邑	一	一
	五、同 都邑	五、同 都邑	一	一
	六、同 都邑	六、同 都邑	一	一
第六、琉球列島	一、沖繩縣の地理	一、沖繩縣の地理	一	一
	總括	總括	一	一

尋常第六年地理教材配當表

第二、臺灣地方		第三、住産業		第四、交通		第五、都邑		第三、北海道地方	
一、臺灣地方の區分	二、同 海岸	一、臺灣の住氏	二、同 産業一般	一、臺灣地方の鐵道	二、同 海上の交通	一、臺灣地方の都邑	二、同 樺太地方の都邑	一、北海道地方の區分	二、同 山系
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

一、地區勢分		二、産業		三、交通		四、都邑		第四、樺太地方	
一、北海道地方の河川・平野	二、同 水産業	一、北海道地方の住氏	二、同 農業・牧畜	一、北海道地方の鐵道	二、同 海上の交通	一、北海道地方の都邑	二、同 樺太地方の都邑	一、樺太地方の位置	二、同 海岸
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第二學期 十六週 (豫定時間 三十二時間)

第五、朝鮮地方		第六、關東州	
一、朝鮮地方の區分	二、同 山脈	一、關東州の位置・沿革	二、同 産業
一	一	一	一

一、地區勢分		二、産業		三、交通		四、都邑	
一、朝鮮地方の住氏	二、同 産業概説	一、朝鮮地方の鐵道	二、同 海上の交通	一、朝鮮地方南部の都邑	二、同 中部の都邑	一、關東州の都邑	二、同 樺太地方北部の都邑
一	一	一	一	一	一	一	一

第七、大日本 帝國總説		四、大日本帝國の林業	一
五、同 牧畜		五、同 水産業	一
六、同		六、同	一
七、大日本帝國の鑛業		七、同 工業	一
八、同		八、同	一
九、大日本帝國の貿易		九、同 交通	一
十、同		十、同	一
第八、アジア		一、アジア洲の位置	一
一、總説		二、同 山地と産業	一
三、同 低地と産業		三、同	一
四、アジア洲の交通		四、同 區分	一
五、同		五、同	一
二、支那		一、支那の區分	一
支那本部		二、支那本部の農業・工業	一
三、同 鑛業・工業		三、同	一
四、支那本部の交通・貿易		四、同 海岸	一
五、同		五、同	一
六、青島		六、同	一
第九、ヨーロッパ		一、滿洲の面積・人口	一
二、同 地勢		二、同 産業・貿易	一
三、同 産業・貿易		三、同	一
四、滿洲の交通・都邑		四、同	一
一、蒙古の地理		一、我が國と支那との關係	一
二、同		二、同	一
三、シベリヤの地勢・産業		三、同 都邑・交通	一
四、同		四、同	一
五、東南アジア		一、印度の産業	一
二、同 都邑		二、同	一
三、印度支那半島		三、同 諸島	一
四、同 牧畜・林業・水産業		四、同	一
五、同 鑛業・工業		五、同	一

第三學期 十週 (豫定時間 二十時間)

六、ヨーロッパ洲の交通・貿易	一
七、イギリスの地理	一
八、フランスの地理	一
九、ドイツの地理	一
十、ロシアの地理	一
十一、オーストリア・ハンガリー	一
十二、イタリア	一
十三、我が國と歐洲諸國との關係	一
總括	一
學期末復習	一

第十、アフリカ洲	一、アフリカ洲の地勢	一
二、同 北部の地理	二、同	一
三、アフリカ洲南部の地理	三、同 交通	一
四、同	四、同	一
第十二、北アメリカ洲	一、北アメリカ洲の區分	一
二、同 地勢	二、同	一
三、北アメリカ洲の農・牧・林業	三、同	一
四、同 水産業	四、同	一
第十二、南アメリカ洲	一、南アメリカ洲の區分	一
二、同 地勢	二、同	一
三、南アメリカ洲の産業	三、同	一
四、同 交通・貿易	四、同	一

第十四、世界と日本		第十三、大洋洲		第十五、地球の表面	
一、六	大	一、大洋洲の区分	二、オーストラリヤ	一、地球の緯度	二、経緯の大線
二、三	大	三、大洋洲の諸島	四、マーシャル・カロリン諸島	三、経緯の定め方	四、地點の定め方
三、我が大日本帝國	洋洲			五、晝衣・四季	六、陸地と海洋
一	+	一	一	六	三
				學年末の總復習	

新教科書の活用 地理教材の衍数と附説 尋常科 第六學年

目次

第一 九州地方……………一

一、區分(二) 二、地勢(三) 三、産業(二六)

四、交通(四二) 五、都邑(五一) 六、琉球列島(沖繩縣)(七二)

第二 臺灣地方……………八一

一、區分・地勢(八二) 二、住民・産業(九二) 三、交通(一一二)

四、都邑(一二七)

第三 北海道地方……………一二七

一、區分・地勢(一二七) 二、産業(一三七) 三、交通(一五一)

四、都邑(一五九) 五、千島列島(一六五)

第四 樺太地方……………一六八

第五 朝鮮地方……………一九四

一、地 勢(二六八) 二、産 業(二七七) 三、郡邑・交通(二八七)

一、區分・地勢(二九四) 二、住民・産業(二〇八) 三、交 通(二二四)

四、郡 邑(二三二)

第六 關東州……………二四七

第七 大日本帝國總説……………二六一

第八 アジア洲……………二八七

二、支 那……………三〇三

甲、支那本部(三〇三) 乙、青 島(三二四) 丙、滿 洲(三三五)

丁、蒙 古(三四八)

三、シベリア……………三五一

四、印 度……………三六三

五、東南アジア……………三七一

第九 ヨーロッパ洲(歐洲)……………三八〇

甲、總 論(三八〇) 乙、主要諸國(三九二)

第十 アフリカ洲……………四一〇

第十一 北アメリカ洲(北米)……………四二三

第十二 南アメリカ洲(南米)……………四四四

第十三 大洋洲……………四五九

第十四 世界と日本……………四八一

第十五 地球の表面……………四九〇

目次終

目次

新教科書
の活用

地理教材の敷衍と附説

尋常科
第六學年

島田牛稚著



教授の方法

九州地方

區分

まづ日本全圖に據りて本邦十一地方の自然區劃を復習し、既授の地方たる關東
奥羽中部近畿中國四國地方に次いで、茲には九州地方より始めて以下の四地方
に及ばんとする旨を告げ、本地方の境域を明瞭にせる地圖を示して、本地方の行
政區劃たる八縣の分割を授けるがよい。但し縣名及其管轄區域は教科書卷末
の附録、又は兒童用地理附圖の行政區分圖に據つて、殆ど兒童自ら研究し得るも

第一 九州地方

のであるから、成るべく自動作業に訴へるがよい。又縣廳所在の都市を授けるには、其地點を示して都市名を呼ばしめ、或は縣名を擧げて縣廳所在の都市を指し、或は其名稱及び位置に習熟せしめねばならぬ。教室内或は家庭自習として本地方の行政区分圖を描かしめ、適當なる着色法によつて、其區分を明瞭ならしむる如きは本地方の概觀をなし、縣名、縣廳所在都市名の牢記及其位置境域を明らかならしめる上に有効である。

參考資料

九州の意義 往昔筑紫と稱せしこの地は分つて筑前筑後豊前豊後肥前肥後日向大隅薩摩の九箇國を呼ぶに至つた。これ即ち九州の名の起因である。併し今日の九州地方と稱せられる境域はこの九箇國には止らぬ。西北に基布せる壹岐對馬の二國を加へ、更に西南に列れる琉球の國を併せねばならぬ。依て今日にても壹岐對馬琉球の國々等を屬島と呼ぶに對して、本國の方に九州島の名を以て居る。廣く九州地方と云ふ時には九箇國から成つて居る所謂九州本島と、及び其他の國々である屬島とを指すのである。九箇國を九州と呼んで居たのが、壹岐對馬琉球を加へて十二國となつても九州を冠し、更に今日の行政区劃上八縣に分割するやうになつても矢張り九州と呼ぶのは數の上から不都合を感ぜずには

居られぬ。

皇祖發祥の地だけあつて筑紫の地名は随分早くから知られて居る。筑紫を分つて筑紫火の國豐の國熊會國の四部に分つたのも古い事である。所が筑紫が分つて筑前筑後の二國となり、火の國が今日の肥前肥後をなし、豐の國は豊前豊後に、熊會は後に薩摩日向大隅の三國に分れ、以て九國となつた譯である。多嶺其他の南島が天武の朝に内附してから壹岐對馬と合せて九國三島であつたのが、淳和の朝に種子島が大隅の國の管轄となつて、九國二島(多嶺島を廢せし故に)となり、明治五年琉球が加つて九國三島となり、更に明治十二年琉球藩を廢して沖繩縣を置かるゝに及んで今日の八縣の區分を見るに至つたのである。

二 地 勢

教授の主眼

本島の東南部に連互せる九州山脈と、北部に横たはりて錯雜の地質を生んで居る筑紫山脈とを授け、尙且つこれ等基礎山脈が骨格をなして居る以外に、北部から中部に互つて、恰も筑紫九州兩山系の中間に於ける缺陷部に噴出せる如き阿蘇火山脈と、九州島の南部から更に南方海上に發展して居る霧島火山脈について語り、尙ほ之れ等山脈に屬する著名の山岳の位置と名稱を授けねばならぬ。

河川はたゞに其流程の長短、水流の緩急に着目せしむるのみでなく、此等の河畔及び河口に發達分布せる平野との關係に注意せしめねばならぬ。海岸線の延長、良灣好岬の存在が、本地方文化發達の中心をなせる事實に徴して、自然人事の密接關係を窺はしめねばならぬ。要は地勢上の名稱名目を知らしむるに止らず、本課に於て九州地方の地形及地勢概念を得しめ、山岳、河川、平野の分布、海岸線の出入状態と産業、交通、都邑の發達關係を知らしめねばならぬ。題目は地勢であつても、尙ほ本課の取扱を通して、産業交通の大要、海岸港市としての北部地方の都邑について知らしむる任務のあるを忘れてはならぬ。

敷衍及附説事項

本地方の山脈 (一) 筑紫山脈 九州山脈と共に本地方の骨格をなせる山脈である。筑紫山脈は中國山脈と其系統を同じくし、地質の錯雜せる點に於て殊に其揆を一にして居る。地形の銷衰せる事は中國山脈よりも著しく、今は整然たる一條の大山脈として考ふる事は出来ぬまでに銷磨されて居る。區々の山脈、區區の山塊によつて筑紫山脈の軸線を知る位である。従つて山形は何れも低山性であつて最高峯と稱せられるものであつても尙ほ四千尺に及ばぬ。併しな

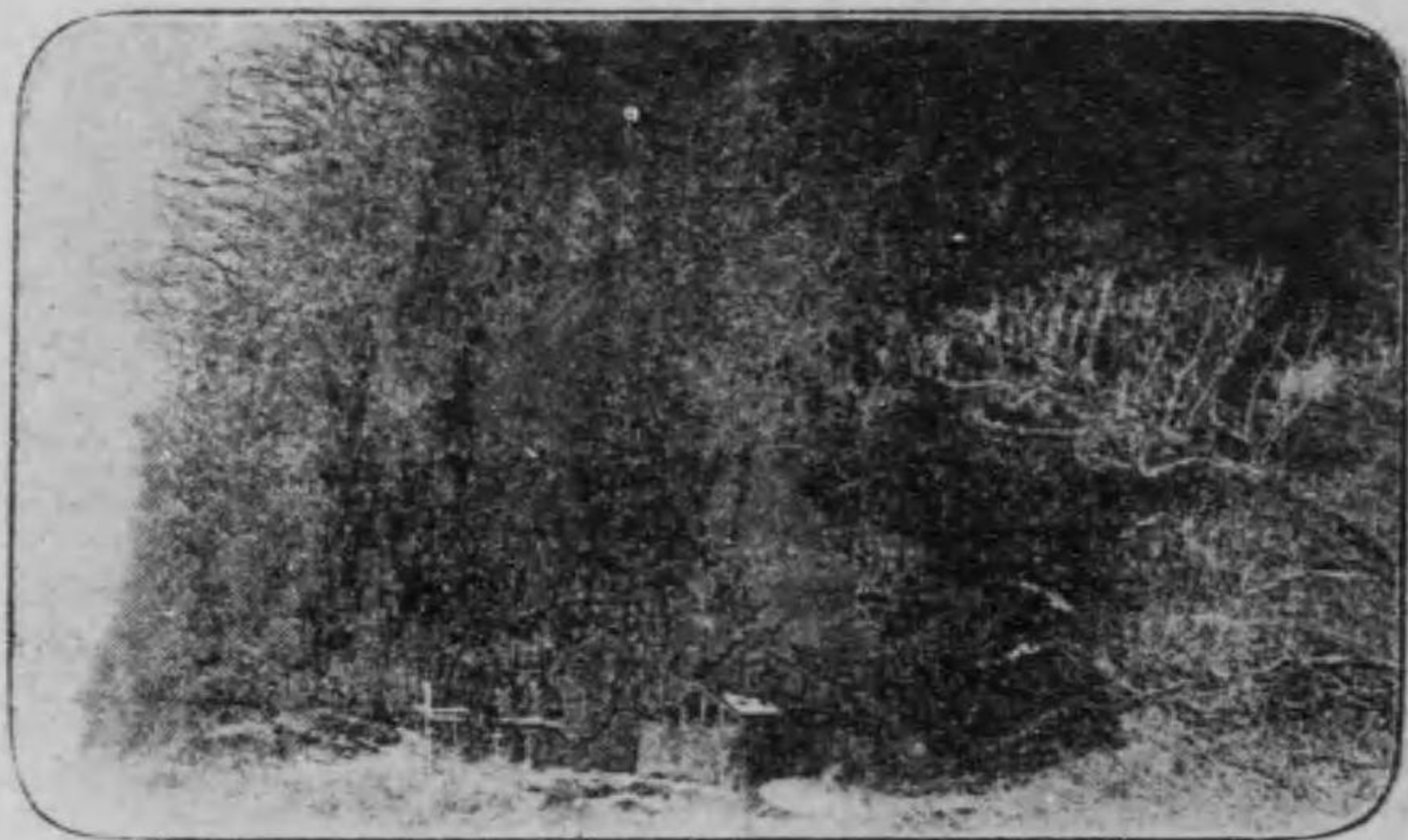
がらこの山脈は石炭を藏する事夥しく、ために筑豊の地は今日の如き殷賑を來せるのである。本山脈の支脈は筑後肥後の境上に蟠まつて居るが、この附近からは陶磁器に適する陶土が出るのでこの地方獨特の製陶業を盛大にして居る。筑紫山脈は別に九州北部山脈の名がある。(二) 九州山脈 筑紫山脈を九州北部山脈と云ふに對し、本山脈を九州南部山脈と呼んで居る。この山脈は其端を豊後水道の沿岸に起して居るが、この附近では其地形、地質殆んど全く四國島の西南岸と同じく、半島或は岬角をなして海中に突出して居る有様や、谿谷、入江、曲灣の變化状態が、丁度摧折した樹幹の兩端を見る様な感がある。即ち本山脈は四國山脈と系統を同じくし、然も連續せるものである。(三) 筑紫九州兩山脈の比較 筑紫山脈と九州山脈とは第一其走向が異つて居る。筑紫山脈は上述せる如く高峻の山が無いが、九州山脈の方には七千尺に近い高峯もある。一連の大山脈は容易に平野を形成する事が出来ぬが、筑紫山脈の如く脈中に低鼻の地を有する場合には、脈中に平野を抱有する事が出来る。即ち九州の北部地方には山脈を縫ふて幾多の平野が點綴して居るのを見るのである。斯の如き有様であるから筑紫山脈の方は交通上にさしたる妨害を與へる事はなく、道路、鐵道は山脈

を横断して敷設されて居る。これに反し九州山脈の方は交通上に大なる障害を與へ、古來本島に於ける東西交通を不便ならしめて居る。更に九州山脈の障壁は本地方東西兩面の氣候に大なる影響を與へて居るが、北部山脈の方は氣候に及ぼす影響があまり大ではない。北部山脈が石炭を産出するに對し、南部山脈よりは金銅を産する如きも其差異の一と見る事も出來よう。

二大火山脈 (一) **阿蘇火山脈** 阿蘇火山脈は筑紫九州兩山脈の中間に於ける缺陷部に噴出せるものであつて、其端を肥前の多良岳に發し、温泉岳に連り、本脈の盟主阿蘇火山に及び、更に東北鶴見岳、由布嶽に延び、國東半島に至つて兩子山を起し、此處から瀬戸内海に没して遙かに四國路に渡つてこの地の火山脈をつくり、再び海に没して紀伊半島に現はれ、終に三河の寶來寺山に終る一大火山脈である。盟主阿蘇山は東西四里、南北六里に互る世界第一の稱ある舊噴火口を有し、更に其中に生成せる五岳の中央火口丘中、其一峰よりは絶えず噴煙して壯觀を極めて居る。阿蘇火山は那須、淺間と共に本邦の三大火山と稱せられて居る。(詳細は參考資料及び挿繪の解説參照)

鶴見岳は別府富士の稱ある由布岳と並びて別府灣頭近くに屹立して居る阿蘇

系の火山である。高さ四千六百餘尺、山頭の東に今尙硫氣孔の存在せるを見る。



温泉岳頂上屏風岩

(挿繪の解説參照) **温泉岳**も阿蘇火山脈に屬する火山であつて、島原半島の最高點をなし、主峯は四千五百尺に及んで居る。阿蘇山と共に二重式火山の標式であつて、火口丘、外輪山、火口瀨、寄生火山等完全に備はつて居る。温泉火山は、西温泉火山、東温泉火山の二つに分れて居る。西温泉火山の噴氣孔邊には温泉の湧出が多いから、この湯を引いて浴舎を設けたもの即ち温泉の温泉場である。浴舎は二千餘尺の高所なる山腹に設けられてあるから、夏季は極めて清涼で避暑に好適である。満山燃ゆる如き初夏の躑躅や、紅楓燦然たる秋の眺めは、一層浴客の心を慰さましめる。由來火山

地方には温泉の數も多いが、就中鶴見岳の麓である別府温泉は其湧出量に於て、將た浴客吸收の數に於て、眞に海内一の稱に背かぬ。普通別府温泉と稱する時

には、別府・濱脇・観海寺・鐵輪・龜川・芝石等の浴場も併せて云ふのであるが、中でも別府・濱脇は海陸の交通も至便であるから浴客群集して四時共に雑沓を極めて居

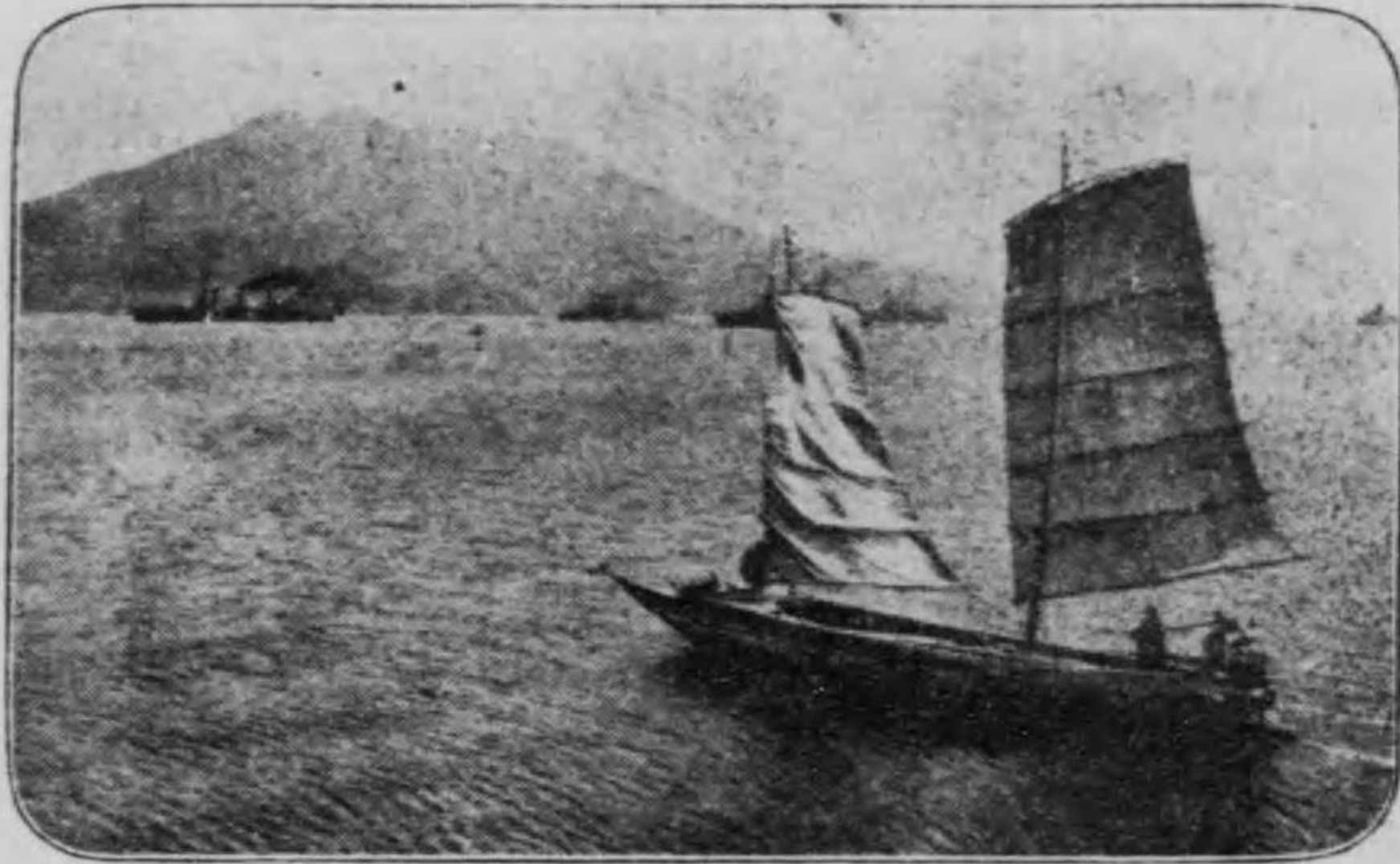


耶馬溪青洞門全景

る。千態萬様の巖の形、其巖の頂をかざる老松の姿何れも趣が多いが、別けて清

これ火山脈通過の一恩恵であるが、更に本邦三奇景の随一なる耶馬溪も火山作用の一副産物といふに至つては一奇である。即ち耶馬溪は古代に於ける火山噴出の熔岩が一面に汎濫せる間を、山國川の溪流が浸蝕作用を逞うして以て今日の奇勝を生むに至つたのである。この耶馬溪は山國川の上流沿岸十八九里に互り上下十三箇村に跨るの大景である。景は山水の眺を恣にし、殊に奇岩怪石の趣に富む。相似の形態になぞらへた鳶岩、人形岩などの名稱を持つた大巖が溪をふさぎ、路を遮ぎつて、次第に迫る谿谷の幽をつくつて居

い溪流の味は又一だんの趣がある。近時新耶馬溪を以て舊耶馬溪に勝ると稱



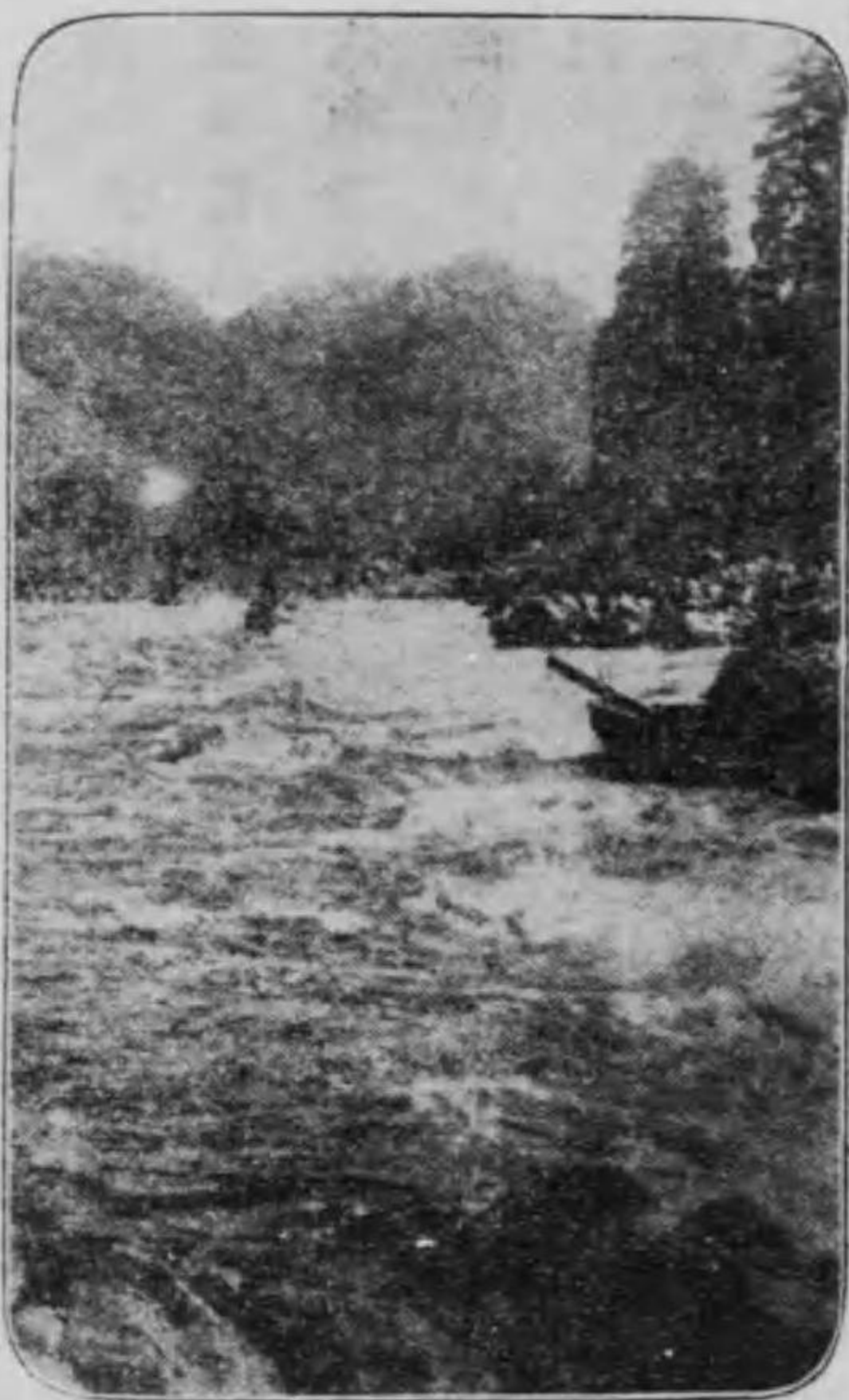
錦江の歸帆

せられて居るが、何れも突兀とした山の奇と、溪流の風致と相俟つて其勝をなして居る。眞に山川の美を兼ねた勝地といふべきであらう。
(二)霧島火山脈 阿蘇火山脈と相對して一方の弱をなすものは霧島火山脈である。遠く其端を薩南諸島の鳥島寶島等に發し、本土に入りて錦江灣口の開聞岳を起し、櫻島となり、更に東北に走つて盟主霧島に連るもの即ち霧島火山脈である。主峯霧島山は鹿兒島宮崎兩縣に跨る一大火山彙であつて、高千穂峯(五千尺)韓國嶽(五千五百尺)を始め二十七座の火口の集合からなつて居る。阿蘇火山と共に古來屢々激烈な活動をして居るが、現時も東邊に高き御鉢からは水蒸氣及瓦斯を噴出して居る。この火山と櫻島と密接關係の存する例證としては、かの有名なる大正三年一月の櫻島大爆發以來俄

かに霧島峯からの噴煙が稀少になつた事である。天孫降臨の所と云ひ傳へられる高千穂峯には、天の逆矛なるものを植ゑて居る。但し之れは往時の社僧が神代の靈矛と偽り立てたものであつて信ずるには足らぬ。櫻島火山は霧島より南に延びたる火山脈が、鹿兒島灣陥落帯中に噴出したものであつて、往時は其名の示す如く火山島であつたが、大正三年の大噴火に際し、熔岩の流れが大隅半島との海峡を充填して今は全く一大半島に化して了つた。櫻島と相對して鹿兒島市街がある。市より望めば櫻島の形は富士に似てや、低く、頂からは微かに白く煙を深はして居る。櫻島の後方大隅の連山が低く裾を引いて雲煙渺茫の間にうつすりと其姿を没するあたり、點々として四五の白帆が眠つて居るなどまるで繪の様である。(挿繪の解説参照)

本地方の河川と平野 九州の河川は多岐の山脈に分割されて、長大なものは少く、又其方向も種々の斜面に流れて居る。一般に山岳式の溪流が多くて平野式の緩流がない。従つて舟楫運輸の便ある河川に乏しい。就中筑紫次郎の稱ある(一)筑後川は筑紫平野の大部を灌漑する九州著名の大河で全長三十六里、舟楫の利便あることも九州第一の川である。正平の昔菊地武光父子が後醍醐天

皇の皇子懷良親王を奉じて、北朝の臣少貳氏の大軍と激戦せし古戰場は筑後河畔中流の大原野である。(二)球磨川 筑後川と共に西流して有明海に注ぐものに球磨川がある。球磨川は古來富士最上の兩川と共に日本三急流とならび稱



球磨川の急流

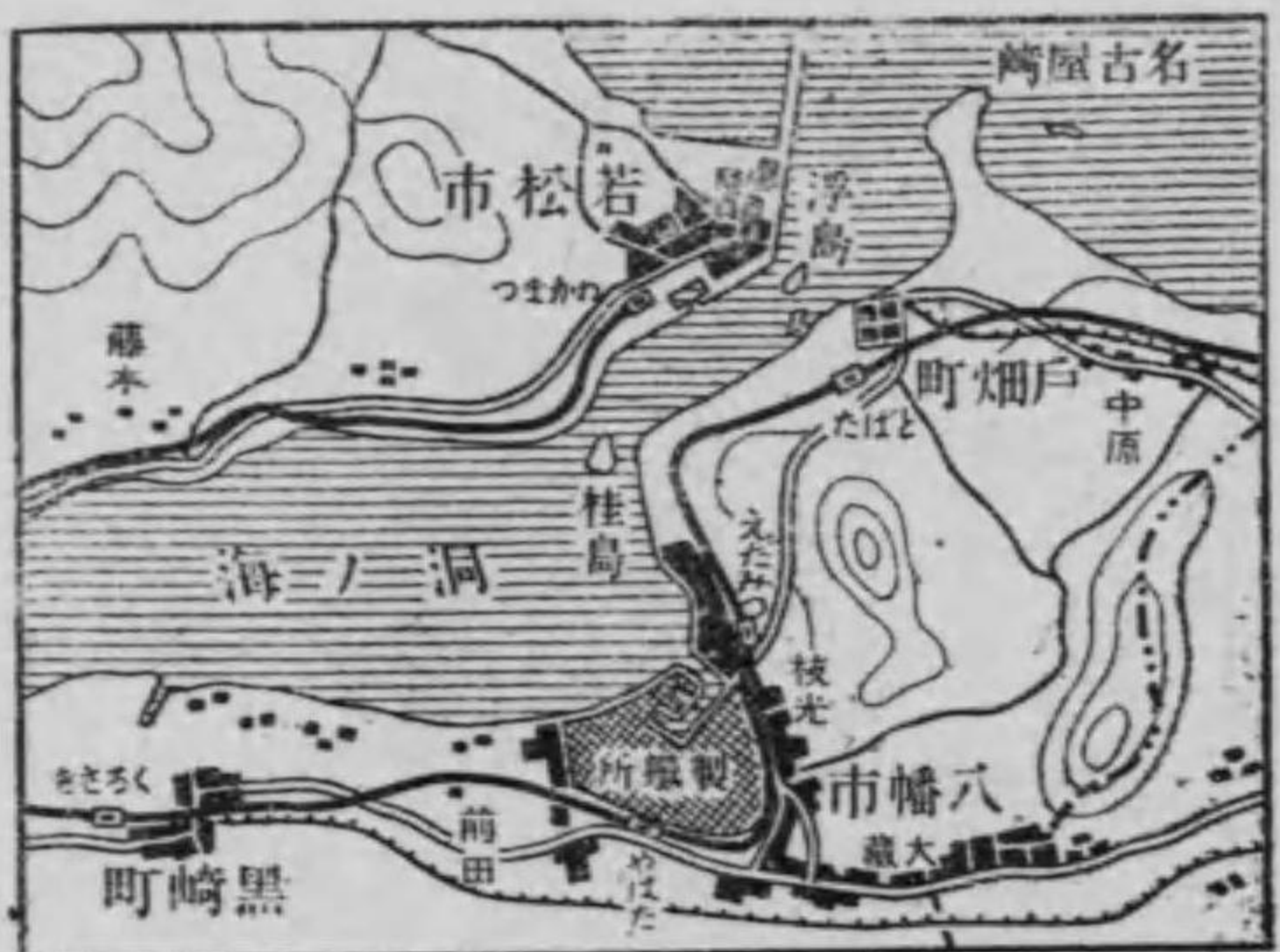
せられるもので、流程二十九里ある。球磨川下りは天下の偉觀であつたが、今は汽車の便によるを以て舟楫の危険を敢てするものはない。人吉から八代まで十八里の行程を僅か半日で下り得るのに、上航は曳船で約三晝夜を費さねばならぬ程であるから、以て其急流なるを知る事が出来よう。鹿兒島本線の汽車の窓から、球磨川の急湍を望み見、途中清正公の岩や槍倒しの嶮の由來を聽くなどは、今は旅行者の娛しみの一に數へられて居る。(三)大淀川 太平洋に注ぐ河川中第一のものであつて、流程二十五里、縣の西北境より來るものと、都城盆地より注ぐ

ものとを合せ東流して宮崎町を過ぎ海に朝すのである。(四)遠賀川 流程十五里、日本海に注ぐ川である。流域は筑豊二州に跨つて居る本邦著名の炭田地であるから、石炭輸送に便益を與へる事が少くない。又沿岸は肥田沃野が開けて居るから、この川は灌漑にも利用せられる。(五)筑紫平野 筑後川流域の平野は九州第一の平野であつて、一望茫漠、溝渠縦横に通じ、田園好く開け、米麥を始め種の農産物を産する事が夥しい。一連の平野には久留米、佐賀、柳河、瀬高、大牟田等の名邑都市が基布散在して居る。

本地方の海岸 單調無變化の東南部海岸が皇祖發祥の地として表はれたるは、海流の關係より生じたる偶然の出來事に過ぎぬ。我が國に於ける文化吸收の門戸が西北海岸であつて、最も早く、人文の發達せるが長崎、平戸附近であつた事は、其位置が西邊にあるといふのみでなく、出入參差たる海岸線の延長は交通上に至大の便益を與へた必然の理由に基くと見ねばならぬ。近時北部の海岸地方が著しく勃興し、西部海岸に代つて文化輸入の門戸、工業發展の中心をなすに至つたのは抑々如何なる地理的關係に基くのであらうか。

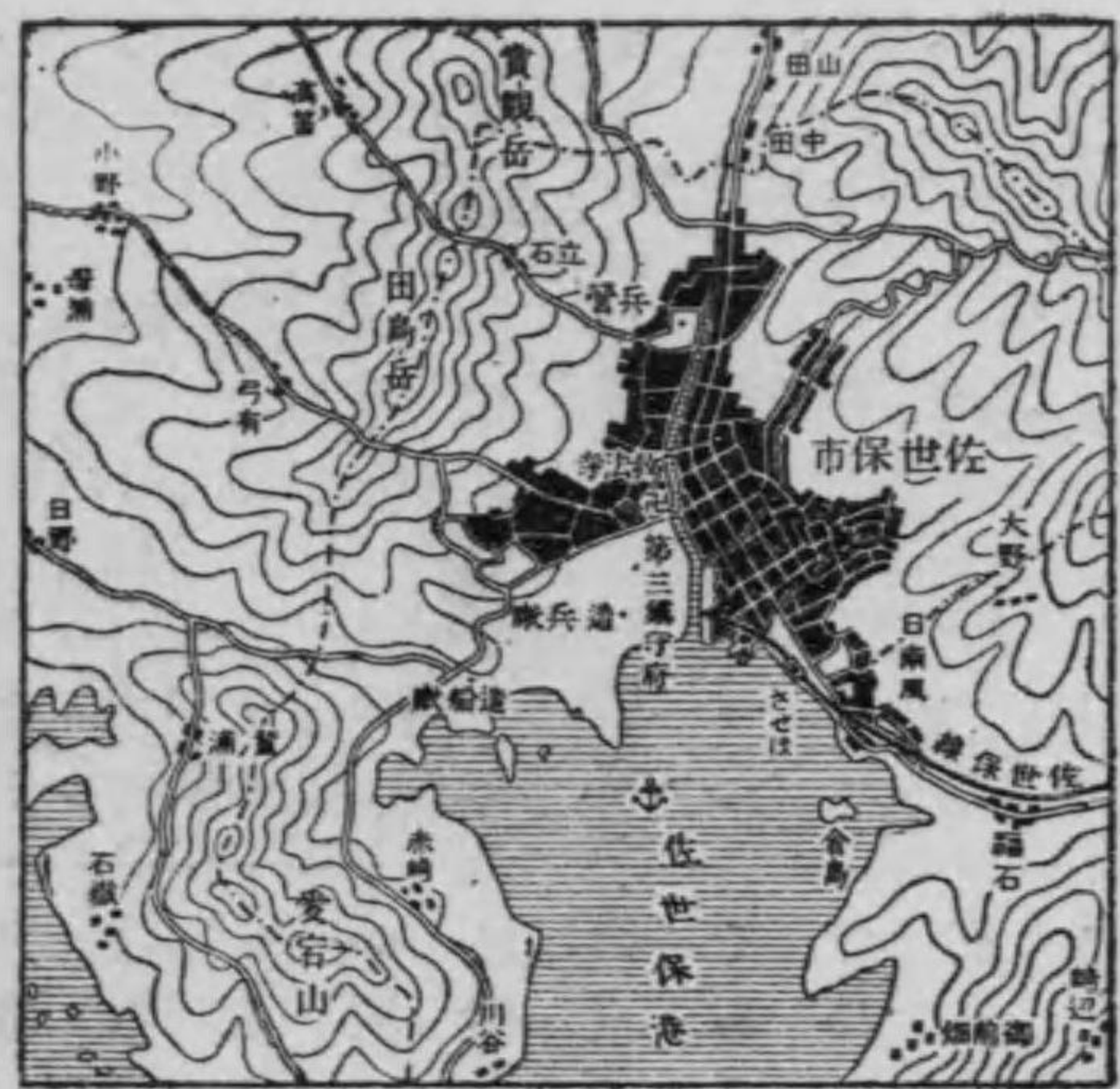
(一)北部海岸 博多灣、唐津灣、伊萬里灣、變入し、北方の海上に壹岐對馬の二島嶼が

横たはつて居る。まづ門司を發して西方に出ると其處は響灘ヒび灘であつて、沿海には洞海くさみのうみの灣口に若松港がある。石炭積出の港として般販を極め、灣澳の東岸に



八幡の製鐵所を控へて居る。玄海灘沿岸には有名なる大砂洲海の中道の突出があつて、この砂嘴に擁せられて博多灣がある。沿海第一の都市福岡はこの灣に沿ひて發達して居る。博多灣は往古に於ては伊勢の安濃津(現今の津市)薩摩の坊津と共に本邦の三津と稱せられ、隋唐との重要關係があつた港津であるが、灣内の廣濶に過ぎるのと通じて水深が大でないのはこの灣の缺點である。唐津灣は博多伊萬里の二灣と共に九州北部の一大海灣である。灣口は廣濶であるが、灣内は小出入頗る多く、西南部の良津唐津の如きは陸地に近接せる大島を以て東西の兩港に分析され、其西港は良好の投錨地をなして居る。この港は古來石炭の積出しを以て世に知られて居る。伊萬里灣は海灣の肢節に富めること唐津灣以上である、其輪廓の複雑で

あること、島嶼の多數散在せることは海灣としては特殊のものである。東南隅に良錨地の伊萬里港がある。總じて北部海岸は出入參差であつて良港多く、朝鮮及び支那との交通上良好の位置に當り、尙ほ且つ沿海平野の發達、本邦第一の



炭田地を控へて居る様な關係上顯著な發達を遂げ、沿海一帯の殷賑を來したのである。
 (二) 西部海岸 西海岸地方の半島、港灣の多いことは全國第一であつて、北松浦、彼杵、島原等の大半島は放逸の状態に突出し、其間に大小無數の港灣を擁して居る。大村灣は彼杵半島によつて包擁せられる大灣であつて、灣内は分れて内外の二灣となつて居る。内灣は四周殆んど陸地で圍繞され、恰も一大湖沼を見る様な感がある。外灣の佐世保港は無雙の良港であつて、此處に第三海軍鎮守府が置かれ軍港である。船渠造船所の設置備はり、本邦西海の要鎮として恥しくない。本邦將來の海防上より云ふも佐

世保軍港は最も重要な位置にあると云はねばならぬ。日清・日露及び日獨戦争に際し、本軍港が其の策源地・兵站地として重要な位置を占めたのは人のよく知る所であらう。彼杵半島の西南外海に面する灣内には本邦著名の開港場長崎港がある。長崎港は多くの島嶼によつて港口を扼せられ、水深も大に、風波の患なく船舶の碇泊に便利である。長崎港外の東南方には恰も指もて西南を指させる如き野母崎が突出して居る。野母崎と島原半島との間は千々岩灘をなし、島原半島と天草島とは早崎瀬戸をなして有明海と天草灘とを接続して居る。海峽を東に入ると半島第一の良港口の津がある。有明海は南部の方を除くと一帯は水底が甚だ浅いので良港に乏しい。僅かに築港の經營によつて開港された三池港がある。三池港は大牟田市の港であつて三池炭坑の隆盛と共に、漸次三池炭の輸出港として港灣の改善を見るに至つたのである。三池炭の輸出は従前は解船で一應肥前の口の津に運び、此處から本船に積み込んで他へ輸出する例であつたが、輸出の増加と共にかくては不便である所から、三井家は獨力この港の築港を計畫し、以て開港場となすに至つたのである。本港の開港と共に以前賑はつて居た口の津の開港場が寂寞を來すやうになり、又嘗て三池炭の

輸出港であつた宇土半島の三角港が同一の運命に陥つたのも同様の原因であつて是非もなき事である。宇土半島から南は八代海で、天草群島と肥後の南部に包まれ一大海湾をなして居るが、沿岸は遠淺で良港に乏しい。(三)南部海岸東に大隅西に薩摩の二大半島斗出して中に鹿兒島灣を抱いて居るの外は概して出入が少く、僅かに大隅半島が日向の都井岬と抱く志布志灣があるばかりである。鹿兒島灣は灣口から其灣底まで大約四十海里に及んで居る。灣中には櫻島火山屹立し、其西方相對して鹿兒島港がある。(四)東部海岸 鶴見崎から南美々津に至る間の海岸は、九州山系の海に終る所であるために、海岸は稍々複雑なる出入をなして居るが、しかし細島港を除いては他に良好の錨地を見出す事は出来ぬ。美々津より更に南四十哩の海岸は屈曲少い一帯の砂濱で投錨地がない。更に長汀より南部の海岸は山岳が海に迫るために沿岸多少の屈曲はあるが、僅かに油津を除いては他に内海を算へる位のものである。殊に太平洋の怒濤は少しの風にも促されて澎湃として打寄せ來るので沿海は頗る不便である。之れ宮崎縣の發達を遲緩せしめた有力の原因でなくてはならぬ。同じく東部海岸と云ふ中にも鶴見岬から地藏岬に至る豊後水道面の海岸、地藏岬から

國東半島に至る別府灣岸、國東半島から門司に至る周防灘海岸等がある。豊後水道海岸には佐伯、臼杵の良灣があるが、灣の後方に平地なく陸上交通が不便な所からあまり振はぬ。別府灣頭の別府港は温泉所在地であるために市街販を極め船舶の着發が頗る多い。國東半島から門司に至る一帯の海岸は弓形に彎入して居るが良港は一つもない。

本地方の屬島 本島の北方對馬海峡には壹岐對馬の二島がある。壹岐は肥前の北岸から十海里餘の所にあつて、周圍三十五里、面積八方里の小島である。従つて我が國では壹岐が最小の國と稱せられてゐる。對馬は壹岐島の西北、三十三海里の沖にある島で、面積は屬島を合して四十四方里に及ぶ。對馬の北端から朝鮮の釜山までは海上僅かに三十海里餘に過ぎぬ。對馬は對馬海峡に於ける重要な位置を占め、日本海と黄海との口を扼するので軍事上極めて大切な所になつて居る。之れを歴史上看るも、壹岐對馬は西邊の要地として防人を置いて防備せしめて居るが、近く日露戰役に際しても對馬が重要な地區に當り、竹敷港を以て上村艦隊の根據地に充てたのであつた。五島は西南から東北にかけて斜めに五十里餘に横がつて居る一連の列島である。五島とは其主島が福

江・久賀・奈留・中通宇久の五島である所から、かく呼ぶに至つたのである。近海には漁撈多く中にも烏賊の漁獲は有名である。又古來五島鯨の名がある。天草



天草島の渡港の上陸の景

島は八代海の西に横たはる群島であつて、分つて上島下島と及び七十餘の小島からなつて居る。島原の亂一揆からこの地は世に知られるに至つた。薩南諸島とは硫黄島種子島屋久島大島等を指す。硫黄島は治承の變に成經俊寛等が流された島であつて、古は此島を鬼界が島と呼んで居た。種子島が天文十二年葡萄牙人來航に際し小銃を傳へた所である事は誰れ知らぬものもなからう。屋久島は全島悉く山地で鬱葱たる樹木が生茂つて居る。更に南方の大島は附近の島嶼と共に砂糖の産出多く、又甘藷大島紬の産出がある。大島紬は品質堅牢高雅であるから世に珍重される。

取扱上の注意

地理的用語 丘陵。屬島。分水嶺。主峯。列島。港市。軍港。△丘陵起伏せるも。地味肥沃。二半島突出。鹿兒島灣をかこひ。此の灣に臨む。

挿繪の解説 (一)阿蘇山 この繪は阿蘇郡宮地町から阿蘇山の北面を遠望した者である。向つて左の山頂鏃齒状をなして居るのが根子岳、中央の最も高いのが高岳、高岳の右方中腹に半月形に表はれて居るのが中岳、最右端は杵島岳であつて、阿蘇五岳の一つである烏帽子岳は杵島岳の左方にあたり、宮地町の森の向ふに僅に二角を表はして居るのがそれである。左端根子岳の手前に山麓が曳いて宮地町に迫つて居るのは昔時噴出して居た阿蘇岳火口の北部を劃する外輪山の一端である。近景の宮地町は人口三千八百餘あつて阿蘇郡役所の所在地である。向つて右方のこんもりと繁つて居るのは官幣大社阿蘇神社宮裏の森で、森の左方に城樓の形した高屋の見えるのは阿蘇神社の樓門である。此樓門は今を溯る八十餘年前の建立で、樓門としては關西に稀なものであるといふ。宮地からは阿蘇の噴煙が見える。併し現時噴火活動して居るのは中岳のみであるが、それすら近來は噴煙が至極穩かになつた。挿繪に見えるのは噴煙ではなくて秋天を彩る白雲の霞けるものである。(二)別府温泉と鶴見岳 この

繪は大分の方面から別府灣を掛けて別府港を望み、遙かに鶴見岳の峻嶺を仰ぎ見た所である。圖の左方の鐵路は豊州線であつて鐵道と相並行して電車の運轉して居るのは別府を發して將に大分に向ふ所である。電車は別府から大分まで殆んど汽車と並行し海岸を走り交通頗る至便である。しかもこの電車は我が國にては京濱電車につぎて出來たといふ舊い歴史をもつて居る。鐵道の彎曲せる所左方より山の迫り居るは四極山であつて、この山は通稱を高崎山といふ。圖には其一部分しか見えて居らぬが、四極山は更に左方に延びて居るのである。遠景として表はれて居るのは鶴見岳であつて、左方最も高く見えるのは其山頂である。鶴見岳は別府富士の稱があるがこの繪ではあまり其眞形が表はれぬ。しかし海拔四千六百餘尺の高峰がしかも海岸近くに聳立して居るから別府市街は之れに壓制されて如何にも窮屈な感じがある。鶴見岳の向つて右方手前の方に扇形をなして居るのは其形になぞらへて扇山と稱する山である。別府灣の奥詰に見える市街は別府町であつて左方高崎山の麓に近きあたりは濱脇町である。別府と濱脇は相接續して一市街をなして居る。(三)鹿兒島港と櫻島 この繪は鹿兒島市の城山より鹿兒島市街を俯瞰し、前面櫻島を望

み見たる所である。口繪の右方に遠く見ゆるは大隅半島の高隈山であつて、今はこの半島と櫻島は熔岩の流出によつて相接續し、櫻島は事實上の半島になつて居る。櫻島の山頂鋸狀をなせるあたりは舊噴火口であつて、大正三年一月の大爆發以來山容稍々變改された。圖の正面高臺狀をなせるは噴火口であつて其手前海岸に迫つて更に臺地に見ゆるは袴越である。袴越の右方に防波堤狀に突出して居るは熔岩の流れて固まりたる臺地であつて、大正三年の大爆發に最も大慘狀を極めたのはこのあたりである。袴越に近く横山相並んで赤水等の部落があつたが、熔岩の埋むる所となつて今は其形もない。殊に櫻島大根の本場として盛んであつた横山部落が事實上の焦熱地獄に沒了したのは誠に悲惨の極みである。横山と赤水の中間に鳥島といふ島があつたのであるが、今は熔岩の下になつて其跡形もない。今新らしき部落は袴越の向つて左方小池に建設されつゝある。小池からは更に左方武につゞく。鹿兒島市街の海岸に防波堤の見ゆるは鹿兒島港であるが、港内狹隘のため大なる汽船は防波堤外を更に左方に進んで碇泊する。

自働作業の指導

(一)九州地方の略圖を描き主要山川を記入し、又港灣、島嶼の名

稱を註記せしむ。(二)本地方の地勢を表記せしむ。(三)本地方の海岸を東西南北の四部に分つて各異同點を列記せしむ。(四)西北海岸が古來文化輸入の門戸となれるを地理上より説明せしむ。(五)海岸の形狀が人文に與ふる影響を本地方海岸の實例につきて説明せしむ。

教辨物の指示 九州地方地勢圖。本邦軍備配置圖。阿蘇火山模型。阿蘇火山別府溫泉耶馬溪霧島火山櫻島火山球磨川佐世保軍港等の繪畫寫眞。三池・長崎・博多・若松・門司等の港灣圖等

參考資料

阿蘇登山 「阿蘇を見ないでは九州に行つたとは云はれない。」

それほど阿蘇は見て來なければならぬ處になつて居る。淺間那須など我國には活火山の数も尠くはない



(む望りよ近附地宮)煙噴大の山蘇阿

が阿蘇程壯觀な火山はない。阿蘇は營に我國第一の火山であるばかりでなく、是程大きな

是程完全した火山は世界にも珍らしいと云ふ事である。いで諸君と、その壯觀に接しよう。熊本から宮地に向ふ汽車の窓から、行手に阿蘇の噴煙が、それと指さされる。立野驛で下車し澄みわたつた秋空の涼しい風に、心も軽く、十町あまりも進むと、道は絶壁に沿うて居て脚



下に滔々たる溪流を聞くことが出来る。此のあたり、所謂阿蘇火山の火口瀬で、又登山道中の一奇景である。右手には、深谷を隔て、俵山の峻嶺が頭を壓せんばかりに立ち、前方には、同じく深谷を挟んで、烏帽子岳がスツクとつき立つて居る。右南郷谷から流れ出た白川と、左阿蘇谷から流れ下つた黒川とが相合して、水勢は益々盛になる。兩川とも多量に火山灰を溶かして居るから、水は淡黒く濁つて居る。然し家のやうに大きな石の無數に轉がつて居る間を、矢の如く流れ行くのである。から、堰かれて飛ぶ泡は雪の如く、悽しい水聲は、百雷の一時に落つる様である。絶壁の腹を削つた道を通つて、戸下といふ地に着く。此處は阿蘇入口最初の溫泉場である。

それから胸突くやうな懸崖を幾度か左折右折して、開かれた爪先上りの道を曲りまがつて行く中に、願みれば、早や戸下の温泉が脚下に見下せるやうになる。深谷に叫ぶ白川の水音を聞きながら、火山灰のホク／＼する道を進むと、間もなく栃木に着く。立野よりこゝまで約三十町もあらう。

此のあたり崖に生えた灌木や葛が紅葉して、中々よい眺めである。

栃木から左、登山道にわけ入ると、途中馬をひいた草刈に、幾度となく出會ふ。上ること一里半許りで、温泉が五六間も懐しい音を立て、噴出する湯の谷につく。歩く道でも、ブツ／＼と湯のじみ出る所があつて、今にも噴き出しはせぬかと恐ろしい。湯の谷から、烏帽子岳を右に見て、身を没するほど深く茂つた薄の道を分けて進むと、千里ヶ濱と名のついた廣野へ出る。このあたり廣々たる野原には、牧場の牛馬などが群れ遊ぶも珍らしい。此處から遠く西の方を眺めると、肥後平野は模型圖を見るが如く、火口瀬を破つた白川は、帯のやうに長く／＼流れて居る。



阿蘇噴火口より烏帽子岳を望む

千里濱から、一里足らずで、小さいお宮の祀られてある所へつく。この宮は、阿蘇山の麓宮地町にある阿蘇神社の奥の院で、此處から中岳の頂上、噴火口のある所までは數町しかない。もう、このあたりは草木は一さいなく、たゞ噴出せる軽石と、火山灰ばかりである。仰げば噴煙は、高く中天に立登つて、其狀龍の天上するかと怪まれ、濛々と噴き出す煙に、天一帯は暗黒である。

頂上には、大なる摺鉢形の噴火口がある。其深さは幾百尺なるか分らない。たゞ地の底から轟々たる響が、恰も巨人のうめくが如くにおこつて来る。濛々と立上る水蒸氣や硫酸瓦斯のさかんなることは、到底口にする事の出来ぬ壯觀である。この噴火口は時々位置を變更する。我等の今立つて居るこの土地から、いつ噴火するか分らないと思へば、身も戦く。天から吹き下ろすかと思はれる、冷い雄大な風に吹かれながら、この大噴煙に對すれば、一種言ひ難い偉大な感じにうたれる。

此處で、辨當を喰べながら眺めると、分け登つた千里濱の尾花は、風に吹かれて、美しい波を立て、居る。西に向へば、左に烏帽子、右に杵島岳があり、高岳は中岳と相並び、根子岳は少し離れて、鋸の齒の様に聳えて居る。遙かに遠く四方を見渡すと、外輪山は丁度屏風を立て廻した様に阿蘇五岳の周圍を取りまいて居る。太古のまゝの阿蘇火山が、如何に偉大であつたか、今更に驚かれる。

いつの間にか背の汗は乾いて、寒氣を覚えるやうになつた。登山記念に、皿石を拾つて、下山の途につく。一度走り出したら、殆んど止る所を知らない程速い。裾野に立つて振りかへると、夕陽を浴びた蘇峯が麗しく、且つ雄大に我等を送つて居る。

三 産 業

教授の主眼

本地方の地勢について復習を行ひ、大要各地方に如何なる産業の發達すべきかを考察せしめ、其理由の發表を基礎とし、順次補成擴充して教授を進めて行くがよい。尙ほ北九州に於ける工業の發達については諸他の地理的關係からこの地が本邦に於ける一大工業地區となつた理由を十分考察せしめねばならぬ。要するに本地方の工業は鑛業の勃興に大なる關係を有つて居る事を明らかにし、この二産業を中心として相關的に教授するがよい。

敷衍及附説事項

本地方の農業・林業 (一) 農業 九州地方は氣候溫暖であつて雨量も多く、加ふるに地味肥沃であるから到る所農業が盛に行はれ、其收穫も少くない。殊に米は

筑紫平野・肥後平野などから多く出し、古來肥後米の名は品質のよいのを以て世に知られてゐる。之れを全國の米産地と比べて見ると、福岡縣の米産額は大正六年に於て二百二十一萬石を超え、本邦中新潟・兵庫の二縣に次いで第三位である。粟の産額は熊本縣が本邦第一に位し、鹿兒島・大分之れに次いで二三位を占めて居る。大豆・小豆等の産出も本地方は少くない。甘藷は其名稱を薩摩芋と稱するだけあつて現時も、鹿兒島縣の産出高は沖繩縣と伯仲し第三位を占めて居る。長崎は鹿兒島について全國第三位、熊本は第五位に位して居る。菜種は福岡縣に最も多く培養せられる。春季にこの地方を旅行するものは誰れも麥圃の間に黄金色せる菜園の點綴されて美觀である事に氣附かぬものはなからう。現に福岡縣の菜種産額は大正六年に於て十三萬一千石に及び全國中の第一位を占めて居る。福岡・大分・熊本の諸縣に木蠟の産出多き事はこれまた全國中の異數である。殊に福岡縣の如きは全國の木蠟産出高の約三分の一をこの縣一つで産出してゐる。木蠟の原料は云ふまでもなく、櫨の實であるが、この櫨は九州北部に多く栽培される。田の畦、畠の隅は云ふに及ばず、山地は櫨の林をなし、屋敷の隅々までも植わつて居る櫨の樹は、初霜かゝる頃になると一面に紅

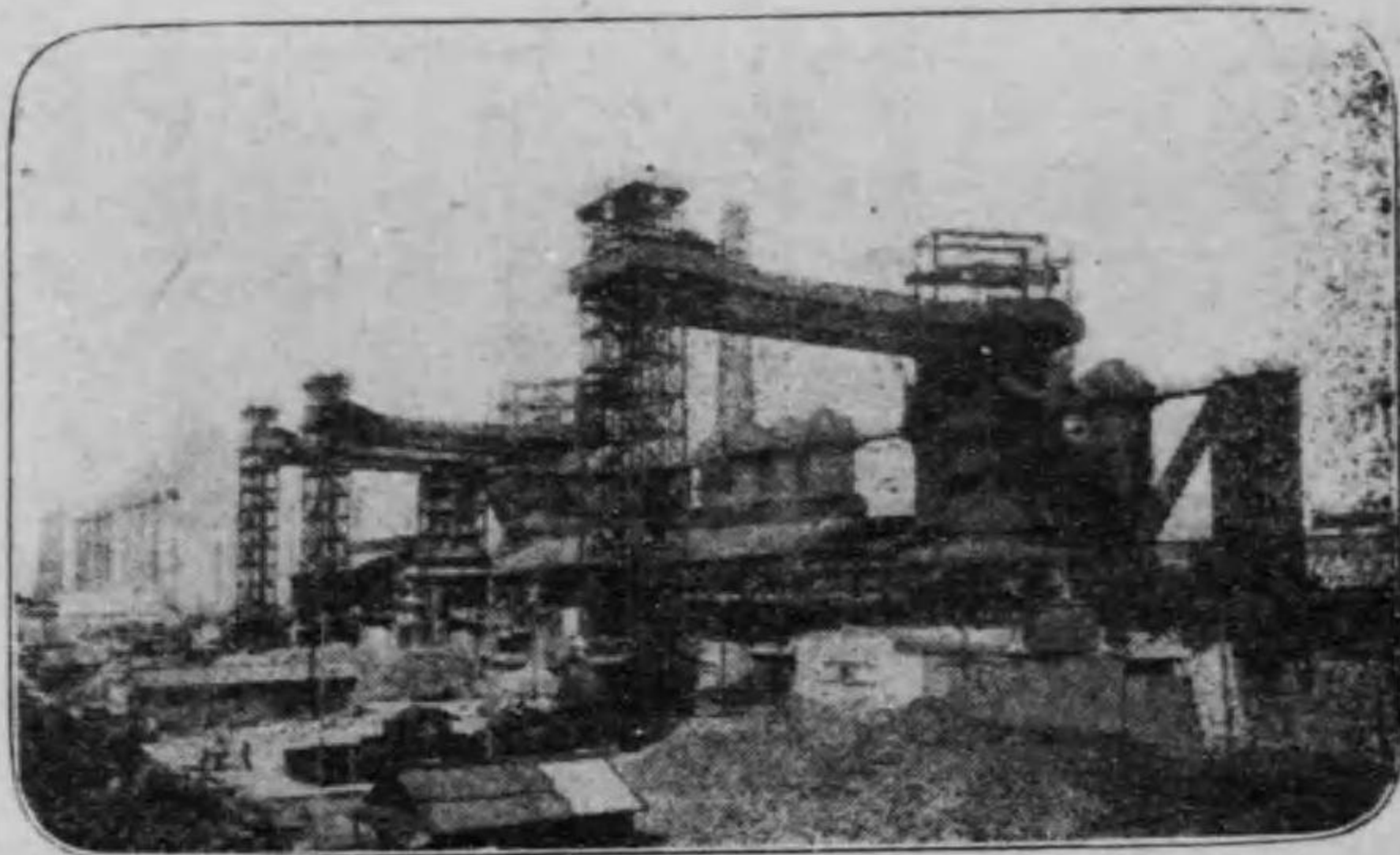
葉して其美觀譬ふるに物が無い。煙草は鹿兒島縣が最も多い。全國内に於ける番附を見るも朽木茨城について第三位で、國分煙草の名は全國に高い。(二)林産は宮崎縣が最も盛である。吉松から鹿兒島線と岐れる宮崎線に乗りて東に進むと、其驛々の廣場には山なすばかり木材が積み重ねられてゐる。停車場の建物は木材の山積で埋まりて居るの觀がある。沿道の山々は他の地方で見ることの出来ぬ鬱葱を表はしてゐる。材木・木炭の外に椎茸も宮崎縣の名産である。本地方の牧畜 古來薩摩馬の名のある如く鹿兒島縣は馬の飼育最も盛に行はれる。最近の飼育高を見るに馬は鹿兒島縣が全國第一位で十萬頭を越し、熊本之れについて九萬頭に及んでゐる。牛の飼育も鹿兒島縣は盛に行はれ、全國中廣島岡山に次いで其飼育數第三位を占めて居る。豚は蕞爾たる沖繩縣が全國中第一位を占め十萬五千頭に及び、鹿兒島縣は之れについて五萬四千頭に達してゐる。之れを要するに九州は本邦中最も牧畜業の發達した所であつて、殊に鹿兒島熊本の如きは其最たるものである。之れ一に地勢との關係に依るものと云ふ事が出来よう。

本地方の鑛業 本地方の鑛産でまづ第一に指を屈すべきは(一)石炭の産出であ

る。其鑛域は九州北部に亙つて居るが大要地方別に示せば、第一を遠賀川流域の筑豊炭田とし、第二を三池炭田、第三を佐賀縣の唐津炭田、第四を長崎の西彼杵炭田とする。就中福岡縣は三池・三井田・大之浦・峰池・二瀬の大炭坑及び無數の小炭坑があるから、其産額も一千二百萬佛噸に及び全國第一位たるは固より、全國總産額の約六割餘を獨占して居る。筑豊炭田には大小無數の炭坑があつて其總額は夥しいものであるが、大牟田の附近なる三池炭坑は一坑區を以て一箇年間に約二百萬佛噸の石炭を採掘して居る。三池坑は明治の初年頃は官有であつたが、明治二十二年から三井家の手に移り以て今日に及んだのである。同年この地に町制を布いた時には人口一萬に過ぎなかつたが、今は人口六萬五千を有する堂々たる市になつた。三池港の開港、大牟田市の繁昌、一に歸して三池炭坑の隆盛に伴つて居る。地圖を披いて見るものは筑豊の野に恰も珊瑚樹を畫いた様に鐵道線路が敷設されて居るに驚くであらう。これ皆炭坑と積出し港若松とをつなぐ運炭専用線である。この附近刻々運び來る炭車の數は幾百千を知らず實に壯觀である。(二)金は鹿兒島縣を第一とし、縣内には三井串木野・山ヶ野・芹ヶ野・大口・牛尾等の金山がある。大正五年に於ける本縣の産出額は三

百七十五貫匁で、茨城縣の八百六十三貫匁に及ばざる事遠しであるが、しかし茨城縣日立の鑛山は同所より採掘する量は少く、多くは他地方産出の鑛石をこの地に輸送し、此處で精鍊するから産額は著しく上つて居るのである。依て内地では鹿兒島縣が一番多く金を採掘して居るといつてよい。

本地方の工業 (一)我が國工業の一大地區 門司から若松へかけての沿岸地方は大小無數の工場櫛比し、煤煙天を焦し、機械運轉の騷擾耳も聳するばかりである。何故この地が一大工業地區になつたかといふと、第一機械工業の原動力である石炭が附近にあることが大なる理由である。第二には支那朝鮮臺灣南洋等から原料を得る上にこの地は至便であるといふ事。第三には現時の工業は内地の要を以て満足する事は出来なくて、遠く海外へ輸出せねばならぬが、其上から見てこの地方は製品輸送上の便利がある事。第四には工夫工女其他の職工を雇入れる上に比較的人口稠密のこの地は便益であるといふ事等が、この地を一大工業地區とした有力原因であらう。(二)八幡製鐵所 中でもこの附近に於ける工業の王は八幡市に設けられてゐる官設製鐵所であつて、規模の宏壯、經營の偉大眞に東洋無雙の大工場といふ事が出来よう。本所は明治二十九年の



八幡製鐵所(鑛鐵爐全景)

創業で爾來農商務省の管理に屬し盛に製鐵に従事してゐる。原料は支那大冶鑛山朝鮮の載寧鑛山及び岩手の釜石鑛山等で採掘した鑛石を用ひてゐる。製鐵所構内は約八十萬坪の面積を有し製品及び材料運搬の爲に敷設した軌條の長さが六十六哩に及んでゐる。大正五年に於ける生産高は銑鐵八千九百三十六佛噸、此價格六十萬七千七百七十五圓、鋼鐵二十萬千九百七十七佛噸、此價格四千二百九十七萬千三百二十一圓に達してゐる。もと蕭條の一寒村が今や人口七萬八千を有する大都會に變じたのも全く此製鐵事業の賜である。濛々たる煤煙の昇騰、錚々たる機械の音響、耳を聳し目を驚かしむる壯大の光景は枝光から八幡に至る汽車の窓から眺め得られる。(三)諸種の製造工業 門司から若松に至る一帯の海岸で行はれる。まづ下關から望み見ると對岸の門司市街の屋上が白くなつて居る所が旅客の注意を

惹くが、之れは淺野セメント工場の存在せるためだといふ事が直ぐ數基の大煙突によつて首肯される。門司から程遠からぬ大里の附近には神戸製鋼分工場、鈴木酒類醸造場、鈴木大里製粉所、大日本製糖大里工場、九州電線會社、日本金屬會社、帝國麥酒會社などの大工場がある。十二師團所在地である小倉の附近には東京製鋼第二工場、西部合同瓦斯製造所、小倉製鋼所、大正電球會社、小倉製紙會社、東洋陶器會社、九州電氣發電所、九州電氣化學場、丸管小倉工場、大阪曹達會社工場等がある。戸畑の近所には戸畑耐火煉瓦製造所、三笠コークス製造所、戸畑礦物會社、明治製糖會社、日本耐火煉瓦會社、明治紡績會社があり、枝光の近くに九州化學工業商會、安田製釘所、九州耐火煉瓦會社、旭硝子會社、三菱炭製造所等がある。八幡を過ぎて黒崎に至ると驛の近くに品川白煉瓦會社、中央セメント會社、安川電機製作所などの工場がある。其他小さい工場になると列擧に遑がない。(四) 有田の陶器。有田焼は一名伊萬里焼とも云ふ。これ大河内、三河内、有田の三所から産出する陶器を伊萬里に送つて此處から四方に輸送したので、其輸出港の名を冠して伊萬里焼ともいふに至つたのである。有田焼の起因は慶長三年征韓役からの歸途、鍋島侯が朝鮮人李參平といふものを伴ひ歸り、このものがこの



長崎造船所

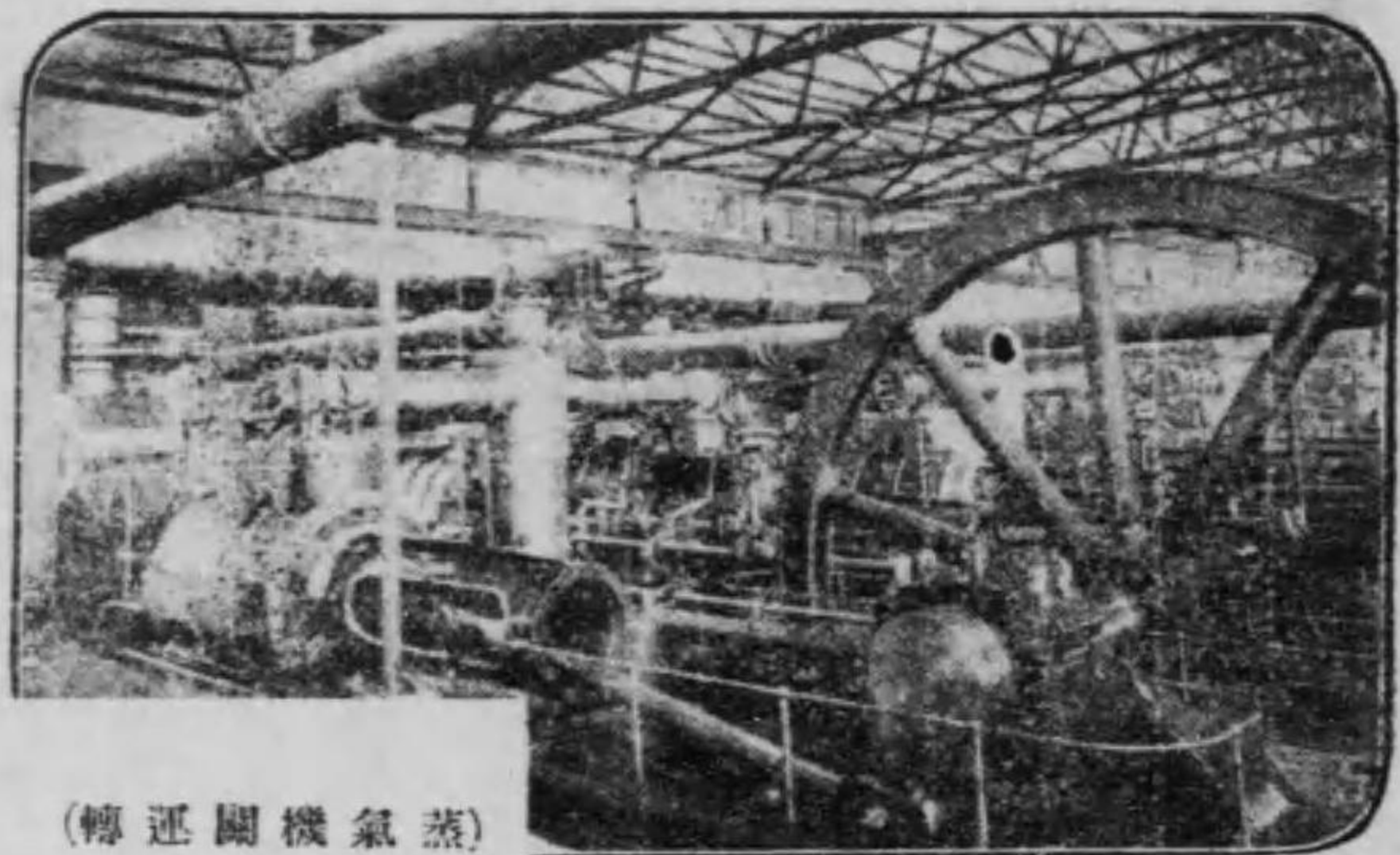
地に良好の陶土を發見して、純白の磁器を製作したのに始まる。爾來三百年、幾多の改良工夫を加へて以て今日の隆盛を來すに至つたのである。(五) 長崎の造船。長崎には有名な三菱造船所がある。この造船所は安政年間に起業したもので、當時は幕府の經營であつたが、明治十七年から民間に拂下げられ、以て三菱の所有に歸したのである。今や面積十萬餘坪を領し、海岸二十七町に亙る大規模の造船所となつて居る。民間の造船所としては日本第一なるは固より又東洋随一と稱すべきである。(六) 久留米。今より百二十年前、井上傳なる一女の織り出したる織物であるが、爾來幾多の意匠を加へ、以て今日の盛大を來すに至つたのである。品質堅牢、洗濯するに従つて黒白が判然する所にこの緋の特色がある。薩摩緋に次いで色の褪せぬ織物である。(七) 豊表。別府灣沿岸及び國東半島に産する七島繭を以て織出す豊表は大分縣の主要産

であつて、年額百萬圓を超え、廣島縣に次いで全國第二位に居る。
 本地方の水産業 鮭は長崎を第一とし年額五六十萬圓に上る。本縣は地勢上
 六百七十里に亙る海岸線の延長を有して居るから、従つて漁撈の業は早くより
 發達し、水産漁獲物、水産製造物共に北海道に次いで其額が多い。五島鯨の名も
 世に知られて居るが、五島の近海からは又珊瑚を産する事も多い。我國に於け
 る珊瑚の總産額は、大正四年に於て五十八萬圓餘であるが、其中四百七十七萬圓
 は即ち本縣主として五島附近の産出である。古來、土佐珊瑚を以て知られて居
 る高知縣の如きも其産額は長崎縣の五分の一に過ぎぬ。牡蠣は有明海の北岸
 に多く産し、全國中佐賀縣は第一位の産額を占めて居る。

取扱上の注意

地理的用語 櫛の實。炭坑業。流域。官設製鐵所。製鍊所。工業地區。製陶
 業。輸出。△牛馬の飼養。總産額の過半を占む。石炭の供給。牡蠣の養殖。
 珊瑚を採集す。

挿繪の解説 (一)八幡にある製鐵所 東洋第一の大規模と稱せられる八幡の官
 設製鐵所を寫せる繪である。圖は製鐵所の東南熊本山から眺めたるものであ



(轉運機氣蒸)

八幡製鐵所

つて背景として遠く見ゆるは若松の方面である。
 圖の中央から少しく左方に見える大煙突は、鑄鐵
 爐の煙突であつて、鑄鐵爐には捲揚機によつて捲
 揚げたる鑄石を運搬し來るため、高き軌道の裝置
 がある。附近の煙突は熱風爐の煙突であつて、左
 方に小なる煙突の群立して盛に煙を出して居る
 のは中央汽罐場である。圖には又炭車の軌道や
 諸作業場が見えて居るが、若松方面からの石炭や
 支那太冶鑛山から輸送して來た鐵鑛の陸揚をな
 す海岸方面が表はれて居らぬは遺憾である。こ
 の圖に表はれて居るだけなら、枝光停車場附近か
 ら汽車の窓より半身を出しても眺められる。

(二)有田にある陶器製造所 有田町には深川工場を第一として大小六七の製陶
 工場がある。其他に家庭工業として陶器を焼いて居るのは殆んど各戸毎であ
 るから、有田町全體は陶器製造の町といつてもよい位である。これ等製陶の原

料は附近の泉山と稱する山から出る。この泉山は全山殆んど良質の陶土からなつて居るといつてよい。有田町が陶器業の盛んな譯も歴史的に人の力もあるが、畢竟はこの泉山がある事に起因する。然るにこの泉山の陶土は無盡藏とさへ云はれて居る程であるから、將來この地の製陶業は益々有望である。有田の陶器は伊萬里に輸送し此處から各地に積出す。伊萬里焼の名はこの輸送港の名を冠したのに過ぎぬ。

自働作業の指導 (一)九州地方の略圖を描き主要産物名を各産地の上に註記せしむ。(二)米・菜種・煙草・金・蠶・表等本地方の産物教授に際し既授の地方に於けるそれ等の産出地を悉皆列記せしむ。(三)本州地方の物産中より所謂特産物を摘記せしむ。(四)北九州地方に工業の發達せる理由を箇條書せしむ。(五)官設製鐵所を何故此處に設けしか其理由を推究せしむ。

教辨物の指示 檜の實・木蠟・石炭・蠶・表・久留米・耕有田・燒珊瑚・細工品等の標本。三菱造船所有田製陶工場・八幡製鐵所及び各種製造工場の繪畫・繪葉書類。九州地方産物分布圖。九州北部炭坑分布圖。米・甘藷・菜種・木蠟・茶・煙草・砂糖・錫・珊瑚・鯨節・蠶表の各本邦主要産地比較圖。本邦の石炭主要産地産額比較圖。

參考資料

石炭發掘當初の歴史

(一)筑豊・炭田 筑豊炭の發見せられたのは寛延年間の事である。

當時の藩主黒田繼高が長政の遺志を繼承して堀川を開鑿して居ると黒い色をした石を發見したが不思議に其石が燃えるので、爾來附近の者は隨意にこの石を掘採つて燃料に用ひてゐた。明和年間になつて若松の庄屋に和田佐平といふ者があつて製鹽業に従事して居たがこの石を製鹽業に利用する考から盛んに採掘した所が圖らずも幕府の譴責に遇つて獄に下された事實がある。幕末頃この石炭が蒸氣船の燃料に好適である事が分り、爾後御用炭と名づけて若松藩から江戸へ向けて發送する事になつた。(二)三池炭 今を距る事四百餘年前の文明年間に三池郡稻荷村の一農夫が今の大浦坑附近の稻荷山で柴を刈り、枯葉を集めて暖を取つて居た所が偶々黒色の岩片が燃焼して居るのを見て、始めて燃える石なるものを發見した。是れ即ち三池炭發見の始めだと云ひ傳へて居る。

米の主要産地(大正六年)

新潟	二、八九〇、四一一	兵庫	二、三五三、二三六
福岡	三、二二一、二五八六	愛知	一、七五一、〇七〇
全圖	五四、五五九、三三八一		

甘藷の主要産地(大正五年)

鹿兒島 一五二、二四三、七七一
千葉 六〇、一五四、五九五
全國 一〇九二、〇二六、六〇四

沖繩 一三三、八九四、九四五
長崎 九九、八〇八、七一〇

菜種の主要産地(大正五年)

福岡 一三二、一二三
滋賀 六三、八一二
全國 八六九、七七三

鹿兒島 九二、六五四
三重 七〇、六四三

木蠟(生蠟)の主要産地(大正五年)

福岡 八四、七三、八八
大分 二七、三五、二二
全國 二、五六、六八、六九

愛媛 四六、四三、〇九
熊本 二一、六三、九七

葉煙草の主要産地(大正五年)

栃木 一九八、七三、二一
鹿兒島 一七〇、二四、一一
全國 一、二七、七八、三二、五

茨城 一九三、八三、四四
徳島 一〇、二四、七、六九

砂糖の主要産地(大正五年)

沖繩 九二、四六、〇一
香川 八二、〇七、一〇八
全國 一五二、八九〇、六四三

鹿兒島 三三、五四、二三、五六
徳島 二七、七〇、九四、四

錫の主要産地(大正五年)

長崎 一〇七、七二、四〇
岩手 二三四、六二、三
全國 八〇八、三九、九五

青森 三〇、五六、九〇
沖繩 二一〇、二九、五

牡蠣の主要産地(大正五年)

佐賀 一九〇、〇〇八
熊本 三八五、九二
全國 六八〇、二八、三

廣島 一三七、五九、〇
宮城 二三二、八四

珊瑚の主要産地(大正五年)

長崎 三〇、一七、五〇
鹿兒島 六四、〇二〇
全國 五六五、五三〇

高知 一八二、五一一
愛媛 一七二、五〇

錐節の主要産地(天正五年)

靜岡	一六七二・三六五
愛媛	六五〇・一五三
全國	七、七二九・八三〇

鹿兒島
福島

一、五四〇・五六八
五九三・六二二

墨表の主要産地(天正五年)

廣島	一、七三八・八一五
岡山	七八一・六六二
全國	六、五一九・〇二八

大分
靜岡

一、七二八・四〇五
三二一・六五五

石炭の主要産地(天正六年)

(炭坑名)

三池	夕張	三井田川	大之浦	峯地	二瀬
----	----	------	-----	----	----

(所在地府縣)

福岡	石狩	福岡	同	同	同
----	----	----	---	---	---

(産額)

二、〇〇七・九三四	二、三七六・六六〇	九八八・四六四	九七八・六九七	六四〇・一六四	六三四・四二五
-----------	-----------	---------	---------	---------	---------

金の主要産地(天正六年)

(鑛山名)

日立	三井串木野	小坂	佐賀關	佐渡	山ヶ野
----	-------	----	-----	----	-----

(所在地府縣名)

茨城	鹿兒島	秋田	大分	新潟	鹿兒島
----	-----	----	----	----	-----

(産額)

六一四・六六一	二、三〇五・八二	一九八・二三三	一、三〇〇・五八	一二二・五七七	八七七・六五
---------	----------	---------	----------	---------	--------

四 交通

教授の主眼

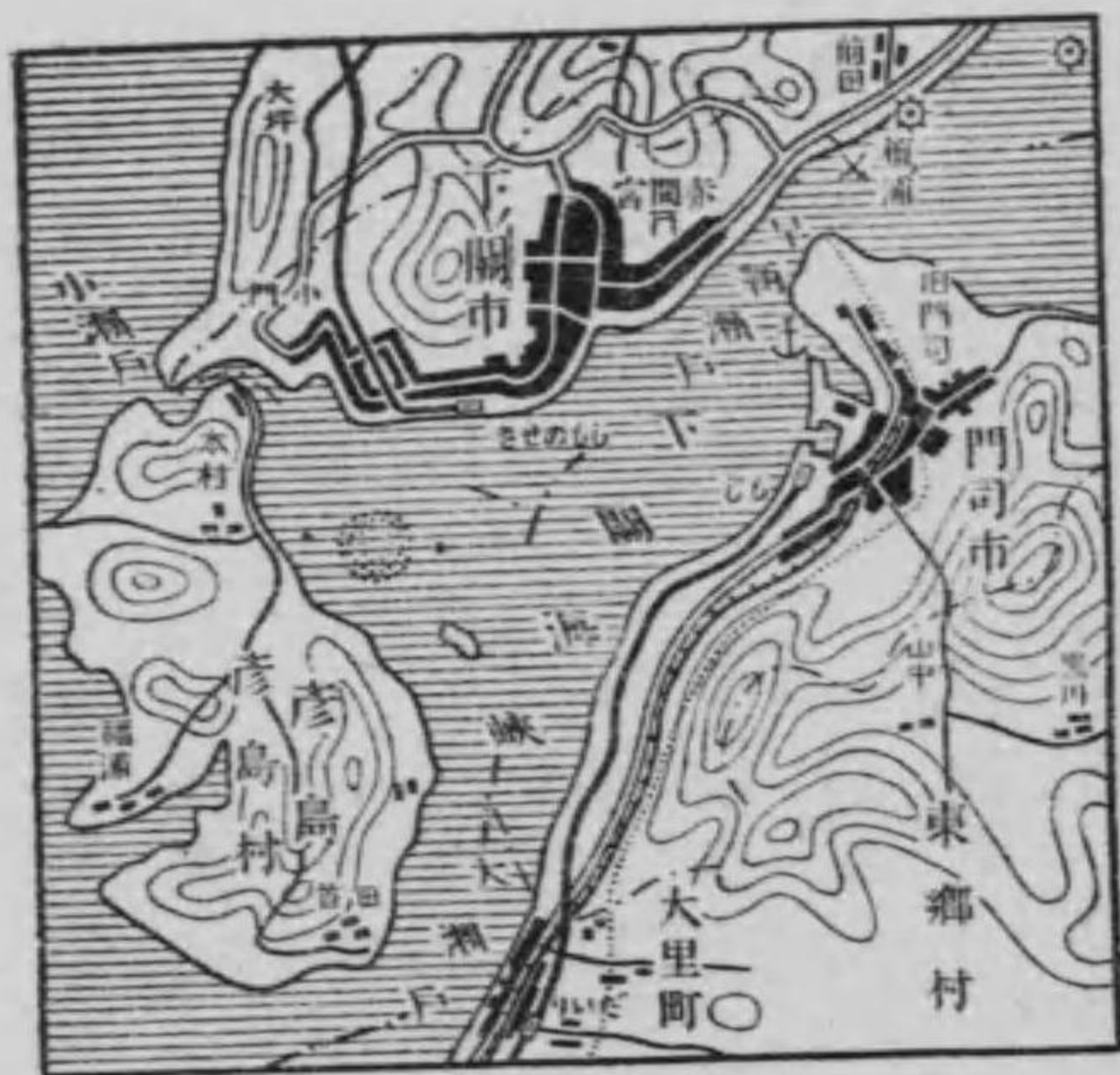
門司より鹿兒島及び長崎に至る主要幹線及び門司・長崎を中心とする内外航路の大體を知らすのが目的である。併し教授に際しては單なる交通系の教授に

終らず沿線に於ける諸他の地理的説明を加へ以て地勢産業の教授を復習し、都會教授の豫備に資せねばならぬ。

敷衍及附説事項

本地方の鐵道 (一) 鹿兒島線 鹿兒島線とは門司鹿兒島間の二百三十八哩八分と、外に室木線、篠栗線、宮地輕便線、三角線の總稱である。本線は門司を起點として九州を縦貫し鹿兒島に至るもので、帝國鐵道幹線の一部をなすものである。本線は小倉で豊州線を岐ち、折尾で筑豊線と交叉し、鳥栖からは長崎線を分岐し、尙ほ吉松よりは宮崎線を岐つて居る。門司鹿兒島は毎日の直通列車の運轉があつて、中一回は急行であるから約十時間で鹿兒島に達する事が出来る。別に又長崎鹿兒島間の直通列車が日に一回づゝあるが之は約十七時間を要するのである。山陽線とは海峡聯絡船を以て相聯絡を保ち、少しも不便を感じない。まづ門司を發して西に向ふと、筑豊炭田より送り來つた石炭が累々と積み重ねられて居る状態を見、或は陸續として來る貨車に何れも煤炭を山積して居るのを眺めて直ちに九州の富を想はずには居られぬ。沿道諸種の大工場が設けられ、大小の煙突よりは濛々と煤煙の天に沖するを見、又錚々たる機械運轉の響を聞

く事が出来る。大里からは右窓に白沙青松の風光を恣にする事が出来る。戸畑から汽車は洞海に沿うて走る。やがて煙突林立し、煤煙空を覆うて悽狀の感に打たれる八幡の製鐵所に來る。戸畑のあたりからは對岸の若松港がそれと



指呼される。折尾赤間・福岡等の驛を過ぎると汽車は多々良川を渡つて風光明媚の松原を右に見つゝ進む。箱崎から博多に至る間は満目みな青松。これ世に有名な千代の松原であつて、宮崎宮や龜山上皇日蓮の銅像などは何れもこの中にある。博多から汽車は南に向ひ檣樹相連れる島地、菜園、稻田相續ける間を過ぎて筑後川の長橋を渡り切ると其處は久留米、緋で名高い久留米市である。久留米から更に南して

大牟田に出ると有明灣の碧波が雙眼に入る。雲煙遙かあなたに鳥原の温泉岳を望み見る事が出来る。左に田原坂の古戰場を見つゝやがて汽車は熊本市に入る。十年役に名高い熊本城の外廓を後にして進むと、左窓遠く阿蘇の靈峯

を観る。八代からは球磨の急流に沿うて汽車は喘ぎ／＼上る。沿路の絶勝壁ふるに物なく進むにつれて景は幽邃となり人吉を過ぎると汽車はいよ／＼急勾配の矢嶽峠にかゝる。ループ式軌道は知らぬ間に山を一回轉して矢嶽の峻を越して居る。矢嶽の大隧道を出ると霧島の峯巒が見える。急勾配の線路を下つて眞幸を経、益々南すると錦江灣頭の國府に出る。國分からは左に一衣帯水を隔て、櫻島の秀嶺を仰ぎつゝ、山の出づ鼻を廻つていよ／＼列車は錦江の白波が眼下によせる海岸を走る。幾つかの隧道を出入して居る中に車窓の明るくなるまゝに眼を放てばこゝは早や鹿兒島市。(二)長崎線 長崎線の本線は鳥栖で鹿兒島本線と岐れ、それより長崎に至る九十八哩六分間である。此線には途中唐津に通ずる唐津線、伊萬里に通ずる伊萬里線及び佐世保までの佐世保線が支線となつて分岐して居る。門司長崎間には本線内に於て四回の直通列車があり又鹿兒島まで一回の直通列車がある。門司からの急行は約六時間半を要し、鹿兒島から約十七時間半かゝる。鳥栖からは筑後川下流の平野を西南に走つて佐賀に着く。佐賀の西方久保田からは西北に唐津線を岐ち、有田からは伊萬里線を北に分岐し、早岐からは佐世保線を西に岐つて居る。是から本線

は南に折れて大村灣の風光を右窓に觀ながら山又山灣又灣頗る變化に富んだ間を車窓からの眺望を恣にしながら諫早に着く。こゝは鳥原線の分岐をなす所である。西南に向つて汽車が再び方向を南に轉じ灣に離れて進むとやがて長崎市に着く。



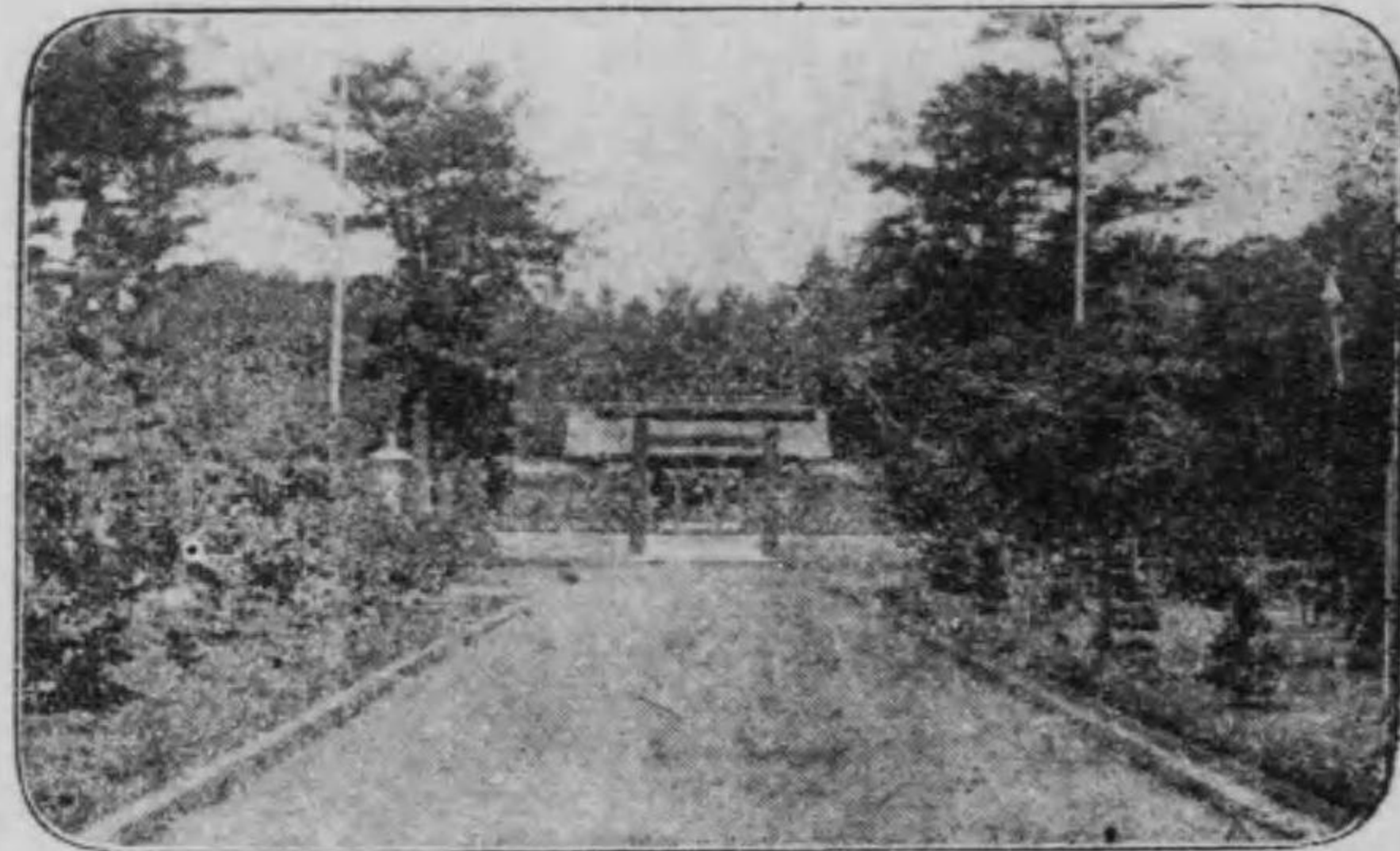
(宇佐神社) 大分県田代

(三)豊州線 豊州線とは小倉から鹿兒島本線に岐れて九州東海岸を走り、中津別府大分を経て佐伯に至る線である。將來は佐伯から南して延岡に至り、遂には宮崎と相連續する線である。列車は門司から大分まで

で二回、佐伯まで四回の直通列車がある。門司から大分までは四時間、佐伯までは約六時間かゝる。小倉で鹿兒島本線に岐れ曾根から海岸に出で南に進むと中津につく。中津の町家を見ながら渡る川は山國川で、奇勝として知られてゐる耶馬溪はこの川の上流にあるのである。中津から汽車は右に八面山を見な

がら、海沿ひの地を東に進んで宇佐八幡參宮鐵道の接續點である宇佐に入る。宇佐からは躰て地は豊後の國になる。國東半島の頸にある所を横に切つて進むと日出に出て別府灣の風光に接する。日出から汽車は別府灣の岸を走る。左には碧波を眺め、右には鶴見火山の雄姿を仰ぎ見ながら、躰て湯の池湯の瀧湯の川を以て埋められて居る天下の名泉別府に着く。世界無類の砂湯を試み、温泉場巡りに一兩日を費して再び汽車に搭すると、汽車は海岸を走つて間もなく大分に着く。別府・大分間は電車の便もある。大分を後に大分川を渡つて佐賀關半島の根元を通過すると臼杵灣岸に出る。臼杵から蜜柑の累々と實つた山地を眺めながらだん／＼進むと佐伯に着く。(四)宮崎線 宮崎線は吉松から鹿兒島本線と岐れる。加久藤飯野などいふ驛を過ぎると、次第に左右の平野が高原性を帯びて来る。木材集散の盛な小林町を過ぎる頃から高千穂峯が手近く見える。高原性平原の中心である高原から一里足らずの所には神武天皇の御誕生地である狭野があつて、此處には天皇を祀つた狭野神社がある。高原からは參拜者のために乗合馬車の便もある。又霧島登山者は此高原から狭野社前を過ぎ、霧島東神社に詣で、登山するのが普通である。神社から頂上迄は約一

里半位のものであらう。高原から三つ目の驛が本縣第一の都會都城である。



宮崎大神宮

人口二萬五千製絲業の盛な町である。都城から宮崎までは随分山が多い。汽車は幾度か隧道を抜け北に東に山又山を迂回して進む。宮崎に程近き大淀からは内海行の輕便が出て居る。大淀川の鐵橋を渡ると其處が宮崎町で、町には官幣大社宮崎神宮がある。神域の宏大清掃、華表を潜ると早や神靈の壯嚴にうたれる。宮崎からは妻といふところまで輕便鐵道が行つてゐる。(五)筑豊線 筑豊本線は石炭積出し港である若松を起點として南筑豊炭田地に延び、上山田といふ所まで行つて居る。これに香月線伊田線桐野線幸袋線長尾線などの各支線が枝狀に發しそれ／＼炭坑地に向つて居る。別に運炭専用線が炭坑と驛との間をつないで居るから線から支線へ、支線から専用線へと恰も珊瑚樹を描いた様に線路が擴がつて居る。

海上の交通 (一) 門司港 は我國第四、九州第一の貿易港である。呼べば應へんとする下關市との間の海峡にはランチ、艇舟等入り亂れ、大小の汽船の發着絶えず、般販といふよりは寧ろ混雜の感がある。門司は九州の門戸であるばかりでなく、本土九州の連絡點であり、又朝鮮支那との連絡關係がある。加ふるに豊裕な石炭産地を控へて居るから大小の船舶は必ず此處で石炭を滿載して出發する。内地沿岸航路は固より、歐洲航路、北米西廻航路、南米西廻航路、南洋航路、上海線、北支那線、大連線等の航路に従事する大汽船は必ず此處に寄航する。水陸



共に交通の至便なことは恐らく全國無比といつてよからう。(六) 長崎港 天正の昔、西班牙、葡萄牙の商船が來航してからこの港は外國交通上唯一の門戸となり、西洋の文化吸收の玄關口となつて遂に西海第一の都會となつたのである。

しかしながら近時九州の地に數多の貿易港が開かれた上に、上述せる門司が急速の發達をなし、從來炭水積載のため本港に來て居た外國船も、今は門司に寄港するから、長崎港は昔日の様に獨占の姿ではない。長崎の港口からは浦鹽斯德、上海に海底電線が通じて居る。

取扱上の注意

地理的用語 起點。連絡。鐵道幹線。炭坑。海底電線。△鐵道各地に通じ、熊本を経て、海底電線を通す。

挿繪の解説 (一) 若松港 この繪畫は寧ろ産業の部に於て石炭輸送に關する説明の際に利用する方が便利であらう。この繪は炭車の輻湊せる状態と石炭運送船の群集せる海岸の光景を示したものである。繪の手前に燐寸箱を行儀よく並べた様に見えるのは炭車であつて、これは筑豊線によつて筑豊の炭田地から石炭を滿載して來たものである。數百の炭車が分岐せる軌道の上に密集せるものはこれ又一異觀であるが、更に壯觀は海岸に碇泊せる大小船舶の群集である。之等の和船は起重機によつて海岸に見ゆ、石炭を滿載し、多く門司に向ふものである。又遠地に石炭を送るため汽船の來泊せるものも數多見える。

この海は云ふ迄もなく洞海であつて對岸に見ゆる市街は戸畑の町で此の間渡船の便がある。戸畑から向つて右に進めば官設製鐵所のある枝光八幡があり、更に西して黒崎を過ぎると次驛は折尾驛で、此處は鹿兒島本線と筑豊線との交叉點である。而して石炭輸送の筑豊線は折尾から洞海を迂回して若松港に来るのである。圖に向つて左端にあたる地方は小倉のあたりになる。

自働作業の指導 (一)九州地方の略圖を描き主要線路を記入せしむ。(二)主要線路の起點より終點に至る迄の時間數及び哩數を測定せしむ。(三)九州一巡の旅行豫定表を作製せしむ。(四)門司經由の各主要航路を列擧せしむ。(五)門司・長崎の盛衰關係を推究せしむ。

教辨物の指示 九州地方交通圖。鐵道旅行案内。本邦四大商港出入船舶數表。門司・長崎貿易比較表。鐵道沿線の主要驛及び沿海主要港の繪畫寫眞。下關海峽・長崎港部分圖。

參考資料

四大港出入船舶數(大正五年)

港	入 船		出 船	
	内 國 船	外 國 船	内 國 船	外 國 船
横 濱	船數 三、〇二四 總噸數 四、四八八・一三三	船數 七五四 總噸數 四、〇二五・三三五	船數 三、〇〇四 總噸數 四、四三五・八四九	船數 七三七 總噸數 三、八八三・九七七
神 戸	船數 一、四〇六・六六一〇・七・六・四・二・二	船數 一、〇七四 總噸數 五、一〇七・四八九	船數 一、三・九七〇 總噸數 一、〇、五九五・六二九	船數 一、〇五四 總噸數 五、一三三・六七七
長 崎	船數 二、二二三 總噸數 二、二九二・九六〇	船數 七二四 總噸數 三、一八九・四一七	船數 二、二九四 總噸數 二、二九八・六五二	船數 七二二 總噸數 三、一八四・四六八
門 司	船數 五、八八〇 總噸數 八、三三三・二八四	船數 九三九 總噸數 三、五三二・九五五	船數 五、八九二 總噸數 八、三四五・〇八九	船數 九四〇 總噸數 三、五三六・九八九

五 都 邑

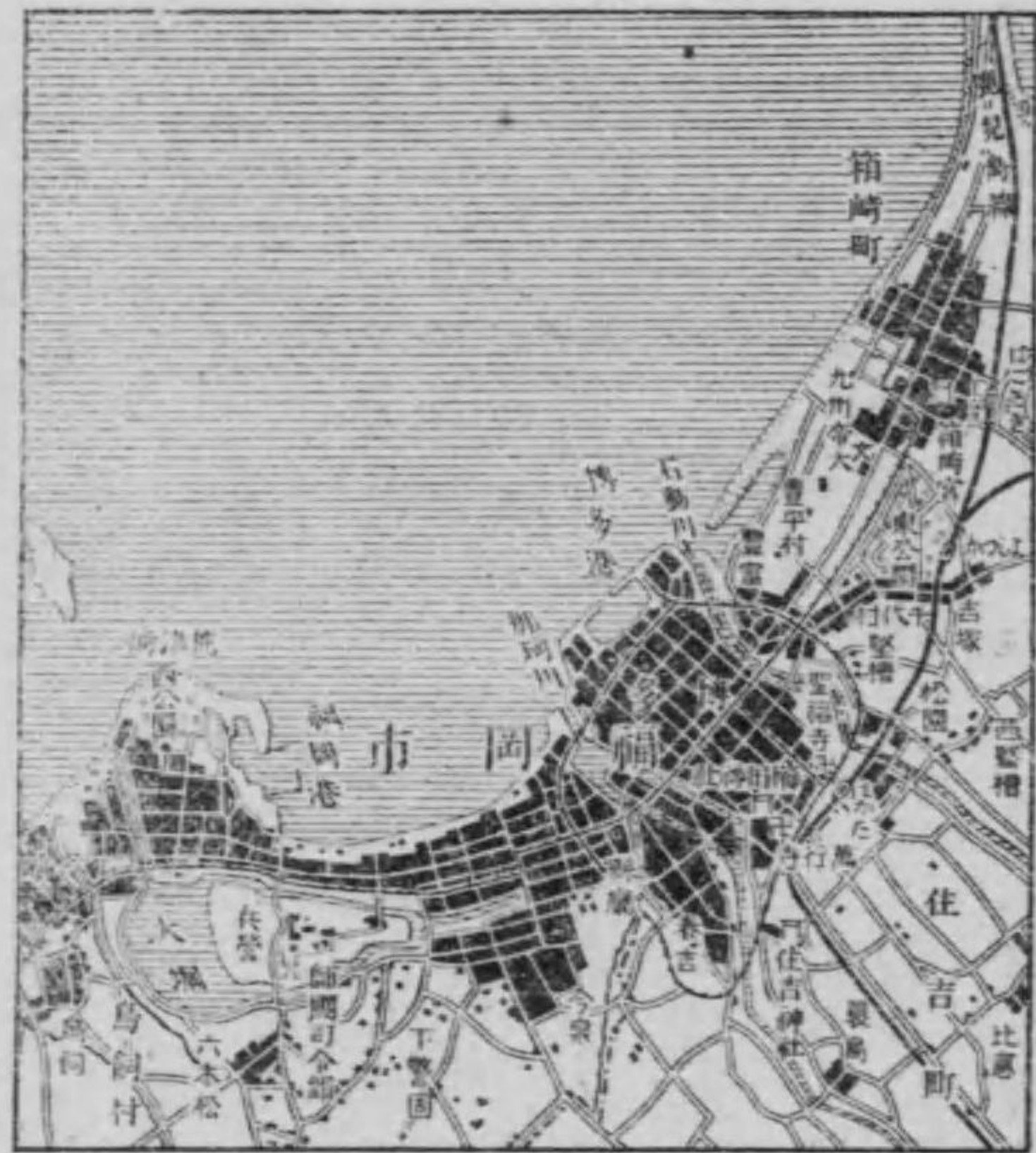
教授の主眼

九州地方各縣の順を追ひ主要都邑について知らすのが目的である。而してさきに地勢産業交通の教授に際して取扱つた都會も再び此處に擧げて復習し、尙新授のものも單なる都邑としての取扱に偏せず、都邑教授を通して既授の地理的事實を復習する様に仕組みて教授するがよい。

敷衍及附說事項

福岡縣の都邑 (一)門司市 關門海峡をへだて、下關市に對し瀬戸内海の口を扼し交通上軍事上極めて樞要の位置にある。本市は明治二十三年に開港場になるまでは人口三千に過ぎぬ寂しい漁村であつたが、開港以來頓に發展して現に七萬二千の人口を有し、九州第一の大開港場となつた。石炭積込みのため大の船舶は必ず本港に寄港するから港は常に之等の船舶が輻湊して居る。大正五年に於ける本港の貿易額は輸出二千七百二十五萬圓、輸入三千八十三萬圓に及んで居る。其額は横濱、神戸、大阪に次いで我國貿易港中の第四位を占めて居る。(二)若松市 此處ももとは寂しい一漁村であつたが、筑豊炭の積み出し港となるや急速の發展を遂げて、今や人口四萬二千を有する都會となつた。洞海の門戸にあたつて居るが、何様洞海は底の浅い海であるために、若松港は幾度の浚渫を施し、埋立工事を加へ、築港を設けて以て船舶の碇泊に便して居る。洞海を隔て、戸畑の工業地、および八幡の官設製鐵所を控へて居るために、製鐵材料や製作物の輸送も若松港に於て行はれる。本港は背後の工業地が殷賑を極めれば極める程、筑豊炭の採掘が盛になればなる程發展すべき性質を有し、將來益々有望の港である。(三)小倉市 小倉は人口三萬八千を有し、第十二師團司令部

の所在地である。この地は古來小倉織の産出を以て世に知られて居たが、現時は昔日の俤は全くない。一時この地の繁榮は門司に奪はれるの感があつたが、現時は諸種の機械工業興り、又盛り返して居る。この地から大分市に通ずる豊州線が分岐して居る。



(四)福岡市 福岡と博多とは那珂川を隔て、相對して居る。即ち那珂川の西が福岡、東が博多で、福岡の方はお役所町、博多の方は商人町の感がある。この兩方で福岡市を形成して居る。現人口は九萬七千餘に及び、市内には九州帝國大學及び其附屬の大學病院がある。東西の兩公園は共に有名の地であるが、殊に東公園は所謂千代の松原の地をなし、白沙青松の間に龜山上皇、日蓮上人の像などがある。市の物産としては博多織、博多人形、博多焼等がある。何れも優美で夫々特徴を

持つて居る。(五)太宰府 博多の東南五里許りのところにある。古外交の衝にあつた太宰府の遺址であつて、又菅公を祀つた太宰府神社のある所である。



宮 滿 天 府 宰 太 社 中 幣 官

産出張所・鐘淵紡績支店・三井製作所・三井亞鉛工場等があり、漸次工業的の都市と

神社の境内は梅樹多く、社殿も壯麗で神威のあらたかなるを覺える。(六)久留米市 筑後川の下流に位し、筑紫平野の要地を占め、人口三萬九千、第八師團司令部の所在地、久留米餅の本場として世に知られてゐる。又近時は足袋の産出も多い。(七)市内には幕末の志士高山彦九郎の墓がある。(八)三池港(産業の部参照) 大牟田市 有明海に面し、東南半里乃至一里の所にある三池炭坑の煤炭積み出し港としての三池港を控へ、人口四萬八千を有する都會である。三池炭坑の發展、三池港の發達と共に本市は將來益々繁華の度を増す事であらう。市内には三池炭坑事務所の外に三井物

なりつゝある。

挿繪の解説。(一)三池の一大炭坑(萬田炭坑)繪の左方遠景の山は肥後菊地郡の小代山である。萬田炭坑は三池附近にある炭坑中の最大なるものであつて其規模の大東洋第一と云はれる。萬田坑は石炭輸出港の三池港からは一里餘の距離にある。此間石炭輸送車の運轉があつて、四六時中採掘せる石炭を築港の方へ輸送する。挿繪に表はれて居る軌道は即ちそれであつて採掘せる礦石を満載した炭車は三池港の方へ送られるのである。繪の前面に二箇の大なる槽様のものが見えるのは堅坑である。この槽の上端に二箇の車様の物が見えるのは滑車であつて、之れには大なる鐵鎖がかゝつて釣瓶の如く兩端が反對の方向に動く様になつて居る。今一端を蒸氣動力で引くと堅坑中に下つて居る鐵鎖は坑中で發掘した礦石を満載した箱をする／＼と地上に引き上げる。地表まで箱が到達すると直ちに地上の軌道に連接して其箱は地上を横に一定の場所まで押し行かれる仕組みになつて居る。煙突はこの堅坑の石炭引揚げを示すための蒸氣動力を起す工場のものである。

參考資料

千代の松原 汽車が多々羅川の鐵橋にかゝると、右に名高い名島の城址を眺め、間もなく白沙青松の千代の松原にかゝる。この海邊の一帶は、昔時元寇の遺跡として、有名な所謂多々羅浦邊で、この松原は當時の激戦地の中心となつてゐたのである。車窓の右左に目覺むるばかりの翠松を眺めて進むと、まもなく吉塚の停車場に着く。此の驛で下車して、翠松の中に歩を進めると、まもなく元寇記念として名高い日蓮の大銅像の前に出る。偉大な傑僧が片手に安國論の一卷を捧げ、片手に念珠を握つて、睥睨してゐる雄姿は、確かに一代の信仰を集めた傑僧の面影を偲ばせる。日蓮は諸君も知れるごとく、立正安國論を著して國民を戒め、海岸の守を疎かにすべからざるを警めて却つて有司の忌憚に觸れ、幾度が配流の浮目を見、又危難に遭つたのであるが、文永年間、たゞく蒙古襲來の報、鎌倉に傳ふるに及んで始めて其豫言の偽りでなかつたことが世の人に知られた。元寇の記念として、この僧の銅像あるはまことに故ありといふべきである。

銅像の前を過ぎて、松林の中を數十歩西すると、龜山上皇の銅像の前に出る。御銅像の基脚は、元寇當時の石墨の石を用ひ、高く翠松の間に築き上げられた臺石の上に、神々しい上皇の

英姿を拜すると、上皇が身を以て、國難に代らんと神明に誓ひ給うた當時の御有様が追憶せ

何れも博多の東公園にあり



龜山上皇御銅像
日蓮上人銅像
約一町餘にして、福岡醫科大學の正門に達する。壯大な西洋建の校舍は、白沙青松と相俟つて、一



龜山上皇御銅像

層の壯麗を覺える。校門を潜つて數十歩南すると、校庭の一部に千利休の釜掛松の遺跡を見ることが出来る。此の地は豊太閤征韓當時に、博多の傑商神谷宗湛が豊公の爲めに茶席を開いた所で、當時區從してゐた利休が松が枝に釜を掛けて、湧出づる清水を汲んで茶を煎じて、一日の快遊を試みた所として名高い。醫科大學を辭して林間を西する事二三町にして、工科大學の正門に

出る。南日本の工業の源泉地として、幾多の顕才を養つてゐる學府として、一種の畏敬の念が湧起る。

大學を見てから、松間をくゞつて海岸に出ると、一帯の白沙に抱かれた博多灣を、一望の下に眺めることが出来る。遙かに海の中道を眺め、志賀^{しや}殘^のの諸島は、指呼の間にある。この沿岸一帯は、昔時元寇の石壘のあつた所で、當時元軍攻撃の目標となつた所である。

海岸を東に一町ばかり進むと、箱崎八幡宮の一の鳥居がある。鳥居から數歩を隔てた波打際は、石の高燈籠が繪のやうに立つてゐる。晴天の時には、こゝから遙かに海の中道を隔てて、名高い沖ノ島を眺めることが出来る。だから毎年五月二十七日の海軍記念日には、こゝで盛んな記念式が行はれ、海軍からは、必ず數隻の軍艦と戦役に關係ある將校とを派遣することになつてゐる。

一の鳥居から社道を眞直に二町ばかり進むと、有名な伏敵門の前に出る。この樓門には、醍醐天皇の御宸筆として名高い「敵國降伏」の匾額が掲げられてゐる。樓門の右側には、應神天皇の御胞衣を埋め奉つたところとして傳へられてゐる名高い箱崎の老松が、神々しい神籬をめぐらしてゐる。

樓門をくゞつて拜殿の前に進むと、拜殿の正面には、大神鏡がきら／＼と輝いてゐる。この神鏡には、八朔の夕、日輪の姿が神々しく映出するので、その日にそれを拜むために、參詣する

ものが頗る多い。

この宮は、古來外敵防禦の神として、一般に崇拜されてゐるが、遠くは元寇十萬の殲滅、近くは露國バルチック艦隊の覆滅などの、皆この社に程遠からぬ地で行はれたことなどを思ひ合せると、今更ながら神徳のあらたなことが思ひやられる。

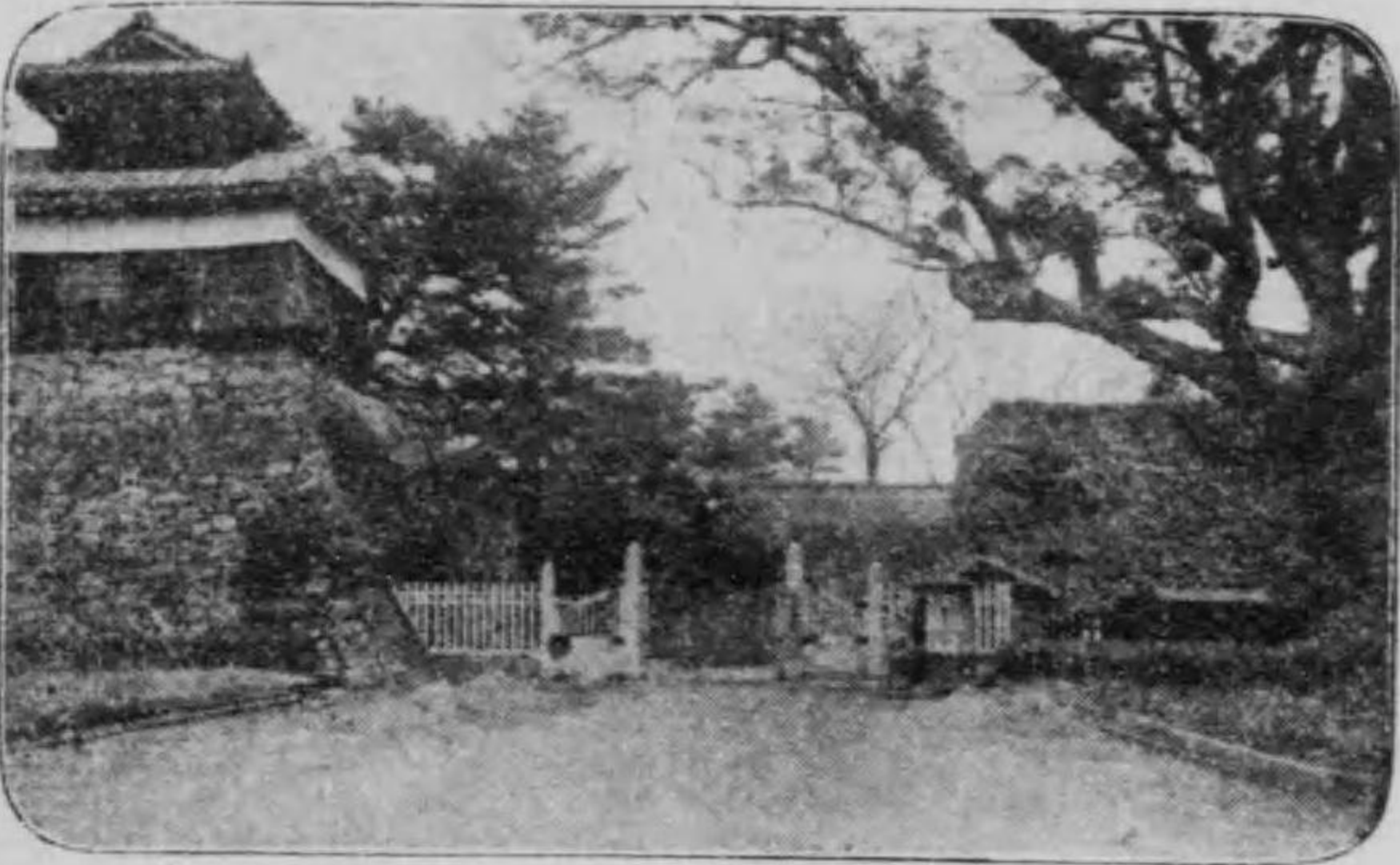
あゝ、西海隨一の勝地たる千代の松原、自然美と歴史美とを兼ね備へた千代の松原、松吹く風は、今も尙昔のまゝの響を傳へてゐる。

佐賀縣の都邑 (一) **佐賀市** 元鍋島氏三十六萬石の城下である。人口三萬七千。

江藤新平・副島種臣・大隈重信などの名士はこの藩から出て居る。佐賀市の位置は筑紫平野の西にあつて南は有明灣に近い。

長崎縣の都邑 (一) **長崎市** 長崎は風光の明媚なると、氣候の溫暖なると、物價の低廉なものによつて外人に世界の樂土と賞せられ、外人のこの地に遊ぶものが古來少くない。この港は天正の昔、西班牙・葡萄牙の商船が來航してから久しく外國交通の要衝に當り文化吸入の門戸をなした。五港の隨一として、維新當時西海に覇を稱へた事も人の記憶に新たな事である。人口十六萬、北九州第一の都會で、市には高等商業學校、醫學專門學校等がある。(二) **佐世保市** 地勢の部參照。

挿繪の解説 (一)長崎にある造船所 この繪は三菱造船所の第三船渠を示せるものである。此船渠は長崎市の對岸稻佐半島にある。挿繪の前方海を隔て、



第六師團司令部正門

市街の望見せられるは即ち長崎市である。三菱造船所は安政年間幕府の起業せるものであるが、後明治十年三菱會社に拂ひ下げられ、今日に及びたるものであつて、元小規模の造船所は今や民間に於ける我國第一の造船所であるばかりでなく、東洋第一の造船所となつた。修繕のために入渠する場合には、始め船渠内に満水せる際入渠し、後支柱を入れながら排水し、終つて、諸種の作業に従事するものであつて、工成れば支柱を除いて海水を導き、汽船は渠外に出るのである。挿繪に表はれて居る大小二隻の汽船は今や竣工に近きものである。

熊本縣の都邑

(一)熊本市

白河の畔、肥後平野の間にある熊本市は元細川氏五

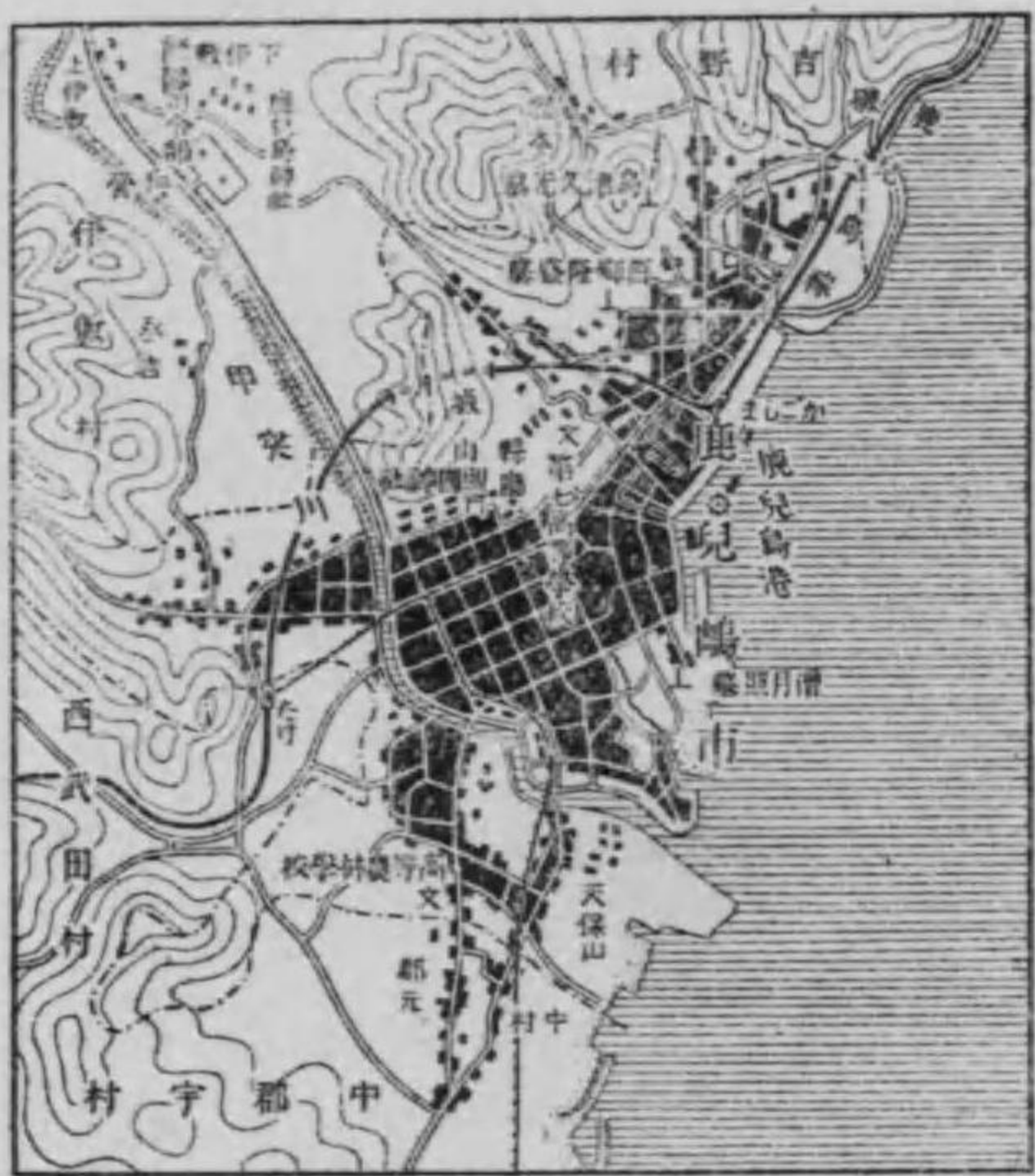
十四萬石の城下であつて、現に人口六萬八千を有し九州屈指の都會である。市の中央には加藤清正の築城にかゝる熊本城があつて、今第六師團司令部に充てられて居る。宮地輕便線は本市から發して、蘇峰の北を巡つて居る。(二)八代町

鹿兒島線の要驛であつて、急流球磨川の河口にある八代は本縣第二の都會である。此處には日本セメント會社の八代工場がある。球磨川産の鮎や蜜柑はこの地の名産である。

鹿兒島縣の都邑 (一)鹿兒島市 後に城

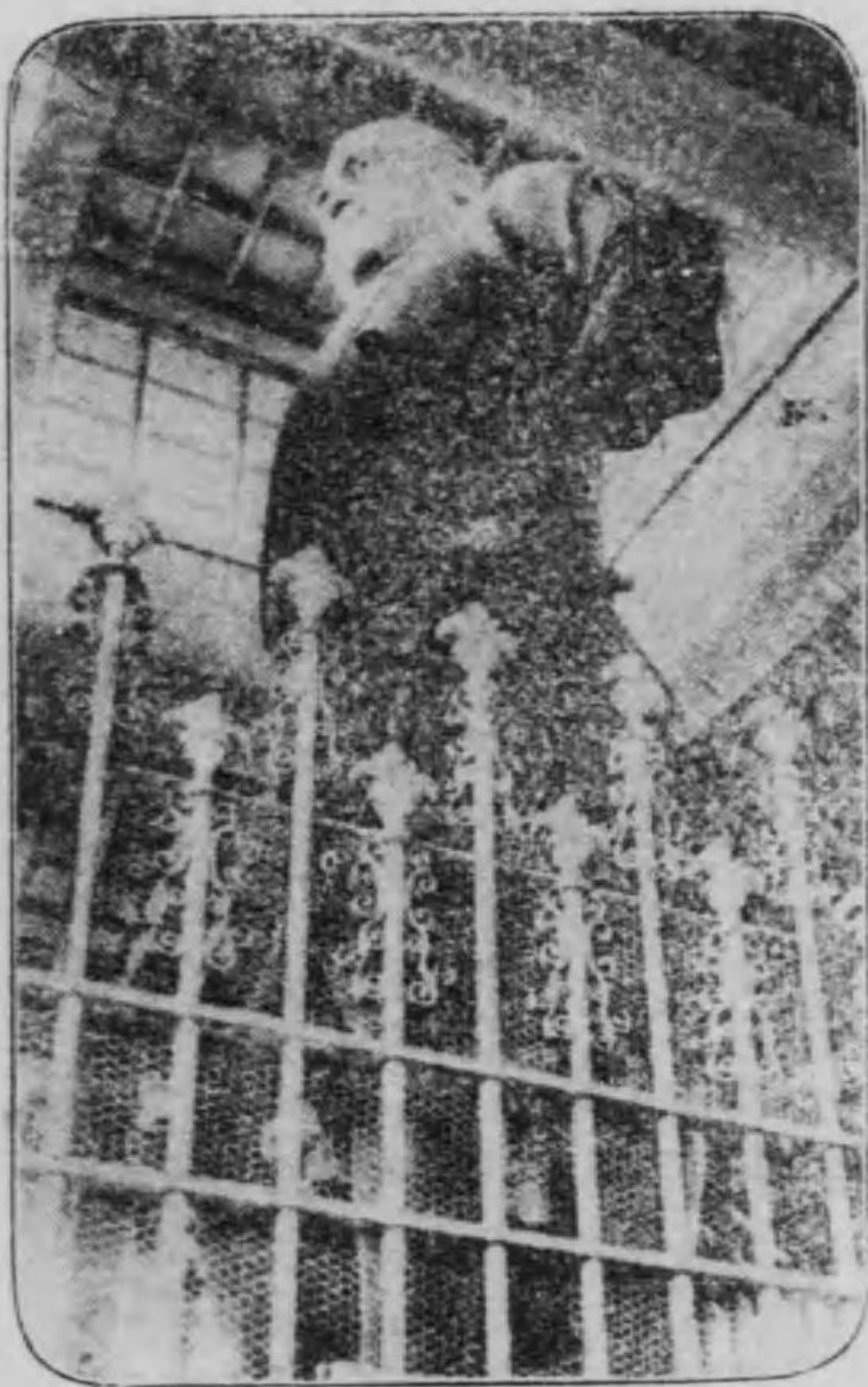
山を負ひ前に錦江灣を隔て、櫻島火山に對し、灣内波穩かに水深く良港である。この地は熊本藩と共に西海の二大雄藩

と稱せられし島津氏七十七萬石の舊城市である。幕末英艦の砲撃を受け、又明治十年の役に兵火の巷となつた事がある。今や人口七萬六十を有し、薩摩燒薩摩餅、薩摩芋、櫻島大根等の取引が多く、又市の特産に名菓輕羹がある。



参考資料

南洲遺蹟めぐり 汽車が鳥越の隧道を出ると、右手の車窓から灰色の瓦屋根の間に、濃緑の樹木を交へた鹿兒島の武士町が目の前に展開される。そしてそれ等の家並を壓して、一段高い丘陵の上に、可成大きな建物が、指呼の間に見えるのは、南洲祠堂で、土地の人は、淨光明寺といつてゐる。此處は西南戦役に於ける薩軍の戦死者を葬つてあるところ、無敵大西郷の墓もある。



西郷南洲翁の木像

とが出来、徒歩しても三十分とはかゝらない。物ずきな人がこの石段を上まで數へて見たら、二百八十三あつたといふ。嘘かまことか知らぬが、兎にかく長い。而かもそれが胸つくやうな急勾配だから、大抵の人は、一息には登れない。それで中程に立ちどまつて後を顧ると、所謂櫻島が悠然たる美容を横たへ、その裾をゆるやかな錦江の水がめぐつて、春ならば、

霞一扇毛白帆が二つ

鷗三つ四つさくらじま



西郷南洲翁以下諸士の墓

といふやうな景色である。再び勇を鼓して、石段を上りつめた時には、全身に軽い汗ばみを覚える。石段を上りつめた左手には、南洲の木像があるが、これは東京上野の銅像の原型だといふことである。更に其處から二三の石段を上ると、そこはかなりの廣場になつてゐて、正面に西郷隆盛の墓、その左右には、桐野篠原村田邊見など當時の猛者の墓がすらりと並んでゐる。墓地の右手に南洲祠堂後には、教育博物館の建物がある。墓地の後の高臺は上ノ原といつて、これも十年戦役の古戦場である。木像の前の茶店で、遊茶をすゝりながら、南洲翁に關する繪はがきや、金属製の銅像の模型などを土産に買ひ求めて石段を下る。

墓を下りてから、物靜かな街の間を西に行くと、二十分ばかりで南洲翁終焉の地につく。たい見一基の石碑が路の右手に、石塀をめぐらされて立

つてゐる。この遺跡を覗て、更に西に進むと、路の真下には、川内線の鐵路が通つて居る。そして路と並行して居たレールは、隧道となつて城山の中へ消え込む。前鐵路が隧道に入るころには、正面の石に敬天愛人といふ南洲翁書が刻まれてある。

こゝからはもう岩崎谷の谷あひで、左手の崖の上は城山である。道は谷あひの人家の間を通る。そして製練場の赤煙突の下を廻つて右に折れると、二三軒の粗末な家が見えるが、其前を過ぎて右手の山縁へ出ると、其處が即ち南洲翁の岩崎洞窟である。洞窟は崖を掘つてつくつたもので、中の廣さは疊四枚敷程もあらうか。鐵柵の隙から覗けば、洞中はほの暗く、奥の方に、二三の石ころがつままれてあるのが見える。低徊久しうすれば、西南役の當時城山が落ちるその日まで、連日この洞窟中に暮を圍んで閑談に日を送つてゐた、大西郷の度胸の大きさが今更に偲ばれる。

此處を出て再び赤煙突の下までかへる。是からいよ／＼急坂になるので、とても車などでは登れぬ。喘ぎ／＼曲節の多い坂路を登ると、一寸した廣場に出る。此處は今上陛下が、先年未だ皇太子として行啓の御便殿を設けられたところで、此處からは鹿兒島の全市は言はずもがな、薩摩大隅の大半が一望の中に收められる。まづ前面櫻島の後方遙かに聳ゆる紫紺の山は、高限の連峯で、薩摩琵琶に出てある大隅山の狩倉は即ち此山にあるのである。此處を辭して曲りくねつた公園の路を下る。路を挟んで立ちならぶ楠の老樹は、幾百年を

経たものであらう。頂の雲に入るところ、白骨露はに見えて、二三の鶯が黙然としてとまつ

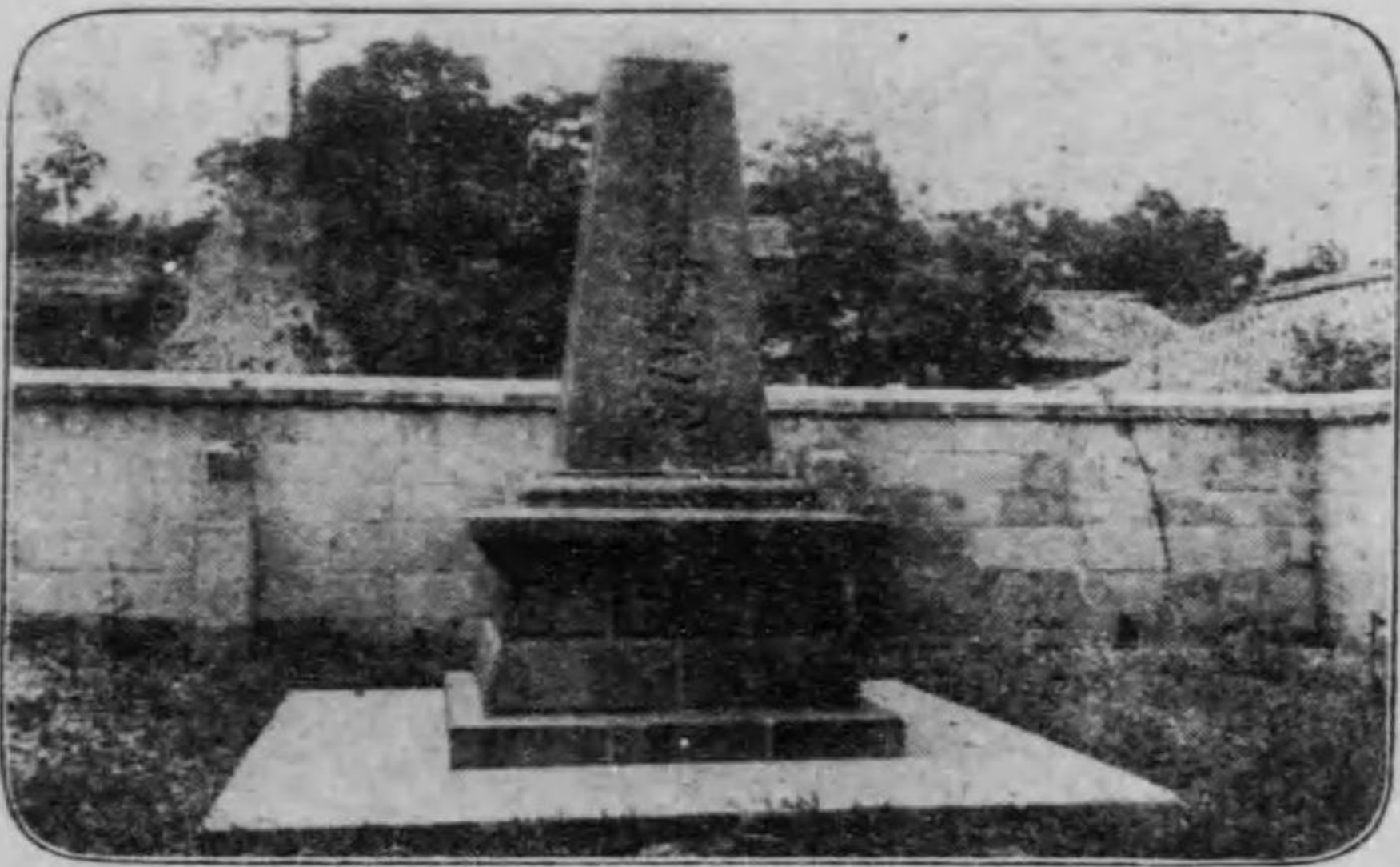
てゐるのも物靜かである。その幹の根本には、青苔や豆蔲が一ばいまつはつてゐるが、試みに杖の先でそれをはぐれば、四十年前の彈痕を今尙見ることが出来る。

路は七高造士館(舊鹿兒島城)の裏手をめぐつて、縣病院の横に通じて居る。縣病院の境内は、昔の私學校の跡で、四周の石塀には、西南役當時官軍の打込んだ彈痕が、點々として痘痕のやうに見られる。此處から電車通りまでは、大した距離はない。

名山堀から、武行電車に搭じて西に馳すれば、七八分時の後、甲突川の東岸につく。茲で下車して川の堤に添うて下れば、五六町のところに西郷隆盛誕生の地といふのがあつた。屋敷跡そのまゝを公開して、誰人にも自由に觀せてゐる。庭の中央には石碑があつて、南洲生誕の地としての由來が書いてある。又庭には梅樹が多く植わつてゐる。此處



から少し離れて、大久保利通の誕生地もある。この邊一帶は、鍛冶屋町といつて、多くの名士の出てゐる所である。



西郷南洲翁終焉の地

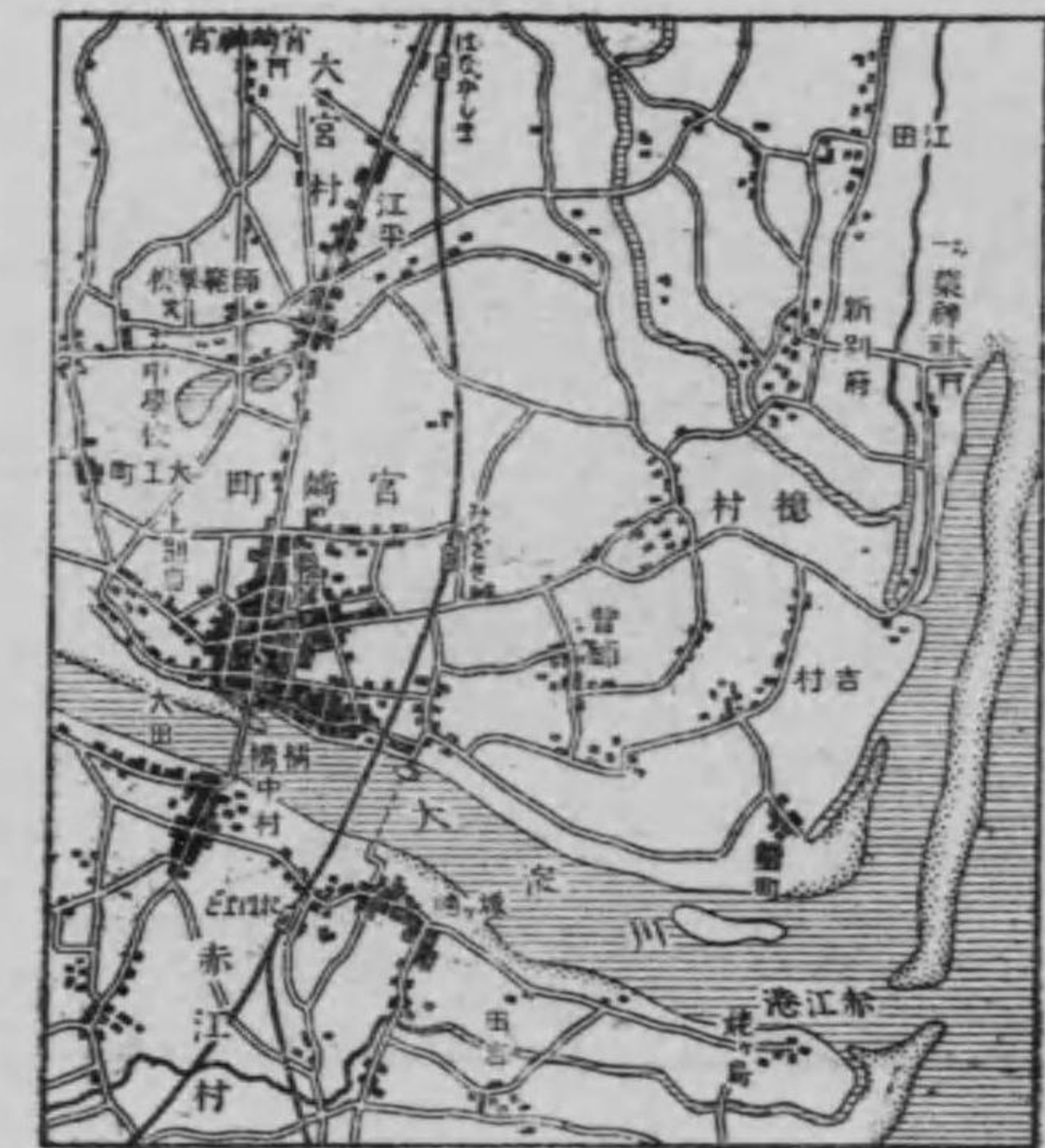
茲から引返して、更に電車に乗つて西に行くと、武の停車場が近い。驛の前で下車して、鐵路を横ぎつてゆくと、向ふに見ゆる大きな建物は、師範學校で、其裏手はすぐ田圃になつてゐる。田圃路のつきあてに、小高い丘が横はれてゐるが、これは武丘で、此處も西南役の激戦地である。其丘の麓、田圃に面して、大きな松の一株にそれと知らるゝ屋敷は、大西郷の邸宅で、今でも故人の息、西郷菊次郎氏の住居となつてゐる。此處に杖を止めて、東方を望めば、城山をへだて遙に吉野の高原が見られる。茲は南洲挂冠の後、私學校の徒弟と共に親しく開塾をやつたところ、當時の遺跡も少くない。

宮崎平野に位して居る宮崎には、神武天皇を祀る官幣大社宮崎神宮がある。本

宮崎縣の都邑 (一)宮崎町 大淀川の左岸に沿ひ

町は橋橋を以て相對せる中村町を合すれば、裕に市制を布くを得べく、又豊州線に通ずる鐵路の開通、外港としての内海港の設備整ふに於ては、漸次發達するであらう。(二)都城町 大淀川の上流、都城盆地の中心都市をなして居る。この地

は位置の關係上、隣縣鹿兒島縣との交渉が多い。附近に養蠶が行はれるから、この町は製絲を業とし、又附近物貨の集散地をなして居る。人口二萬五千、本縣第一の都邑である。



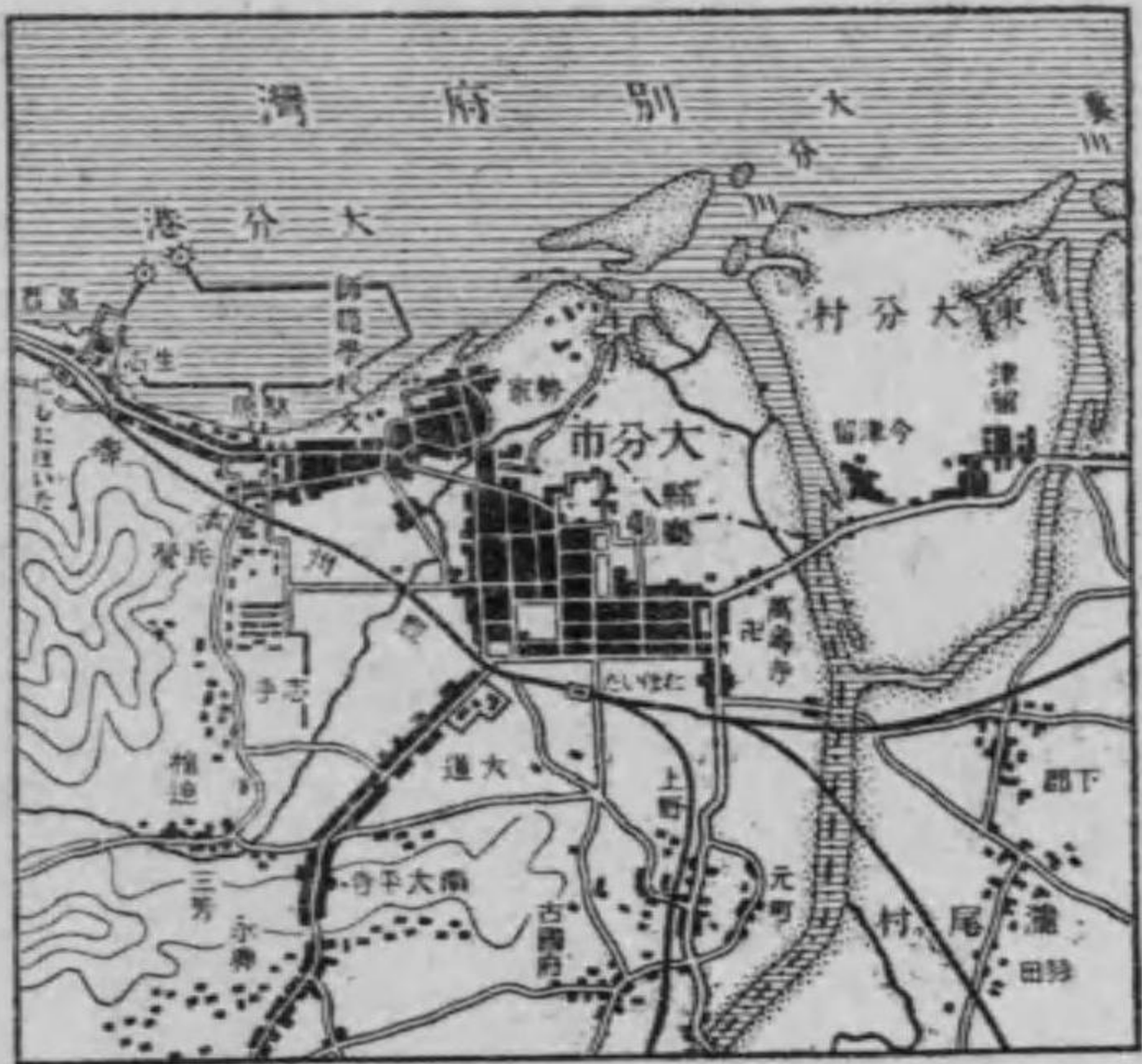
挿繪の解説 (一)宮崎と大淀川 大淀川に架せる橋橋の橋畔を寫せる繪畫である。大淀川はこのあたりから尙ほ一里を流れて海に入る。下流にあたつて、鐵橋の見え

るのは宮崎線であつて、右岸なる大淀驛を發した汽車がこの鐵橋を渡りきると間もなく宮崎驛である。橋橋は長さ二百間、この地では一の名所に數へられて居る。宮崎町に對せる橋橋の向ふは中村町であつて、この町を合併すると、裕に

人口も三萬に達し、宮崎町は市制を布く事が出来る。依て中村町の合併は久しい以前からの問題であるが未だに其解決を見ぬ。大淀川は土砂を流出する事多く、ために河床は年々埋められ下流附近と雖も舟楫の便は全くない。宮崎町

が海岸からあまり遠くなく、又流程二十五里の大淀川を控へながら五里を南に距る内海港を其門戸となす如きは本町の發展上大なる缺點と云はねばならぬ。

大分縣の都邑 (一) **大分市** 別府灣の南岸に臨み、人口三萬九千近時著しく膨脹せる都市である。築港工事も竣成し船舶の碇泊も至便である。(二) **別府町** 別府は別府灣頭にある著名の温泉場で、人口は二萬五千ある。豊州線の要驛で大分との間には電車の便もあり、尙ほ瀬戸内海航路の要衝であるから、四時浴客を吸収し市街雑沓を極めて居る。殊に夏季などは何れの客舎も空席なきの盛況を呈する。(三) **佐賀關** 佐賀

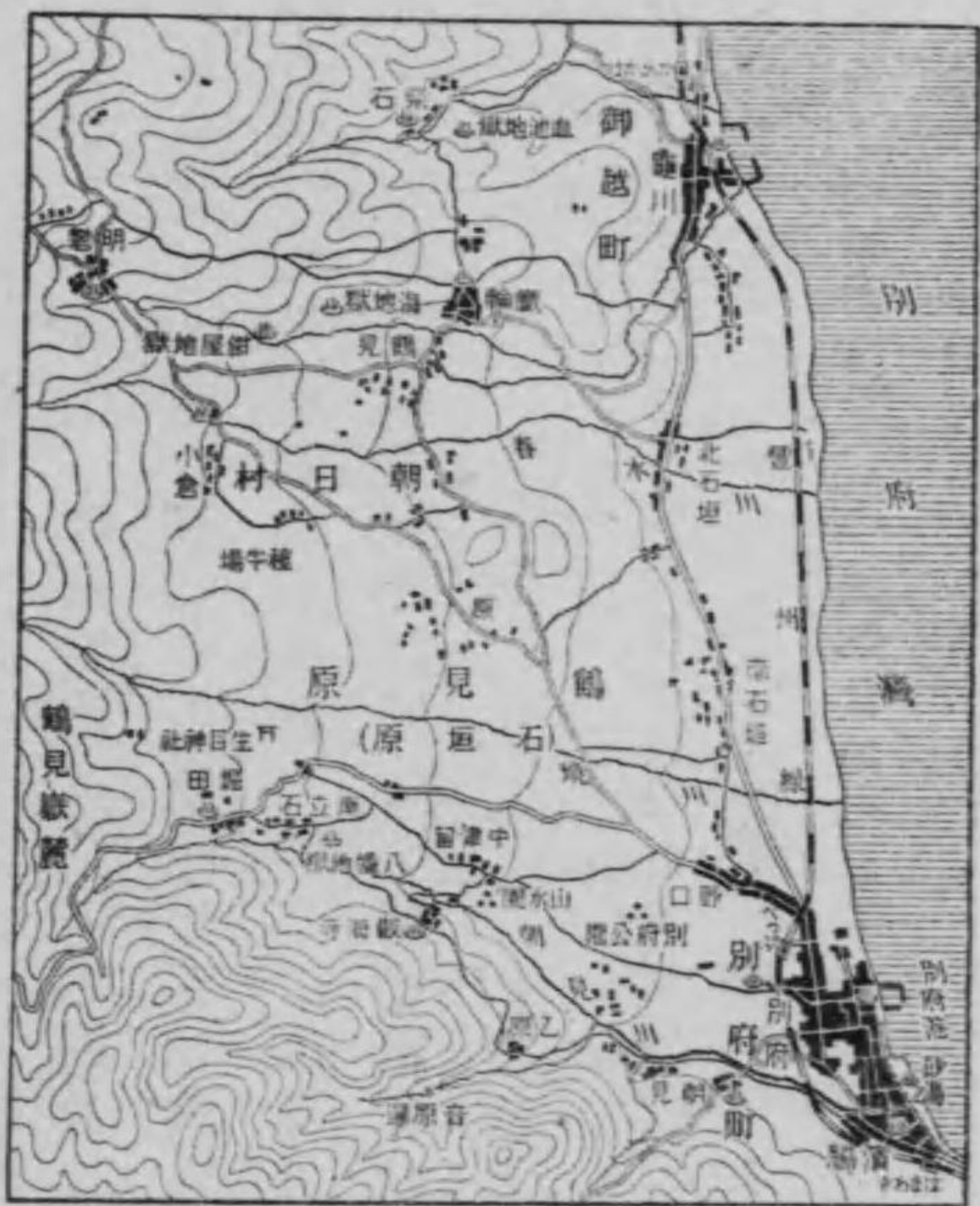


關半島の突端には久原家の所有に屬する製煉所がある。この製煉所の原料は瀬戸内海岸一帯の鑛山より採掘せる礫石をこの地に運搬し、之れに充てるのであつて、半島の突端なる山上には大なる煙突屹立し、煤煙天を焦すの盛況を呈して居る。(四) **宇佐** 豊州線によつて宇佐神宮へ參詣するには宇佐驛で下車し、此處から參宮鐵道に搭じて一里餘を西に向はねばならぬ。神宮は官幣大社で、かの名高い和氣清麻呂が神勅を奉じて道鏡を斥けた史實によつて一層表はれて居る。神殿壯嚴參拜者は思はず襟を正す程である。

參考資料

別府の砂湯 別府町の後を包む由布嶽鶴見嶽は、南に延び北に走つて、別府灣を抱いて居るが、其山麓谿間には、到るところ温泉が湧き出て居る。龜川、柴石、鐵輪、明礬、堀田、觀海寺上の田朝見、濱脇、別府などの温泉は、いづれも名高い温泉であるが、中でも別府濱脇は海濱にあつて、便利もよく設備も整つて居るから、一番に賑ふ。それで最も浴客の多い八九月の頃は、どの旅館も満員で、泊る方から頭を下けねば、よい部屋は得られぬ程の盛況である。まづ別府から山麓をすつと巡つて、前に述べた温泉場を一廻りすると、小一里もあるが、其間には、海地獄血の池地獄や坊主地獄などがあり、各温泉場にも、それら、特徴があつて面白い。

町内には、拾餘の共同泉があるが、しかし大ていの旅館には内湯があるから、入湯客は共同湯に行かなくても事足る。こんなに別府は、温泉の湧出る量が多いから、少し山手の方へでも行くと滾々と湧き出る湯に、生卵をふかしたり、青菜をゆでたりして居る所もある。若し冬



の朝など別府灣へ入つて行く汽船の甲板から、山手の方を見ると、所々濛々と水蒸氣の白く立上つて居るのを見るであらうが、それは天然蒸氣を噴出して居る所なのである。別府の砂湯は、一寸他所で見事の出

来ぬ奇觀である。砂湯は別府波止場の兩側の濱邊の砂原にある。即ち潮が引いた跡の砂を掘ると、湯がにじみ出るから、其處へ身體を埋めて暖まるのである。夏の朝など、まだ夜の引き明けの頃から、寢巻の儘で、手拭片手に湯治の客がぞろ／＼海岸に出て来て、眞裸のまゝで砂を掘る。そして自分の身體が没する位になると、其處へ仰向けに寝て、足の上腹の上へ一杯

砂を盛りかける。そして頭ばかり出して目をキョト／＼さして居る。

ぞろ／＼出て来る浴客が、我も我もと空地をもとめて、身體の生き埋めをするから間もなく海岸一帯は西瓜でもごろ／＼轉がしたやうに頭ばかりが一行に並ぶ。朝日が照つて眩しいものなどは、洋傘に顔を掩ひながら、暢氣に眠つて居る。男も女も、老も若きも、海岸一帯はまるで裸體の國の現出で、砂を掘るもの、腰のみを埋めたるもの、腹匍せるもの、仰臥せるもの、砂まみれになつた身體を洗へるもの、中々の混雜である。

浴場附の女は、浴客のために甲斐々々しく、蹴で砂を掘つて與へたり、寢轉んで居る者を砂で掩ふたり、枕をあてがつたり、又は水で冷した手拭を額に載せて廻つたりなどして居る。十分砂湯で暖まつたものは、ザンブと海に飛び込んで、遙かの沖合に泳ぎ行くものもあれば、又淺瀬の浮標にすがつて、戯れ遊ぶ少女の群もある。砂湯のある海岸は海水浴場としての設備が出来て居るから、日長て来ると、海水浴でまた賑ふ。

兎に角別府は、海岸からも、丘上からも、到る所湯の出ない所はなく、湯の池湯の川湯の瀧見るとして、温泉でないのはない。殊にこの海濱の砂湯の如きは、恐らく天下一品であらう。

取扱上の注意

地理的用語 輸出港。集散地。中心都市。要港。主産地。造船所。製煉所。沿岸。△海陸交通の要地。天然の良港。下流のほとり。下流に臨みて

自働作業の指導 (一)九州地方の略圖を描き主要都市を記入せしむ。(二)門司を出發し、本地方の縣廳所在地及名高き都市を巡遊し再び門司に歸着せんとするには如何なる線路を利用し、如何なる順序によるべきか、其旅行豫定案を作製せしむ。(三)主要都市の各特徴を列擧せしむ。(四)福岡縣が一縣にして七市を有するは全國無比といふべきであるが、これ何が故なるかを推究せしむ。

教辨物の指示 九州地方圖。關門海峽附近圖。若松・福岡・三池港・鹿兒島市・長崎港・熊本市の擴大圖。太宰府・阿蘇山・水前寺・熊本城・別府・宇佐・八幡宮・崎神宮・南洲遺跡等の寫眞又は繪葉書。博多人形・久留米・緋薩摩・燒大島・紬等の名産標本類。

六 琉球列島(沖繩縣)

教授の主眼

琉球列島は鹿兒島縣に屬する薩南諸島から、南臺灣に至る間に碁布點在して居る島々であるから、從て自然人事の兩方面に於て、他と相異せる所がある。これ教科書に本列島を九州の他の諸縣と區別して別に一項を設けた所以である。依て教授に際してはこの點に注意し、以て臺灣地方を授ける上の豫備に資せね

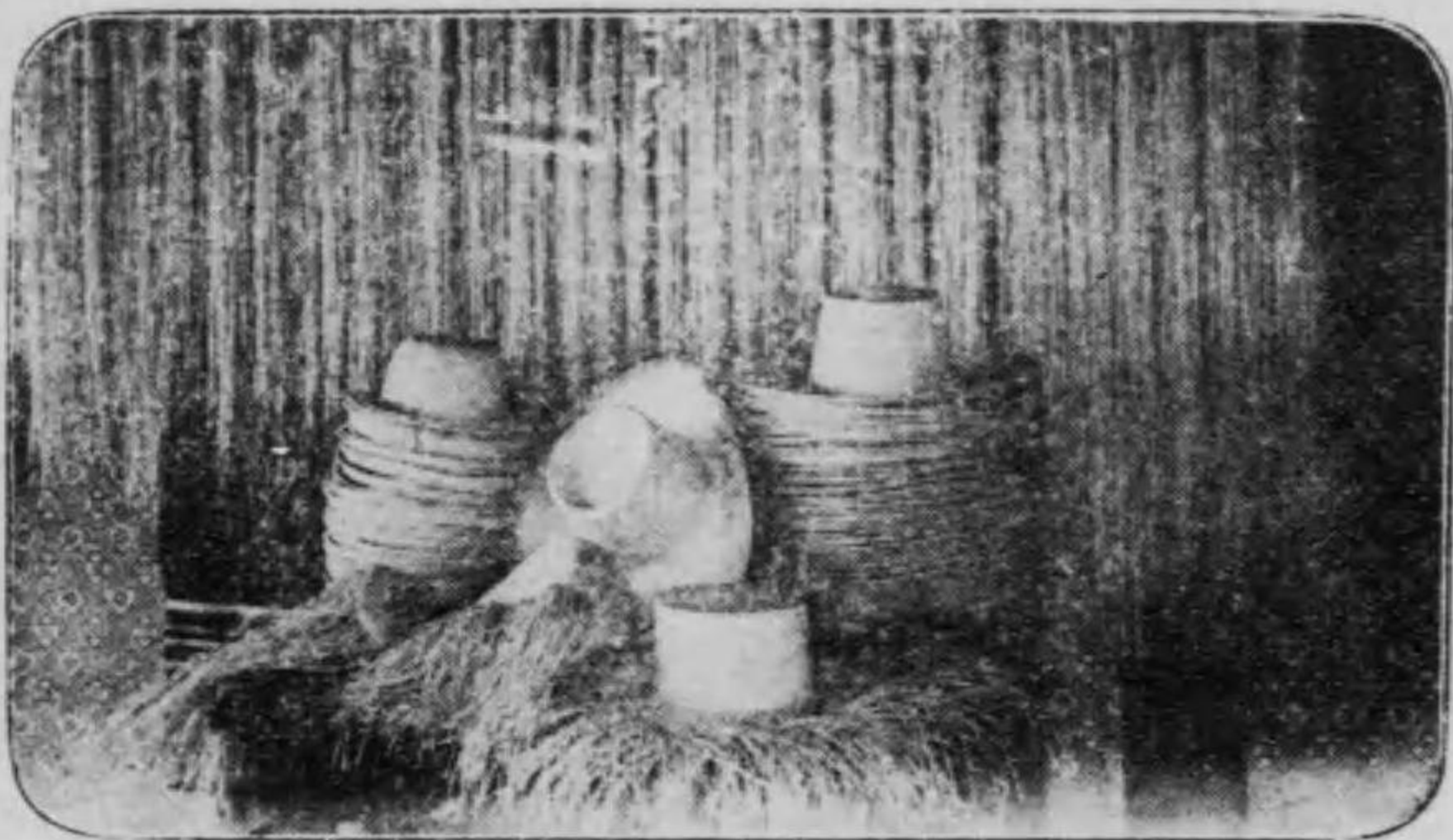
ばならぬ。

敷衍及附說事項

本列島の成立 琉球列島は薩南諸島に續いて臺灣と九州本土との間に一列をなして居る島々で、總數五十五の島嶼から成立して居る。其總面積は百五十餘方里であるが、何様五十五の島の集合であるから、五六の島を除くと、後は隨分小さい島もある譯である。列島を別つて大體沖繩群島と先島群島に二大別する。(一)沖繩群島 周回百十四里を有する主島沖繩島と及び附近の小島の總稱である。就中沖繩島は面積も本縣中最も廣く、列島中唯一の良港那覇を控へ、都邑首里を有して居る。(二)先島群島 那覇の西南百八十餘哩の所から臺灣近海に至る間に散ばつて居る二十あまりの島々で、就中宮古島・石垣島・西表島などが大きい島である。

總人口 大正六年末の統計によると沖繩縣の人口は男二十七萬二千九百人、女二十八萬八千人、總計五十六萬九百人である。して見ると百五十七方里弱の所へ五十七萬人弱の人口があるのであるから、密度からいへば一方里内に三百六十人以上の割合になる。我國全體の平均勘定で云ふと一方里百六十人餘の割

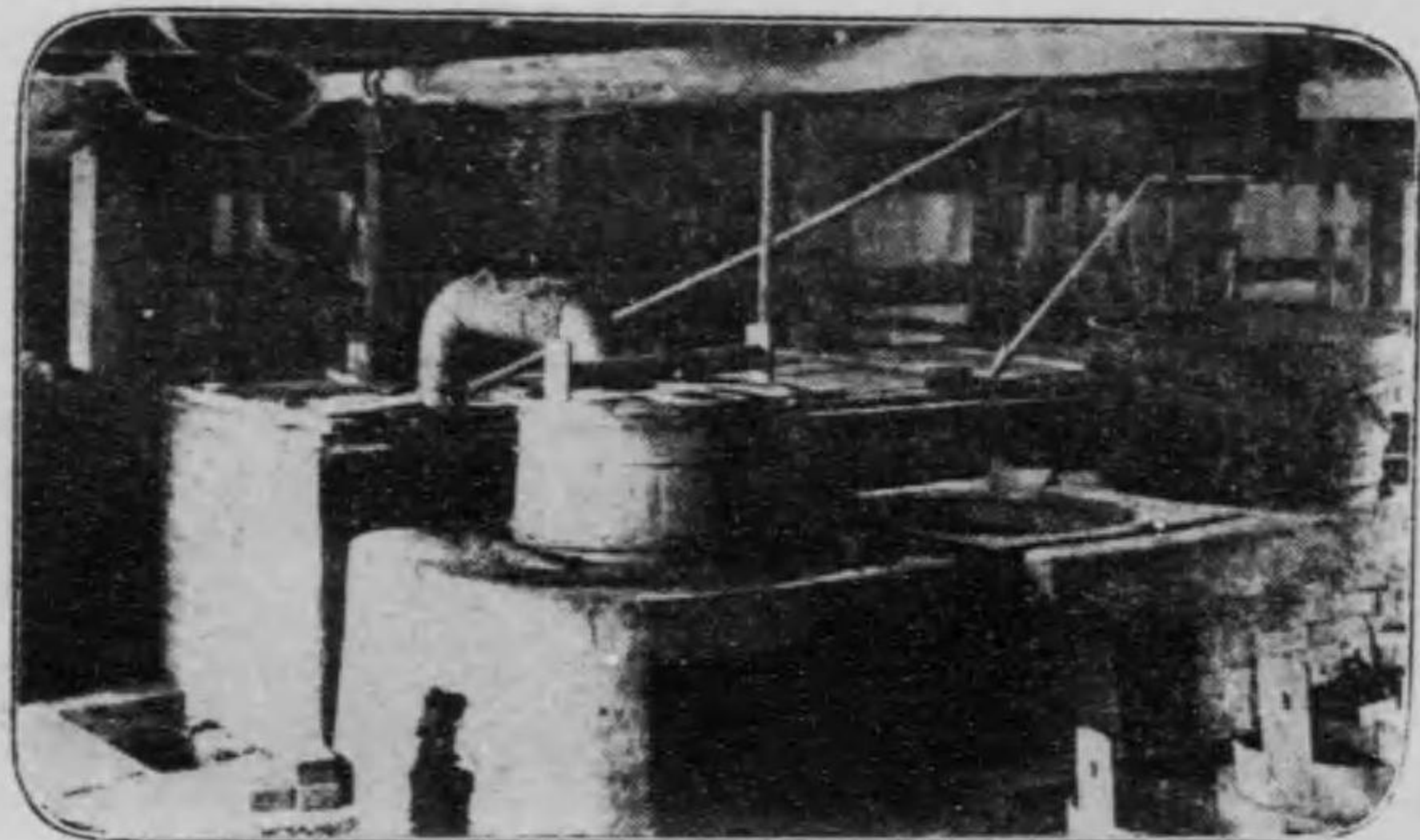
合であるから、沖縄縣は本邦人口密度の平均數を遙かに超過して居る事になる。茲に於てか本縣では近時海外移住といふ事が論せられ、米 哇は固より近時南洋方面へ出て行く事實も。



阿旦葉帽子と原料

此地の氣候 本縣は南海中にあつて黒潮に洗はれて居るから氣候は著しく溫暖である。從て年中雪や霜を見る事がない。云は、内地の春と夏との時候である。島民も大體一年を夏冬の二期に分つて春秋を云はない。云は、沖縄では一年が夏冬の二期に分れて居ると云へばよい。赤道に近いので餘程暑からうと内地の者は思ふが根が海洋性の氣候であるから想像した程の事はない。夏日西南の風が吹き掃ふ頃になると却て涼味を覺えるといふ事である。溫度も雨量も五十餘の島々によつて夫々違ふから一概には云へぬが、大體に於て雨は夏季に多く冬季は少い。風は本場だけあつて随分凄い。低

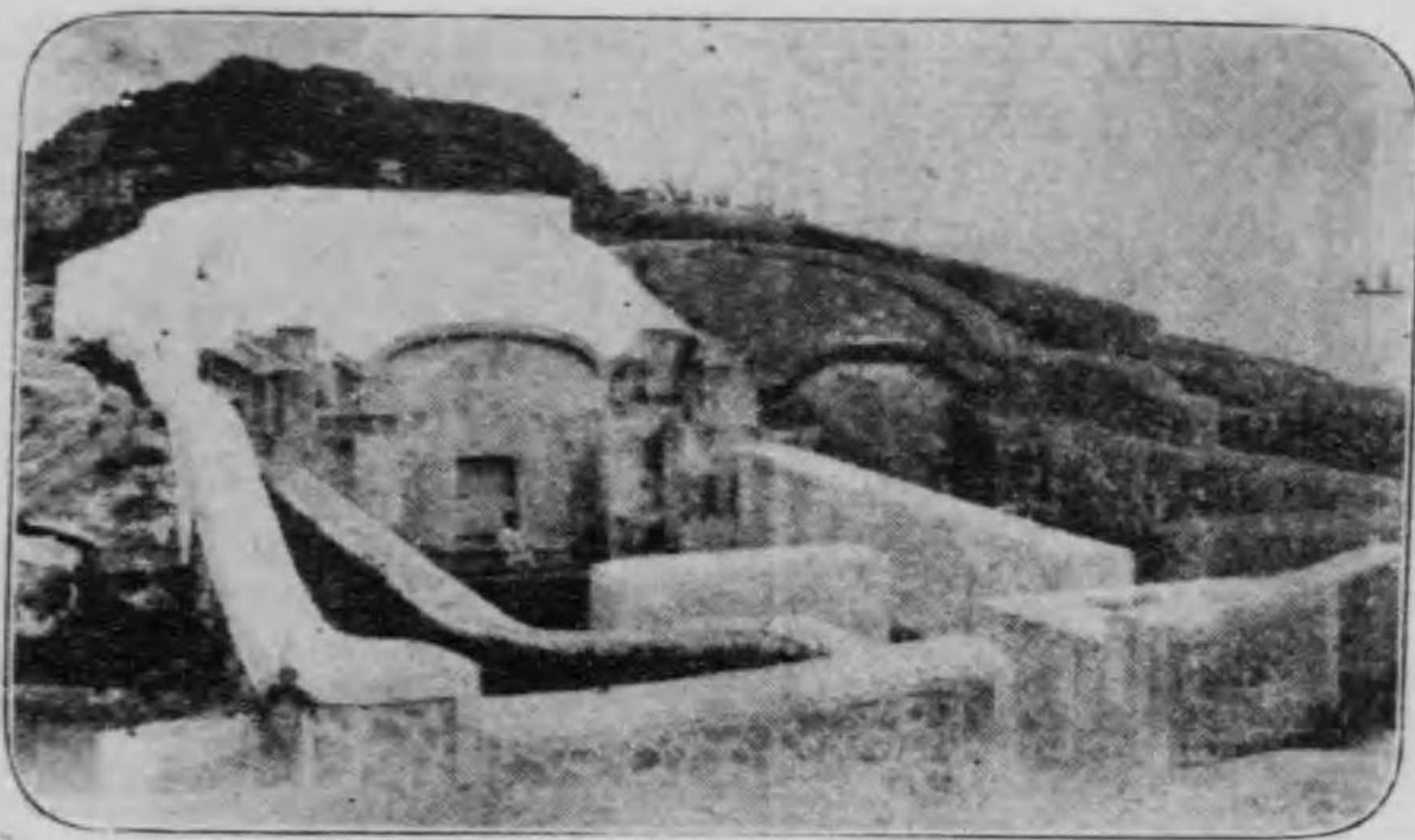
氣壓の中樞は沖縄近海にありなどの警報を内地人は屢々目にするであらう。



池盛醸造場

産物 氣候が氣候だから植物はよく繁茂する。内地では雪が降つて居る頃に此處では早や茄子冬瓜がなつて居る。内地で田植唄を聴く頃に沖縄では取り入れに忙しい。かくして米は年に二度穫れる。生長の工合も内地とは違ふ。一個の冬瓜が十八貫目もあつたといふと内地人は嘘の様にししか思へぬ。甘蔗、甘藷は殊に土地に適すと見えてよく生長する。甘藷は常食として島民の生活上缺くべからざるものであり、甘蔗は粗糖の原料として本島の生命とも云ふべきものである。我國に甘藷が傳來した經驗を知るものはこの地に甘蔗の栽培が盛んなことに何も不思議を感ぜないであらう。現今でも甘藷の産額は全國中第一位を占め、大正四年に於ては一五〇、五三〇、七〇七貫の産出を見て居る。之について盛なのは鹿兒島縣であ

るから、琉球芋、薩摩芋の名は現今に於ても名實共に存して居るといつてよい。但しこの名稱も内地で云ふ語で沖繩では芋又は唐芋というて居る。砂糖の産



植物の葉を編みて作る帽子の産額も近時著しく増加して居る。芭蕉布泡盛、木

琉球の芋

額は蕞爾たる本縣が全國第一といふだけで早や既に本縣の製糖が盛大である事が分るが、しかも第一である本縣の砂糖産額は第二位である鹿兒島縣の倍額以上に上つて居る。即ち大正四年に於ては七千四百萬斤を超え全國産額の約五割を占めて居る。従てこの土地の人は茶菓子代用に砂糖を食する程であるから、小學校兒童などに齧齒の多い事も亦全國第一であらう。豚も本縣特産の一で、各戸三四頭乃至十頭位を飼育し有力なる農家の副業として居る。老幼となく豚肉を好み、首里那覇の市場では毎朝百頭にあまる屠豚が取引されるといふ事である。此外阿旦と稱する

綿緋等は何れも相當の産額を占めて居る。但し阿旦葉帽子は近時紙製原料の漸次變つて來て居る。



風俗 漸次内地の風習を入れて居るが未だに田舎の方へ行けば内地と異なつた風習がある。衣服は寛濶なもので前帯を編めて居るものがある。履物は下流に於ては之れを用ひず跣足の儘である。家屋は貽風の襲來を防ぐために柱を太くし屋根を低くし、簷赭色の瓦を充て漆喰で之を固めて居る。加之家屋の周圍には家屋の檐と同じ高さの石垣をめぐらして居る。言語は内地と異なるものであるが、しかし學校

教育では全部中央標準語を使用して居るから、教育の普及と相俟つて漸次改善されつゝある。前に挙げた人口統計にも表はれて居る様に沖繩に於ては男子よりも女子の数が多し。而して夫等の女子は何れも男子に劣らず勞役に従事

し孜孜として働いて居る。物を鬻ぐにも物を運ぶにも殆んど女子が之れに當り、大なる器物までも之れを頭上に載せて平氣でノサクと歩行して居る。又琉球人の一の風習として大に墳墓を尊重する風がある。上下の階級によつて差等はあるが何れも石造で、塗るに厚い漆喰を以てして居る。琉球人は殆んど財産の全部を墳墓に費すといつて居るが、それ程にはないとしても餘程墓には金をかけて居る。

那覇區 特別府縣制を布いて居るから人口六萬を有する那覇は市と云はなくて區といふ。この那覇區は本縣第一の都會であつて縣廳及び警備隊司令部などがある。又この港は沖繩列島中第一の良港で、我國開港場の一つになつて居る。

首里區 那覇の東方一里の所にある首里は舊主尙氏の城下である。市街の繁華は那覇に及ばないが、琉球古來の名門舊族は首里の方に多い。現人口は二萬五千であるが、昔時は却て之れ以上の郡邑であつた。これ其位置が丘陵上にある不便と、漸次那覇港に其勢力を奪はれるのに起因するものであらう。

取扱上の注意

地理的用語 列島。島嶼。地味。粗糖。港市。△栽培に適す。列島唯一の港



那 覇 市 街

市

挿繪の解説 (一)那覇港 那覇港は西北に面し東西二十町南北十三町ある。琉球第一の港であつて大小の船舶常に出入して居るが、何様港の内外

が浅い上に暗礁や淺瀬があるので巨船の出入に便でない。挿繪は沖繩港を南方から眺めたものであつて、近景に植物の繁茂せる所を寫して南洋性の氣分を漾はしたる所など注意すべきである。
自動作業の指導 (一)鹿兒島より沖繩各島に至る距離を圖上にて測定せしむ。(二)小笠原諸島と沖繩諸島とを比較して諸種類例の點を列舉せしむ。
教辨物の指示 九州地方圖。沖繩島擴大圖。甘蔗甘藷の全國統計表。琉球緋芭蕉布阿旦葉帽子等の標本。那覇首里及び風俗寫真繪葉書。

甘蔗藷の全國統計表。寫真繪葉書。

琉球緋芭蕉布阿旦葉帽子等の標本。那覇首里及び風俗

参考資料

沿革 開國の始祖を天孫氏と云ひ、天孫氏世を傳ふること二十五世、其の間の事蹟知り難し。天孫氏衰へて、賊臣利勇なるものに亡さる。文治年間、尊敦利勇を亡して王位につく、之れを舜天王といふ。舜天王は源爲朝が琉球に入りて、大里按司(官名)の妹を娶りて生める子なりとの説あり。舜天王の統は三世にして絶え、天孫氏の裔再び王位に上り、其後國內大に亂れ、支那明朝の始め、山南山北共に獨立して、一時は沖繩に三王を見るに至れり。中山王、明に通じ、封冊を受け、遂に全島を統一して世々支那に服屬せしが、文明年間再び舜天王の裔たる尙氏に歸せり。然るに島津氏は鎌倉時代より南海十二島に地頭となり、慶長十四年中、更に島津家久諸島を伐つに及び、北部の大島以下五島を薩摩の直轄となし、琉球を附屬島と爲せり。之より琉球は日本及び支那に兩屬せる觀ありしが、明治五年我國に收めて西海道の一國となし、藩を置きて國王尙泰を華族に列し、藩主となせしが、更に明治十二年に至り琉球藩を廢して沖繩縣となせり。明治四十一年町村制を施行して従來の間切を廢して村となし、明治四十二年四月より縣制を實施するに至れり。(天日本地理集成)

第二 臺灣地方

一 區分地勢

教授の主眼

先づ臺灣地方の區分を明らかにし、次に我國の屬領となりし沿革につきて知らすがよい。地勢に於ては山脈の走向及び傾斜に注意せしめ、河川の方向、平野の分布、海岸の狀況等は何れもこれに基いて推究せしめ、實證的に地圖を觀察せしむべきである。尙本地方の我國に於ける位置を明らかにし、廣袤の大體を實數につき、或は他地方と比較して授けるがよい。

敷衍及附說事項

本地方の面積 臺灣本島の面積は二千三百二十四方里であるから、之に澎湖列島の面積八方里餘を加へると本地方の總面積は二千三百三十二方里餘となる。依て二千六百七十七方里の九州地方に比べて稍小さく、北海道の大約二分の一、本州島の約六分の一にあたる。本島は恰も櫻の葉のやうな形をなし、海岸の出入に乏しいから其延長僅かに三百五十里餘に過ぎぬ。東西幅廣き所で三十六里、

南北は九十七里に達して居る。其内、南四分の一の地は熱帯に位して居る。本地方の位置 臺灣は我國の西南端に位し、西は臺灣海峡を隔て、支那本土に對し、東は太平洋に面し、南はバシー水道を以て米領フィリピン群島に相對して居る。本地方は支那大陸及び近時我國と密接關係のある南洋諸島に近接して居るから商業上の要衝となり、又之等の土地は勿論西歐との交通要路に當つて居る。之れを軍事上より見るも我が西海の要鎮であり國防上の重要地域をなして居る。而かもこの地は經濟上に於ける我國の寶庫であり、又内地人の移住地としても極めて大切なる土地である。

臺灣島の山脈 本島の主軸をなせるものは臺灣山脈である。この山脈は本島の中央を東部に偏して南北に連互せる大山脈であつて、其脈中には一萬尺以上の高峯三十餘を算して居る。就中高峻のものは北部に約一萬三千尺のシルビヤ山があり、中部の西方には新高山彙が群立して其中に我國第一の高峯である新高山がある。新高山は從來モリソン山と稱せられた山であるが、明治三十六年明治天皇の御命名後今の名を呼ぶに至つたのである。高さ一萬三千七十五尺、群峰を抜いて秀麗を極めて居る。臺灣山脈が其位置本島の東方に偏在して

居る事は本島の平野の分布上に、河流の走向に、將た河岸の状態に於て著しき關係を及ぼして居る。海岸の状態は地圖を按じて明かなる様に、本島の東岸と西岸地方に於ては平野の廣袤著しく隔絶し、東岸斜面には河流の大なるものなきに反し、西岸斜面には大なる川流が朝して居る。又東岸地方は山嶽巍峩として海に迫り、ために東岸の海邊は峻峻の段丘をなして直ちに海に入つて居るが、西岸地方は山系の傾斜極めて緩漫で、西部平野一帯の沃地を形成し、其極遠淺となつて海に入つて居る。かく東部海岸は斷崖絶壁をなして居るために良港と稱すべきものはないが、之れに反し西部海岸は遠淺をなし無變化の海岸は風濤の襲來を防ぐ事が出来ぬために船舶の碇泊に便利な港津がない。僅かに築港工事によつて幾分の不便を除去したる打拘港が西部唯一の良港といふに過ぎぬ。古來基隆、淡水、安平、打拘と並び稱して本島の四大港であつた淡水、安平の二港の如きは港口壅塞して良好な貿易港と云ふ事は出来ぬ。本地方の海岸中舟泊の便より云へば北部海岸の基隆港を以て第一に推さねばならぬ。本港は前に島嶼を控へ、後方に山を負ひ西南風の襲來を防ぎ得る上に、築港工事の人力を加へ以て本島第一の貿易港をなして居る。かく本島の海岸が出入に乏しく従つて

良津好灣を形成して居らぬことは本地方の發達に至大の關係を及ぼして居る。本地方の河川 長形な土地の上に、其方向に添うて大山脈が連亙して居るから従つて大河長流の存在を許さぬ。殊に東部地方にあつては細小の溪流が山脈を縫ひて曲折迂回して居るか或は一瀉直ちに海に朝して居るに過ぎぬ。就中西部地方は分水嶺を發したる細流が西部平野を經由して遠く海に注いで居るから稍長流を涵養し得て居る。然れども之等の川流中には乾燥の季節には全く涸渴して水流を絶つもの多く、然らざるものと雖も流水減少して灌溉の上にも運輸の上にも何等利便する所がない。然るに一朝降雨季に際會せんか濁水滔々として河岸を噛み河畦外に汎濫して災害を及ぼすことが尠くない。古來河流の放恣に任せ何等治水工事を施す事の無かつた本島の河川は道路の開通鐵道の敷設等に大なる障礙を與へて居る。尙ほ又河川の流下する砂礫は河口に砂洲を作り、河口を壅塞して水路を妨害する事が至大である。分水嶺によつて本島の川流は大體西流、東流に二大別されて居るが、上述せる如く東流するものに長流なく、僅かに二十里に前後する一二の川を見るのみである。西流せるものにも長流はないが就中著名のものを擧げて見ると。(一)淡水河 シルピヤ山の

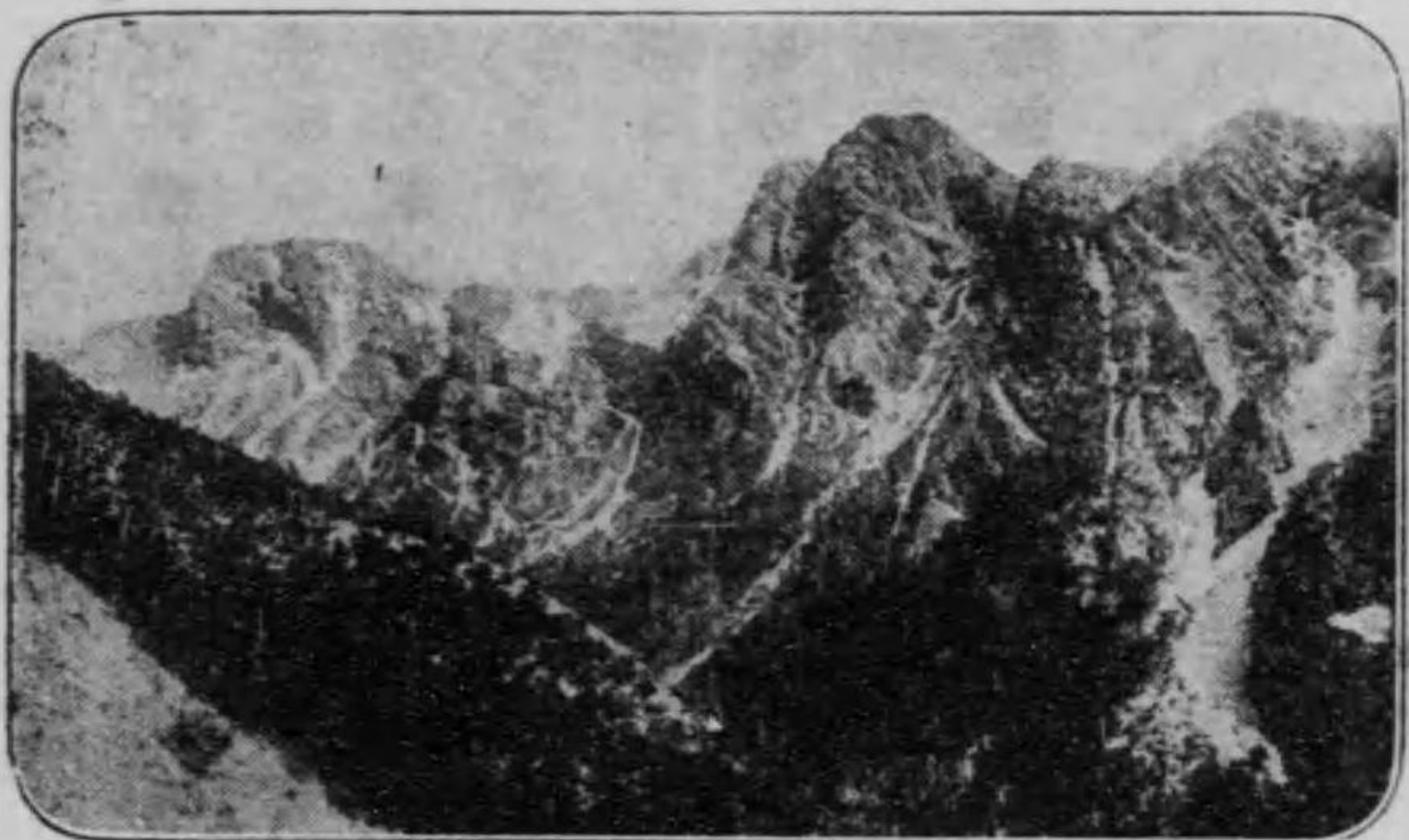
北麓に水源を發し、幾多の支流を合せて漸次水量を増大し、流程三十三里にして海に注ぐものであつて、中流以下は水流緩かであるから舟楫の便多く、五六十噸の汽船は臺北までも溯る事が出来る。灌溉運輸の便ある事本島中第一の川である。(二)濁水溪 流程四十里、本島中第一の長流である。其名の示す如く、粘板岩の地層を破りて流れるために濁流滾々として河底を見る事が出来ぬ。岐流多く分流又常形をなさず河道時々變じて河床下流に及ぶに従つて擴大されて居る。水系の錯雜せる又本島第一と云ふべきである。(三)下淡水溪 新高山の東側に水源を有する川流であつて全長三十七里、中流以下は南部平野を灌溉し、二派に分流して海に注いで居る。北淡水河に對して南淡水溪の稱もある。西部の平野 本島は地勢上より見て最も有利の場所は西部平野の地方である事は一見明らかであるが、この地方は又本島中最も地味肥沃であつて諸種の農産物に富んで居る。即ち米・茶・甘蔗・落花生・煙草・果物等の産出多く沿海地方の製鹽業も有名である。加ふるに此地方は縦貫鐵道の走る所となり、多くの支線平野を横斷し、交通も亦便利である。北部の臺北平野と南部の阿緘平野は何れも西部の大平野に接續して田畑相半ばし本島中の生命をなして居る。かくの如

く平野地方は本島の最も良好の地方であるから人口も従つて密であつて臺灣の人口の約九割餘はこの西部平野地方に住居して居る。

取扱上の注意

地理的用語 屬島。總督府。分水嶺。絶壁。海岸線。灌溉。地味。戸口。溪。△高峻を極め。中に聳ゆる新高山。臺灣山脈は東に急に傾きて。平野に接せり。灌溉の便を與ふ。地味肥え。戸口密。九割餘を占む。

挿繪の解説 (一)新高山 巍々として峻高なる新高山彙を表はせる繪である。新高山は一の山彙をなして主山脈の西方に群峙するものであつて特に之れを新高山彙といふが、圖はこの山彙の中央にある新高山中峯海拔一萬三千七十尺を表はせるものである。新高山は富士山の如く山容秀麗でないが、高峻連嶺の中に群峯を抜いて巍々たる姿を雲表に聳



新高山の頂上

立して居るのは眞に壯觀である。この繪は西方より眺めた繪であつて、近景の大樹は多分榲の木であらう。

自働作業の指導 (一)本地方の面積を他地方と比較して、其割合を定めしむ。(二)本地方の位置を交通上、經濟上、軍事上より見て、其良好なる點を個條書せしむ。(三)臺灣山脈の東偏せる事によりて生ずる自然、人事方面の影響諸點を列舉せしむ。(四)地圖によりて本島の河川及海岸の性質を推究、讀解せしむ。(五)本地方の略圖を描き地勢上の主要事項を記入せしむ。(六)本島の横断面圖を構圖せしむ。教辨物の指示 臺灣地方圖。基隆、淡水、打拘、安平諸港の部分圖。新高山、淡水河、東岸絶壁の繪畫又は寫眞。本邦主要高山一覽表。

參考資料

臺灣の沿革 久しく蕃族の跳梁に委せられて居た臺灣は明朝になつて支那に知られたといふもの、尙ほ其頃は罪人の潛伏所として姦黠なる商人の跋扈地たるに過ぎなくて、云はゞ何處の國にも屬せぬ所謂無所屬地であつたのである。こんな風であるから我が足利氏の末世に於て所謂倭寇と稱するものがこの地の邊海を掠め奪略を恣にした事は誠に是非もない事で當時この地は倭寇等の屈竟の根據地であつたに相違ない。しかも支那は

明朝の末に當つて居て當時鄭芝龍など云ふ海賊の親方が跋扈して剽掠を擅にして居た頃であるから、一層臺灣の地の制御が出来なかつたのである。所が茲に此地に和蘭人が侵入して來た。それは和蘭人が葡萄牙を相手として東洋經營に腐心して居たものであるから、和蘭の東印度商會は機先を制してまづ無所屬島の状態にある澎湖島の占領を敢てした。和蘭人が此地を占領した事は澳門を根據地として居る葡國の上に、又マニラを根據地として居る西班牙の上に、其通商上に打撃を與へた事は大なるものであつた。それが引きつり引つばつて支那の損害になる所から支那は和葡と協商して澎湖島の放棄を迫り、其代り臺灣本島の方を根據地にする事を默認した。所で和蘭は渡りに船と喜んで早速安平や臺南に城塞を築き此を根據地として支那との通商を圖り、又附近の地の經營を始めて本島は全く和蘭人の植民地たるの狀態に歸した。後になりて明の遺臣の鄭成功といふものが臺灣にあつて明朝の復活を企圖しようとして遂に兵を擧げて和蘭人を先づ島外に驅逐し、代り臺南に府を設け軍政を施して明の正朔を奉ずる事正に二十年の太平を生んだ。後に之れが清朝に征服せられて臺灣の地は全く福建省の一部といふ事になり、本島は清國の領土といふ事になつて了つた。清國の領土と定まつてからもこの地には屢々内亂禍變が絶えなかつた。ために我が征臺の師を動かした事もあり、又佛國と清國と戦つた時には臺灣全土が佛國海軍のために封鎖された様な事もある。そんな所から清國は次第にこの地の軍事

的價値を認識し、福建省の管下として放任するは危険だと悟つた所から始めてこの地に巡撫を置き、本島を一省とする事になつた。第一回の巡撫劉銘傳は本島に渡つて其施設經營頗る治績を擧げた。まづ政治上の中心地として今の臺中が南北を控制するに適當である所からこの地に臺灣府を設け、北に臺北府南に臺南府を置き各府下に十三廳を設置し、整然たる行政區劃の下に統一ある政治を施した。而してまづ臺中には大規模の省城建設を圖つたが、この地は成る程地位上から見れば臺灣の中心であるけれども南北府を距る事があまりに遠いために行政上諸種の不便もあり、尙且つ河水氾濫して交通を妨げ、且つ良錨地を有せぬため省城としては十分でない事を看破し、遂に却て臺北の地が省城として好適である事に着眼し、茲に臺中の省城を廢して光緒十七年臺北を以て省城の地と決定した。明治二十八年四月十七日に至つて臺灣は遂に清國の手を放れて確實に我國の領地となつた。最初の間は軍政組織で本島を治めて居たが、二十九年民政組織に更めた。當初の中は臺北、臺中、臺南の三縣及び澎湖島廳であつたが、爾後數度の變遷を経て四十二年の十月十二日に分割した。本島はかくして我が領有後着々として其經營の歩を進め、勸業、教育、衛生、交通等何れも長足の進歩をなし、之を領臺以前に比べるとまことに隔世の感がある。而して今や臺灣は我國の富源寶庫として、西海の要鎮として重大視されつゝある。本島の總督は第一代に海軍大將樺山資紀、第二代は陸軍中將桂太郎、第三代は陸軍中將乃木希典、第四代は陸軍

中將兒玉源太郎第五代は陸軍大將佐久間左馬太第六代は陸軍大將安東貞美而して現總督陸軍大將明石元次郎氏に及んで居る。

臺灣の夏

臺灣の真相は夏に行つて見るのが一番よく分らうと思ふ。世人は一般に臺灣といふ處は非常に暑い處だと思つて居るが世人の思ふ程暑い處ではない。成る程屋外では百度以上の事も往々あるが室内では平均九十一二度極く暑い日でも九十六度から七度位のものだ。そしてそんな日は一年に僅か数日しかない。最も同じ臺灣でも北部と南部とでは氣温も餘程違ひ随つて天然の風光も同一ではないが北部の方は氣温の低い割合に水蒸氣が多いから蒸し暑くて堪へ難く南部の方は氣温が高いが空氣がからつとして居るから比較的凌ぎ易い。其の證據には南部の方ではじつとして居て汗が出るやうな事は滅多にないが北部では毛穴に玉を綴るやうに發汗する。

たゞよい事にはあゝいふ島國だから始終海風が吹いて来る。そのために暑さが餘程減殺されて居る。夕方になると風が少しなが夜九時頃から又涼風が吹き來つて一日の暑さを忘れることが出来る。また月夜などには空氣の關係であらう内地よりは月が鮮明に見えて夏の最中に於ても已に内地の中秋の月の如く澄んで見える。だから月夜の愉快は遙かに内地に優るのである。然し晝間は随分暑くて事務を執るにも汗が滴つて苦しい事は間々あるけれども風土病の「ベスト」マラリヤなどは暑中には殆どない。かういふ惡病の

流行するのは却つて春とか秋とか時候の移り變りの時に多い。だから臺灣を視察する人は却つて夏に行つた方が安全だらうと思ふ。

臺灣の北部と南部とは餘程違ふといつたが北部は多く晴天が續き南部は毎日二三時間の

驟雨がある。驟雨の過ぎた後は實によい心持だ。最も北部でも時々急雨が來て餘程暑さを和らけて居る。

臺灣は水は餘りよい方ではないが暑中でも水に缺乏するやうなことは殆んどない。最も臺北などでも水道の出來ない中は旱魃などになると掘井戸の水が減するやうな事があつたが常用水に不自由を感じるやうなことはなかつた。今の所水に缺乏



して居る處といへばまづ嘉義位のものである。臺北の方はもう水道が出來てゐるが嘉義には適當の水源地を發見するに困難を感じて居るやうだ。

まづ臺灣で一番困るのは蠅と蚊とだ。晝は蠅夜は蚊これには少からず弱らせられる。食事などするにも蠅が眞黒に集まつて之を追ふに忙しい。然し今日では下水の設備が餘程

出来たから臺北などには蠅が餘程減つた。でも田舎に行けばまだ随分多い。蚊は春夏秋冬四季を通じて多い。冬でも蚊帳を釣らなくてはならぬ。一番蚊の多いのは夏の始めと終りとで、暑さの最も強い時には却つて蚊が減る。此の點から見ても、夏の盛りが一番旅行者に便利だ。臺灣の樹木は冬でも殆んど落葉しないから、夏になつても餘り景色が變らない。平地は土人が樹木を切り盡して植林しないから見るに足るべき樹木が少いが、足一度蕃地に入れば、老木大樹鬱蒼として、なか／＼内地では見られぬ光景である。平地では相思樹とか榕樹とかいふものが可なりあつて、夏光線を避くるによい。南部ではソウヤといふ樹が多い。山へ行けば檉椎胡桃等が主なるもので、上の方へ行けば檜などが多い。果實類としてはソウヤ連房燕實鳳梨木瓜瓜の類など澤山出るが、臺灣の果實の特徴は冬の柑橘類にあつて、夏には格別誇るに足るべきものがない。(天島久滿次)

二 住民・産業

教授の主眼

住民の教授に於ては三百萬餘の臺灣人及び十三萬餘の生蕃人も、これ皆新附の同胞なる事を語り、之れを愛撫し相提携するの必要を知らしめねばならぬ。尙ほ本地方は諸種の産物に富み、確かに南海の一寶庫であるから特に産業の取扱

を重んじ、將來益々施設經營其宜しきを得てこの富源を開拓し以て國富の増進を圖る事の必要を十分自覺せしめねばならぬ。氣候は教科書に特記はしてないが産物と關聯して此處で説くがよい。

敷衍及附説事項

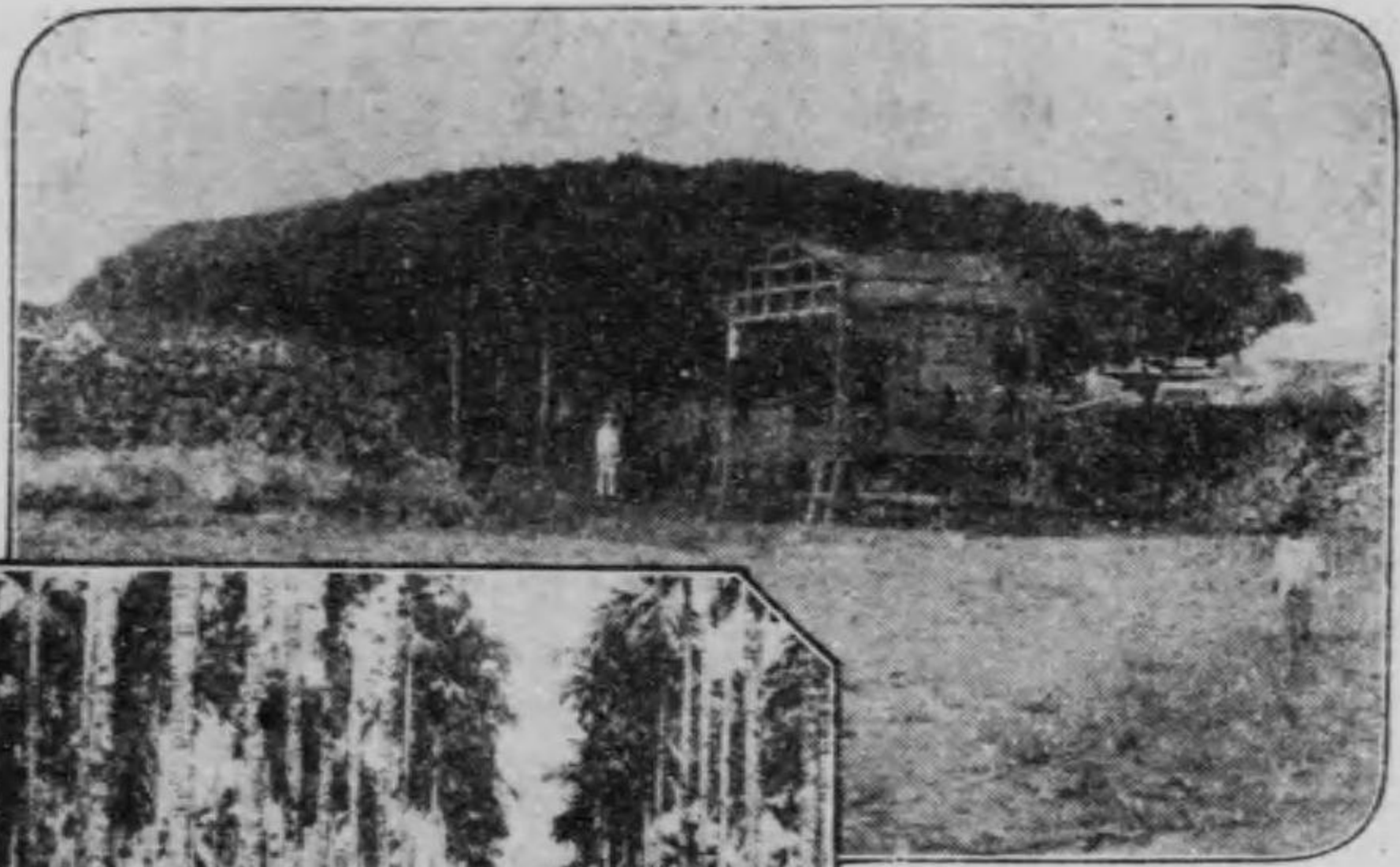
臺灣地方の住民 (一)臺灣人 大正五年末に於ける臺灣人は男女總數三百三十四萬九千人餘を數へて居る。而して此臺灣人は元對岸の福建廣東其他の地方から移住して來た所の支那人即ち漢種族であつて、本島住民の大部分をなして居る。之れ等の種類は主にも西部地方や北部地方に住居して農商の業に従事して居るが、其風俗習慣は支那人と異なる所はない。但し之等の臺灣人間にも近時斷髪の風行はれ、又躡足の弊風去り、次第に國語を解するものも多くなつて來て居る。之等民族の開發は一に係つて臺灣行政の當路者の劃策經營と我が内地移住者の戮力協心にあるといつてよい。(二)土人 本島の土人は教化の程度によつて大體生蕃・熟蕃の二種に區別することが出来る。即ち生蕃は嶮岨なる山地に生活し、他種族と接觸することが少なかつたために固有の兇性を失ふ事なく、今尙ほ武装せる警官及び隘勇を配置して警戒して居る位である。然るに

熟蕃と稱する方は古來西部地方に住居して居たために、いつしか支那移住者の風に化し、今では支那種族と混化して之れを區別する事が困難の状態である。依つて茲には本島の中部及東部地方に住居して居る土人即ち生蕃人について述べよう。蕃人には大體七種類ある。其数の多きものより云へば、中部以内に住居して居るバイワン族及びアシ族、北部に多きタイヤル族、中部以南のブヌン族、ツオウ族、ヤミ族、サイセツト族の順位である。而して其總數は大正五年末に於て十三萬餘に及んで居る。其中最も性質の兇暴なのはタイヤル族である。之等の蕃類は海拔數百尺乃至數千尺の高地に集團或は散居して居るからその制御には一方ならぬ苦心を覺える。蕃人は爭議を決せんとする時、仇敵を復せんとする時、武勇を示さんとする時には今尚ほ敢て人の首をとるを何とも思つて居らぬ。併しながら其性質について見るに怒り易く、迷信が強いといふ様な缺點もあるが、又尙武の氣象に満ちて勇氣に富み、如何なる場合にも虚言を云はず、又教育すれば何事でも覺える良性を有つて居る。現に臺灣總督府の理蕃事業は着々其效を奏して、慄悍獍猛なる蕃民も、次第に歸順して總督府治下の良民と化しつゝある。又南部東部の從順なるものに對しては學校を設けて之れを

撫育し漸次開明に導きつゝある。(三)内地人 内地人にしてこの地移住者は漸次其數を加へて今や十五萬人に及んで居る。之等は北部地方に最も多く、今や東部地方にまで及んで近時新部落の經營をなしつゝある。而してこの内地移住者は本土の開発上大なる貢獻をなしつゝあるものであるが、更に本土の開発を圖る上には一層良質の移民を納れ、以て事業に當らしめ、土人の啓發指導をなさしむるにあるといつてよい。

氣候と植物 全島の三分の一は熱帶圏内に入るから氣候は熱いには相違ないが、しかし島地であるから海洋の影響を受けて他の熱帶地方で見られる様な炎熱ではない、夏日極く暑いと云ふ日でも室内では九十六七度位のもので、しかもそんな日は一年にも數日しかない。南北によつて氣温も違ふから一概にも云へぬが、驟雨の襲來や海からの涼風に和げられるから暑さは内地の暑い所と大差なく、内地人の想像する程ではない。要するに臺灣は夏の間が長期に亙ると見ればよい。即ち五月頃から早や暑氣を感じ暑さは十月頃までも及ぶ。其代り臺灣の冬は東京あたりの春の氣候だから此時こそ樂天地である。(參考資料參照)かく温熱の時季が長いのと雨量が多いために植物は非常に發育がよい。茶・甘

諸は云ふに及ばず、甘蔗、麻等の良産にも富み、米は年に二度の收穫もある。臺灣



檳榔椰子林

球のよりも氣根が長くのんで土中に入り、數幹又は數十幹相集つて壯觀をなせ

がまじの樹木は冬でも落葉しないから鬱蒼たる樹木を到る所に見る事が出来る。但し平地の方は土人の伐採によつて見るに足るべき樹木もないが、足一度山地に入れば、大樹、老木生ひ茂つて日見すの

林をなして居る。山地には檉椎の木などが多く、又檜や杉の林もある。直徑三間もある檜が阿里山にあるが、かくの如きは世界何れの國を尋ねても類を見ぬ事であらう。がじまるは榕樹の一種で本邦では臺灣と琉球とに生長する樹木であるが臺灣にあるがじまるは琉

るものがある。檳榔椰子も熱帯性の樹木で本島に多い。房をなして葉の間に簇生する果實は藥用又は食用に供せられる。樟は支那の南部にも育てば、又印度地方にも無いではないが、未だ世人の注意を惹くに足らぬ。然るに臺灣の樟は世界無比とも云ふべく、土人の濫伐にあつて平地にはあまりないが、山地には老樹枝を交へ巨幹相櫛比して居るから、之れを以て臺灣の特産物たる樟腦及び樟腦油を製出する事が出来る。臺灣の竹も古來有名である。其幹は直徑五六寸にも及び蠶々として生ひ茂れる竹林が數里にも及ぶところがあるといふから以て其壯觀を推す事が出来よう。竹材は建築、製作器具の材料に供せられるばかりでなく、製紙の原料にさへ用ひられる。

本地方の農産 (一)米は農産の首位を占めるもので、大正五年末の調査によれば其收穫四百六十四萬石に達して居る。しかもこの地の米は年二回の收穫がある。品質は内地米に及ばぬが漸次改良せられて居るから後には品質及び粘力が向上するであらう。(二)甘蔗 從來は本島の中部以南の地方で米の栽培が出来ぬ耕地に甘蔗を植ゑて居たのであつたが、近時本島の製糖業が勃興したために、今や澎湖島を除く全島隨所に産して居る。殊に本島の南部地方は其栽培盛

んである。本島の糖業は總督府が銳意其奨励を圖つたために近時益々盛大に
赴き、今や粗糖は本島第一の産物となつて居る。製糖業に従事せる會社は既に



臺南公設市場果物店

二十に餘つて創設され、何れも新興の氣勢凄じ
く其事業に従事して居る。大正四年の調査に
よれば粗糖の産額は五千八百八十二萬餘圓、再
製四萬五千圓に達して居る。粗糖は多く内地
へ移出される。ために内地では從來多量に輸
入して居た外國糖を著しく減退する事が出來
た。(三)茶 茶は本島の北部地方から多く産出
される。製法によつて烏龍茶、包種茶の二種が
ある。烏龍茶は支那米國に輸入され、包種茶は
瓜哇、スマトラ、佛領印度支那に輸出せられる。
近時また紅茶の産出も漸く盛んになつた。(四)
甘藷 農民必須の食料作物として甘藷は木島隨所に産出せられる。而して其
栽培は何れの季節に於ても行はれる。(五)落花生 全島到る處に産し食用に供

せられる外、之よりは油を搾る。而して其油は多く歐洲へ輸出せられ、其粕は肥
料に供せらる。新竹、嘉義、臺中地方が其主産地である。(六)果物 果物は種類に
富み、量に多く、質に秀で、居る。芭蕉、鳳梨を始め、朱欒、蜜柑、龍眼、椪果、蓮霧、番木瓜
等は本島に産する果物である。内地の市場に出て居る芭蕉、鳳梨は多く臺灣よ
り生果のものを移入するのである。

本地方の林産 本島の山林には寒帯性の植物から熱帯性の植物までが生育し
て頗る其種類に富んで居る。針葉樹中の主なるものを擧げると、扁柏、紅檜、臺灣
梅、臺灣杉、大杉、油杉、檜楠等であり、闊葉樹には樟、楠、櫟の種類が有用材である。
此外平地には榕樹、相思樹、檳榔等があり、海岸には紅樹林、綠珊瑚等内地では其
名を聞く事もない様な樹木がある。平野地方は土人の濫伐に會つて大樹巨木
に乏しいが、足一度山地に入ると巨木鬱蒼として生茂り、千古の原生林をなして
居る所が尠くない。山林で有名なのは阿里山の森林及び濁水溪兩岸の森林等
である。就中阿里山は新高山近く、嘉義の東方四十哩餘の所にある大森林で、今官
業を以て伐採をして居る。運材用として嘉義から山上まで九哩餘の林内鐵道
があつて、伐採した材木の運搬をなして居る。山中から伐り出した丸太材は之

等の鐵道によつて悉く嘉義の製材工場に運搬せられる。樟からは本島の特産物である樟腦を産する。樟樹は濫伐の結果平地にはあまり多くはないが、山地には豊富であるから、この樟腦樹の幹根枝を細かく切りとつて桶の中に入れ、之れに蒸氣を通過せしめて樟腦分を含ましめ、之れを凝結せしめて樟腦を得るのである。樟樹は本島の北部地方に多く、全世界中に之れに及ぶものはない。而して其製品たる樟腦は世界總産額の約八割を占めて居るといふから、以て本島が世界需要の大部分を供給して居る盛況を想見する事が出来よう。樟腦は火藥製造、驅蟲劑、生皮貯藏用、護謨製造等の原料として利用せられるが、殊に近時セルロイドの原料として多く使用せられる。セルロイドは硝化綿に樟腦を加へて製したものであるから、極めて引火し易く、火に近づけると樟腦の強い香を發して忽ち灰燼となるはよく經驗する事であらう。大正五年に於ける本島民業の樟腦産額五百二十萬斤、樟腦六百八十萬斤に達して居る。

諸種の工業 製糖製茶は樟腦製造と共に本島の大工業であるが、尙ほ其他で近時勃興せる諸種の工業を列挙して見よう。蓋し本島は諸種の工業原料に富むから、輓近事業熱の勃興と共に、各種の新式工場設置され、漸次事業界は長足の進

歩を遂げつゝある。(一)製麻



(庄 埤 鹽 南 臺) 鹽 製 日 天

芋麻、黃麻を原料として麻織を造ることが臺中を主産地とし、其他にても行はれる。(二)製紙

本島に纖維植物多きを利用し、古來製紙業が行はれて居たが、其産額も少く品質も劣等であつたのを、曩に總督府が模範製紙場を設立して其改良進歩を促した爲に、近時嘉義を主産地として漸次盛大に行はれる様になつた。(三)製帽 本島に生ずる林投カシノミといふ植物を原料として帽子をつくる事が行はれる。之れは臺灣バナマと稱するもので、價が低廉であるから一般に内地でも需要せられる。林投はたゞ製帽の原料となるばかりでなく、巻煙草入、手提籠、下駄表等の製造原料にも利用せられる。この外製粉、醸造、

窯業、石鹼製造業等も漸次盛大になりつゝある。(四)製鹽 水産物中特記する程のものはないが、たゞ鹽は西部海岸地方で天日製法によつて行はれる。而して

其製鹽は樺太・朝鮮の外露領沿海州に輸出せられる。臺灣の鹽田は蒸發池と母液溜と結晶池とあつて、まづ閘門から入つた海水を二日間大蒸發池に置いて後之れを階段になつて居る小蒸發池を順次に落し、五日を経て母液溜に送る。更に之を結晶池に汲み上げて最後に其結晶を採集するのである。上圖の(イ)は母液溜であつて、(ロ)は結晶池である。

本地方の鑛業 (一)金は本地方の最北部である金瓜石・瑞芳の鑛山から盛んに採掘する。金瓜石は基隆港の東方約四里にあつて、水路二時間、陸路四時間で達する事が出来る。金瓜石には金鑛の外に金銅鑛もある。瑞芳鑛山は金瓜石鑛山の更に西方にある金山で此處からは石炭も併せ採掘する。(二)石炭 北部一帯殊に基隆を中心として其附近からは石炭の産出がある。大正四年の採掘高は三十八萬噸に及んで居る。

取扱上の注意

地理的用語 土人。移住。民族。がじまる。びんらうじ。家畜。海外。輸出。主産地。製糖工場。粗糖。製材業。特産物。△商業を營む。地方の開発。がじまる等繁茂し。山地に住し。栽培を主とし。中部以北。二回の收穫。其名

内外に著る。

挿繪の解説

(一)臺灣土人と其住家 竹又は木材を以て造れる土人の家は頗る

原始的のものであつて、恰も我が古代に行はれたる堀立小屋的のものである。一屋根は茅又は割竹・割板・檜皮を以て葺くのが普通であるが、中に石盤石を以て葺けるハイカラのものもある。一概には云へぬが、家は普通二間に三間から、三間に四間位のもので、屋根の低い極めて陰氣のものであるが、適當の所に窓様のものを作つて居るものもある、室内の土間の片隅の方には竹製の臺をつくり其の上に蓆を敷いて居る。これが寢所に充てられる所である。繪で見るやうに家には壁はない。丸太を横に並べたものである。挿繪の左上方に表はしてあるのは生蕃中のタイヤル族で向つて右が男子、左が女子である。男女共に下唇と額とに黥をして居るが、殊に女子は口から耳に掛けて大なる黥を施して居る。黥は男女共に成年となつた標徴として之れを施すのであつて、女子は婚すれば口の周圍から耳に掛けての大黥をなすのである。男女共に耳朶に竹管を貫き、頭髮又は首飾として珠數の如きものを掛けて居る。下着は麻布の丈短いもので、上には赤と白、黒と青の如き太縞のはつきりした袈裟様のものを掛けて居る。

このタイヤル族は清朝時代には最も柔順であつたが、日本政府の統治になつてからは一番手のかゝつた蕃族である。(二)阿里山の檜林 阿里山の森林は明治三十二年の發見にかゝるものであつて、嘉義からの距離四十餘哩に及び其總面積は一萬千餘町歩に互る千古の原生林である。四十尺以上の高地には楮楠木が多く六十尺以上になると檜林が多い。挿繪に表はれて居るは檜林で伐採せる所を示したものである。阿里山の檜は長大なる事他地に其比を見ず、又木理も頗る美しく建築材として好適である。森林の伐採は今官業を以て行つて居る。運材は嘉義から山中まで森林鐵道があり、又山頂への林内鐵道もあるから、之れに依つて其伐採したものは容易に嘉義の製材工場に運搬する事が出来る。(三)製糖工場 手前の方に澤山ある貨車は何れも甘蔗黍を満載して居るので、向ふに見える西洋建の家は製糖工場である。甘蔗を輸送するために設けられて居る軌道は砂糖黍を作る畑までも通じて居る。畑から黍を載り取つてそれを貨車に積み、そして製糖工場に送る。製糖工場では其甘蔗を壓搾機に掛けるのであるが、壓搾機では一列に並んで進み行く甘蔗を順次にルーラに掛けて次第に汁をしぼつて行く。其汁を蒸餾して所謂粗糖を製するのである。白砂糖は

此粗糖が内地に輸送されて、それが白砂糖に精製されるのである。(四)樟腦工場 この工場は粗製樟腦をつくる工場であつて樟の木のある地方にある。樟木の根幹(近時は葉も)を小さく削つて、それを挿繪に三つ見えて居る様な大桶に入れる。そしてそれを釜の上にかけて下から熱を加へて蒸餾する。其蒸氣を三四間の長さもある竹筒内を通して、舟とでも云ふべき水の充たされた水槽の中に導く。すると其蒸氣は冷却されて其處へ結晶する。この結晶を寄せ集め四角な塊として後、之れを中の凹んだ舟の上に並べる。すると水分は下に垂れて其結晶は乾いて行く。圖に見る正面の白い切石様のものが積重ねてあるのは粗製樟腦で、今其水分が滴下するのを水甕にうけて居る装置である。この液は樟腦油といふので、この樟腦油からは諸種の驅蟲劑又は香水に類するものを作る事が出来る。粗製樟腦は之れを臺北の樟腦專賣局へ送つて精製するのである。本圖は即ち粗製樟腦の製法を示せるもので、竈や蒸氣を冷却せしめるための水槽の設備は見えぬ。數箇の甕は何れも樟腦油の入つて居るものであつて、これは前にも云つた様に專賣局へ送つてから、其處で再製樟腦を採るのである。自動作業の指導 (一)臺灣産の諸種の産物を家庭にて蒐集し持來らしむ。(二)臺

海地方の略圖を描き主要産物の分布を明らかに記入せしむ。(三)臺灣が西海に於ける我國の寶庫と稱せらるゝ理由を列記せしむ。(四)臺灣に移住して事業をなす上の計畫を立案せしむ。

教辨物の指示 臺灣地方圖。生蕃人の風俗圖。烏龍茶樟腦セルロイド臺灣夏帽等の標本。製糖工場製鹽場樟腦工場阿里山森林等の寫眞繪畫。各産物産額一覽表。

參考資料

大正五年に於ける臺灣の生産

漁獲物價額	二、一〇二、七九八 _圓	製鹽	五、一五八、八八六 _圓
粗製糖	一〇五、二七五、六三六	粗製茶	五、一八七、六四四
再製茶	七、九二三、七〇一	樟腦	五、二〇八、八四三
樟腦油	六、八〇八、五一六	金	一、九一〇、九一七
銅	一、二八四、〇七四	石炭	一、九〇五、六九五

砂糖のつくり方 砂糖をとる植物には甘蔗の外に甜菜さたうだいこん樹木さたうかへで砂糖椰子さたうやし蘆粟さたうもろこし等があるが中で一番多くとられるのは甘蔗

である。甘蔗さたうきびは禾本科に属する植物であつて其幹の高さが一丈から二丈にも及び竹の様な節があつて節と節との間が三四寸から五六寸に及ぶ。この甘蔗から砂糖をとるには如何なる方法を用ひるかといふと、まづ最初に甘蔗莖を搾つた液汁に石灰を加へて煮ると石灰が糖汁の酸性を中和したり、色々の雜物を固まらしたりして泡立つ。そこで之等の泡を掬ひ去つた液汁を蒸發して結晶さすと此處に黑砂糖が出来る。而して其蒸發結晶させない前に更に牡蠣灰を加へて沸騰し雜物を掬ひ取つてから冷養を経て素燒の結晶囊に入れ水分を吸収さすと、そこに白砂糖が出来る。但しこの中には結晶すべき糖分と結晶しない糖蜜と混じつて居るから器械にかけて之れを二分する。そして糖分ばかりを集めて骨灰の中を一二回通過させると中白糖が出来る。又之れを何回となく骨灰中を通過させて全く白くしたものは天光とか初雪とか或は和三盆などといふ白砂糖である。(生物界の智囊)

茶の種類と製法

煎茶……蒸した新芽を掌の間で揉み、焙爐で乾かして製する。相生上喜選などの種類がある。

玉露……煎茶の最もよいものである。但し茶樹の發芽前、一二週間位から實子を以て其上を覆ひ新芽が直接日光に中らない様にすることが煎茶と違つ

緑茶

て居る、宇治の産が名高い。

碾茶……玉露のやうに覆下園の新芽を蒸し其儘乾かしてから筋を去り石臼で碾いて粉にしてある。茶煎で掻き廻して飲む。

番茶……新芽の蒸煮にしたものを僅に揉み乾かして製する。

紅茶……生葉の其儘日光で乾かしたものを醗酵させるから、紅褐色になる。尙ほ數回の手數を経てから、焙爐で乾かして製する。福岡縣支那錫蘭島などで出来るものが名高い。

紅茶 烏龍茶……萎れた生葉を手で攪拌したり、釜で早く炒つたり、足揉みをしたりなどして、最後に焙爐で乾かして製する。實は紅茶と綠茶との中間物である。臺灣や支那福州の産がよい。

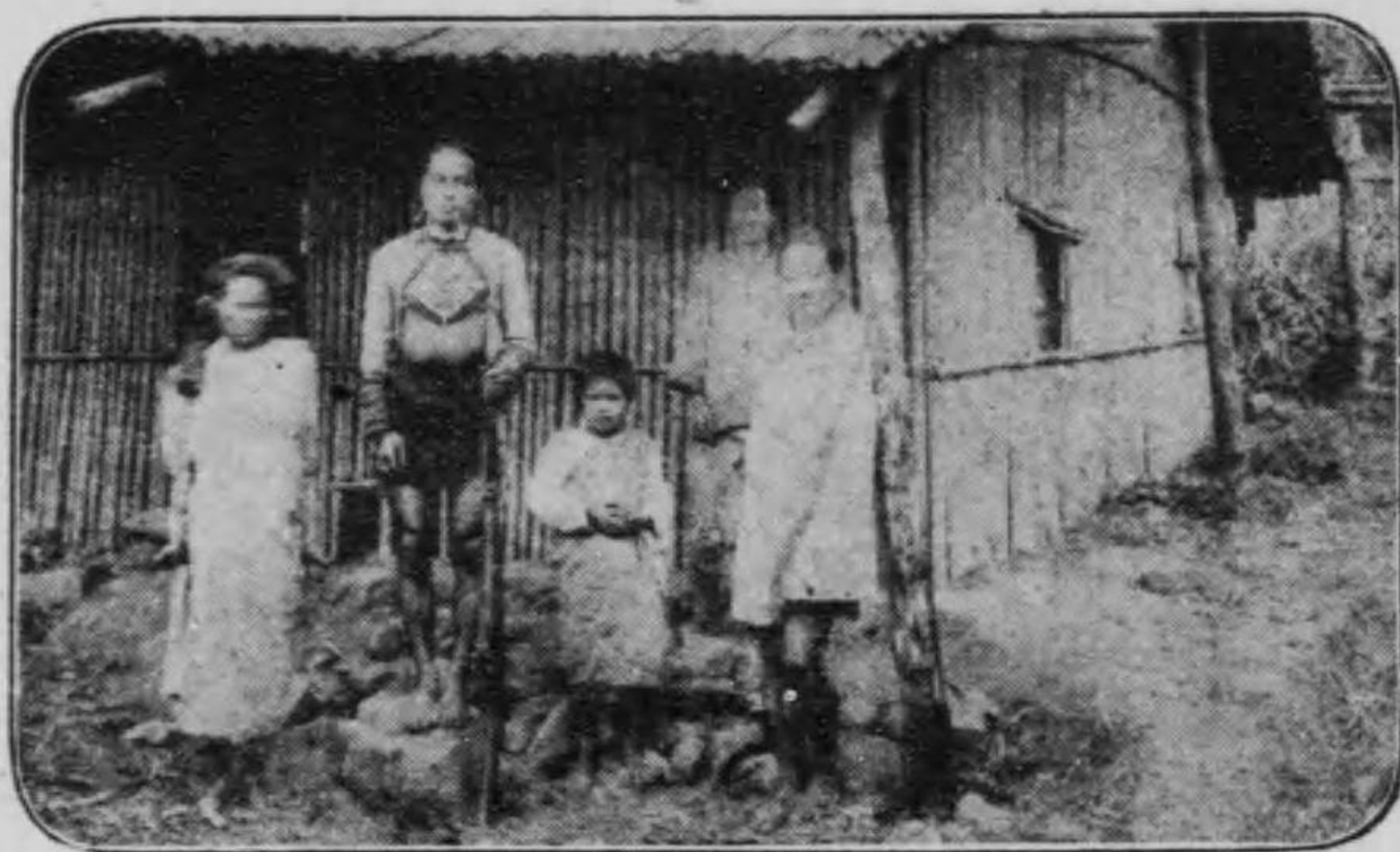
磚茶……紅茶粉を、板狀や煉化形などに壓搾して固めたものである。削つて煎用する。多く支那からシベリヤに出る。

綠茶の製法には、宇治法、釜熬法の二あり、宇治法は、摘取りたる茶葉を蒸籠に入れて適度に蒸上げ、一旦冷却せしめたる後之を焙爐に移し、乾燥しつゝ、兩手にて搓揉して一定の形狀となし、茶葉十分に搓揉せられ、水分殆ど除去せられたる後、更に溫度低き焙爐に移して乾燥せしめ、篩に掛けて夾雜物及び粉茶を去り、茶壺に收めて貯藏す。綠茶は海外に輸出するに先だち再製に附す。これ一は乾燥不十分より生ずる變質變味を

防ぎ、一は各種の茶を混じて輸出向に適する混合茶を作る目的に外ならず。而して再製法には、鍋焙、籃焙の二法あり。鍋焙法は、徑一尺七八寸の深き鐵鍋を適度に熱し、製茶を此の中に入れて攪拌しつゝ、乾燥す。又籃焙に用ふる籃は、徑約一尺八寸高さ二尺位の鼓形にて、中央に底を設け、茶を其上に置き、火爐に載せて乾燥す。若し再製茶に着色せんとせば、少許の着色材料を豫め製茶に混じ置き、再乾を行ふ。乾燥し終れば之れを篩に掛けて荷造す。紅茶の製法は、摘採せる生葉を日光に曝露して萎凋せしめ、少しく柔軟となるを待ち、牛又は機械にて揉和らけ、日光に晒して之れを塊となし、筵又は桶中にて醗酵せしむ。これ紅茶製法の特徴にして、綠茶と異なる一種の香氣と色澤とを有する所以なり。而して茶褐色を帯ぶるに至れば再び太陽に晒し乾燥して篩ひ分け、粉末を除きて之れを數種に分つ。烏龍茶の製法は紅茶と同じく、生葉を日に乾かし、柔軟となるを待ち、之れを平釜に入れ、蒸炒しながら揉み、焙爐にてよく乾かし、篩に掛けて選別す。包種は品質稍々劣れる烏龍茶中に、一種の香氣高き花を挿入して香氣を附けしものなり。磚茶は紅茶又は綠茶の粉末を暫く蒸し、之を壓搾器に掛けて縮付け、板形に仕上げたるものなり。(最新商品學)

生蕃の状態 生蕃人の容貌は馬來人種に似て居る。進化の程度は種類によつて遲速がある。概して北部に住んで居る蕃人は其性質が頑迷殺伐で、今尙首狩などを行ふ風がある。

之れに反し南蕃の方は稍々開化の風に染んで来て居る。タイヤル族などは男女共に成年の表章として顔面に黥をする。又舊慣によつて門齒の右左各々一枚づゝを抜き取るの風習もある。各蕃社には夫れく頭目となるものがあつて其社を統べて居る。蕃社の組織は粗笨であるがしかし其結合は中々に鞏固であつて頭目の指圖によつて水火尙ほ辭せぬ概がある。生業は昔時に於ては狩獵一式であつたらしいが近時は農業を營んで居る蕃社もある。アミ族やヤミ族などいふ蕃社では獨木舟を造つて近海に漁獵をして居る者もある。手工の技は中々巧みであつて随分凝つた彫刻などをしたりまた織美な編物などをす。各種族共に武器は最も尊重するものであつて弓、槍、刀、冑などを有つて居るが彼等の中には又支那より輸入された所の精巧な銃を使用して居るものもある。衣服は自ら麻を紡いで布を織り之れを以て衣を造つて纏つて居る者もあれば又支那より輸入した綿布を以て衣をつくつて居る者もある。男子は女子よりも服装は一層簡單で殆んど半裸體の姿で僅かに褌を以て陰部を蔽ふて居るものすらある。男女共に首飾を用ひ羽毛などにて頭髮を飾り、珠牙貝等を貫いた紐を首に巻き或は胸にかけて裝身に供して居る。食物は一般に粟が必須品で、稗、玉蜀黍、芋、米も必要な食料である。副食物は鹽又は山椒、胡椒の類で其他は用ひぬ。木匙を以て食するのは少し品のよい方で、多くは手掴みで食事をとる。粟又は米で酒を醸し之れを飲料に充て、又煙草を栽培して之れを喫烟する事は他人種と異らぬ。住



家住の人蕃社(一ボ一コ)

家は多く木造で屋根は茅又は割竹を以て葺く。我國が本島を占領して以來、之等蕃民を順良の民たらしめんがためには随分幾多の苦心と手段とを用ひて居る。即ち隘勇線なるものを設けて漸次生蕃の領域を占領し、彼等に威壓と撫育とを施し以て歸順せしめんと圖つて居る。隘勇線といふのは隘勇配置の線を云ふのであるが、さて隘勇といふのは何をいふのかといふと、これは徵集した土人の壯丁に多少の軍事的訓練を施したものであつて、生蕃の來襲の防備、壓迫の手段として恰も軍隊に於ける歩哨線の状態に配置されたものである。所々巡查を置いて監督の任に當らし四五箇所を連ねて警部も置いてある。之等の隘勇は四顧鬱々たる深山中に於て、雞犬の聲もなく、人語の微語も聴く事なく、ひたすら警備の任に當りこの防備線を冒して蕃人の出づるを防ぎ以て蕃界に近接せる民衆の安寧を保持して居る。時に依ては蕃民の出草(首狩)に會ひ巨木深林中に其賊に殉するものも少なくない。かゝる危険なる理蕃策は着々其功を奏して、今や南部及び東部には蕃人にて歸順したるも

の多く、ために學校を開いて教育の端緒を開いて居る所もある。北部兎蕃中にも已に歸順して撫育を受けつゝ、あるものも尠くない。武装せる警察官及び隘勇が鐵條網を架し、砲壘を構築し、延線百里にあまつて警戒をなしつゝ、ある現時の状態も、懸ては蕃民の歸順降伏によつて其煩なく、十三萬餘の蕃民も鼓腹擊壤して王化に霑ふ日が來る事も遠からぬであらう。

三 交通

教授の主眼

本島西部の縦貫線を中心として陸上交通の主要を授け、又基隆打狗を中心として海上交通の状況を授くべきである。尙ほ交通の教授に關しては曩に授けたる地勢の大體を復習し、地勢と交通との關係を考察せしむるがよい。

敷衍及附説事項

陸上の交通 地勢上本島は南北に大山脈が連亘して居るから、勢東西の交通は不便を免れぬ。尙ほ又中央山脈が東方に偏して居るために、西部に稍々大なる平野を残し、この方面は交通多少便利であるが、東部は山岳海岸地方までも迫り、

交通頗る不便である。陸上の交通を助ける最も有力のものは西部を南北に縦

貫せる縦貫鐵道である。この鐵道は本島の東北基隆を起點とし、臺北臺中嘉義臺南を経て打狗に至る二百四十六哩八分の幹線であつて、支線には淡水線阿里山線鳳山線などがある。尙ほ外に製糖會社其他の敷設になつて居る幾多の輕便鐵道があつて、之等が何れも官營の幹線に相接続して、西部平原の交通網をつくつて居る。東部には花蓮港から臺東に至る臺東線がある。



淡水港

海上の交通 東部海岸は山岳迫つて絶壁をなして居るから従て良灣港津なく海上の交通極めて不便である。西部海岸と違つて砂濱連り

遠淺をなして船舶海岸に近づくを得ず、これまた海上の交通を妨げる事が少くない。依て本島の海運は港の設備整つた基隆打狗の二港を中心として行はれ

る。海上の交通は大體これを分つて本島内地間の航路、南支那航路、本島沿岸航路の三つにする事が出来る。之等の航路に従事して居るのは主として大阪商船會社の汽船であるから、今大正七年六月現在の同社臺灣航路案内を示さう。

- 神戸基隆線 毎月四回 神戸發門司經由基隆行
- 横濱打狗線 毎月六回 横濱發神戸、宇品、門司、長崎、基隆、澎湖、島安、平、打狗行
- 臺灣沿岸東線 毎月六回 基隆發蘇澳、花蓮港、卑南、火燒島、紅頭嶼、大板埕、打狗行
- 同 西線 毎月二回 基隆發澎湖、島安、平、打狗行
- 基隆香港線 毎月六回 基隆發廈門、汕頭、香港行
- 打狗廣東線 二週一回 打狗發廈門、汕頭、香港、廣東行
- 打狗天津線 毎月二回 打狗發基隆、福州、上海、天津、大連行

尙ほこの外に毎月一回神戸を發する南洋線は本島の基隆に寄港する事になつて居る。又臺灣支那間には支那船(ジャンク)の航通が多い。

取扱上の注意

地理的用語 幹線。起點。支線。航路。△不便を免れず。港の設備すでに整ひ。船舶常に輻輳す。

自働作業の指導 (一)本地方の略圖を描き主要線路、主要航路を記入せしむ。(二)東西兩部に於て交通上便否ある理由を個條書せしむ。(三)支那海に於ける交通上の位置良好なるを記述せしむ。(四)横濱、神戸等より基隆、打狗等に至る所要日數及賃錢を概算せしむ。

教辨物の指示 支那海に於ける本島の位置圖。大阪商船會社臺灣航路圖。同社臺灣航路案内。旅行案内。臺灣定期船一覽表。輸移出入重要品價格表。鐵道沿線及び沿海主要港の繪畫繪葉書。

參考資料

大正五年度本島出入の定期船

種別	航海度數		乗客人員	貨物噸數
	往航	來航		
臺灣間	一三八	一三八	三三・七三四	二三五・〇三九
内地	一三六	一三六	三五・〇五九	二四六・二五四
臺灣沿岸線	一三七	一三七	二二・八三六	三九・九三四
沿岸線	一三七	一三七	二二・二六九	二四・九三七

南洋線	臺灣間	
	往航	復航
復航	一一〇	一一〇
往航	一一〇	一一〇
復航	三六八〇八	四一七二六
往航	四一七二六	三六八〇八
復航	二八三	四三四
往航	二八三	四三四
復航	二四・一五九	二一八・四〇三
往航	二四・一五九	二一八・四〇三

輸移出重要品價額

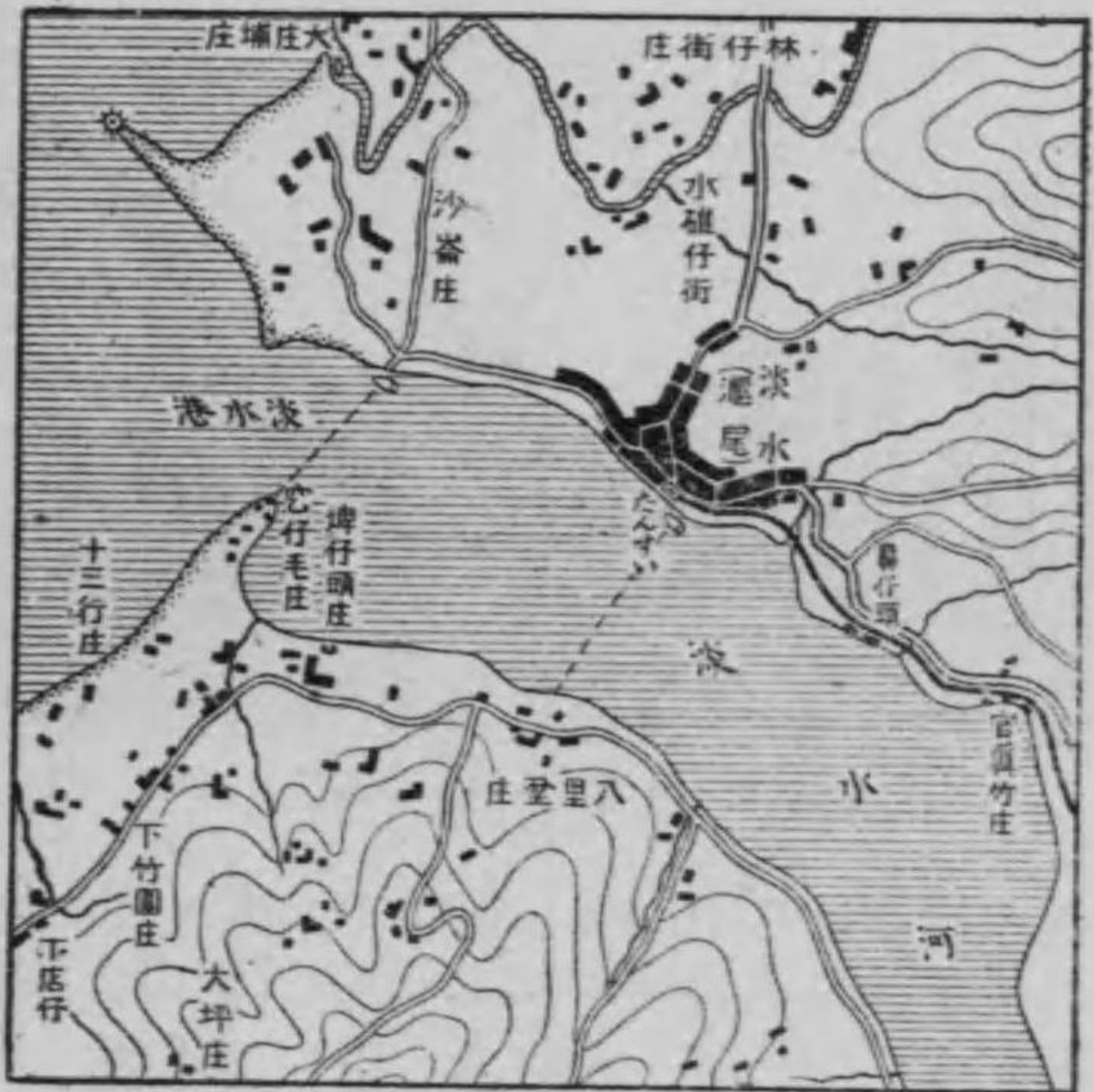
種類	大正三年	同四年	同五年
砂糖	二七、六七四・七九一 ^四	三六、三六八・二二一 ^四	六三、〇〇九・三四九 ^四
米	六、九一六・八七三	八、一三二・四八	八、一三二・四八
烏龍茶	四、二三八・四七八	五、三二五・〇一〇	五、二五七・七八六
樟腦	五、三五七・一四八	六、二七二・〇〇七	二、三三三・五五八
樟腦油	一、六四六・九〇二	一、六四六・九〇二	二、三三三・五五八
包種茶	二、四七四・一七	二、七六七・二一七	二、三九三・三八三
芭蕉實	五、八七〇・四六	六、八四七・七八七	一、〇五五・九三九
苧麻	六、四一三・三二一	四、〇五八・一八	四、三三・八三八
龍眼	一、二四三・三九〇	五、七二五・六	二、二八六・三三八

輸移入重要品價額

種類	大正三年	同四年	同五年
綿布類	五、六二〇・四五六 ^四	四、八六三・五七二 ^四	六、一五三・四二〇 ^四
鴉片	一、八四五・五三六	二、一九〇・八九七	三、七二四・一三二
木材及板	二、〇九六・五五五	一、七五四・三三〇	一、六九二・〇一一
海產物	四、五八四・九一四	四、七五三・八六八	五、三九二・〇六六
肥料	三、七六三・九四五	五、三九二・〇六六	七、〇一〇・六五六
酒類	二、七〇七・〇一一	一、九三九・一一一	二、二二五・五四〇
煙草類	一、八三一・八〇四	一、八三一・八〇四	一、一六六・七六
セメント	一、三五〇・三一九	七、一八七・二四	一、〇四六・七四九
麥粉	一、三五〇・三二六	一、一五一・八四五	一、〇四六・七四九
石油	一、三七八・五五八	九、九四七・七三三	一、二九三・七三六
米	一、一八九・七二三	九、九四七・七三三	一、二九三・七三六

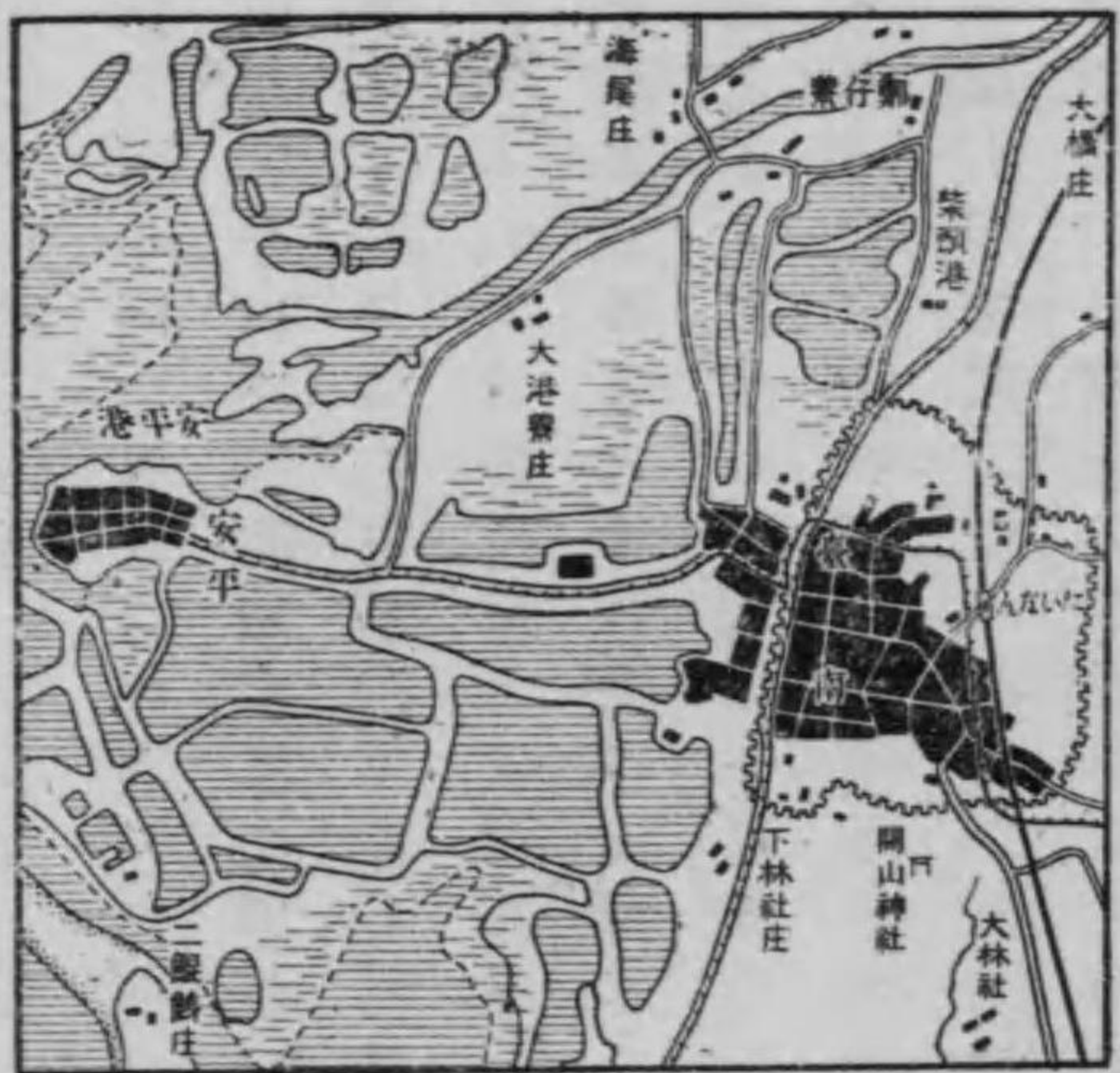
四都邑

艋舺の三部に分れて、總人口十萬、城内には主要なる官衙及び學校等がある。内地人は最も此處に多い。艋舺、大稻埕は共に臺灣人の市街であつて淡水河に沿ひ商業が盛んである。三市街共に市區改正が施され廣大なる街路宏壯なる建



築物等多く、内地の都市よりは遙かに都市としての形式を備へて居る。臺北の北一里の所には官幣大社臺灣神社がある。明治三十四年の鎮座であつて社殿宏壯近傍の圓山公園と共に世に知られて居る。(三)淡水 淡水河口の東岸に位し開港場であつて茶の積出し盛んである。淡水河の流し出す土砂のために港内を埋められ水浅く潮の満ちた時でないと大船を容れる事が出来ぬ。加ふるに近時基隆港の發達と共に本港は其勢力を次第に奪はれる姿になつて居る。本港は其位置臺灣海峽を隔て、對岸の福州、廈門、香港に渡る要津に當つて居る

からは是等地方との貿易關係が多い。(四)臺中 此地は改隸以前一時臺灣府城と定められ城壁の建設を見んとしたのであるが、中途に府城を臺北に移した爲に、



未だ市街の形をなして居なかつたのを、近年縦貫鐵道の中央驛となり漸次盛大に赴いたのである。附近は地勢平坦であつて沃野相連り砂糖の産出が多い。人口一萬六千基隆からは百十九哩の距離にある。(五)嘉義 嘉義は人口二萬二千、古來本島の經濟中心をなせる地であつて、今尙諸種の工場多く、百貨幅輳して市況の活潑、臺南を除いては本島第一である。附近の沃野は米及び砂糖の産出が極めて多く、又臺灣製糖會社が此地に設けられて、附近一帯は製糖事業の一中心地をなして居る。木材輸送の目的を以て此處から阿里山に鐵道が敷設されて居る事は前に述べた如くである。製糖に次いで此地には又製紙、製氷の業も行はれる。(六)臺南 基隆を距る二百八哩の西南

にある都會で人口六萬二千、南部の中心都市である。この地は嘗に鐵道上の要路であるばかりでなく西方に安平港を控へ、水陸交通の要衝をなして居る。砂糖、樟腦麻の産出多く、殊に甘蔗はこの附近が本島第一の良産地であつて、長大の甘蔗到る處に鬱蒼と生ひ茂り、數多の製糖會社がために興つて居る。この地は約二百年間中央政府の有つた所で、嘗ては本島第一の都會であつたのである。而して今尙ほ寺院廟宇等の歴史的遺物が尠くない。(七)打狗 古來淡水と並び稱せられた所の貿易港である。特に本港は西南風の暴れる時に安全なる錨地をなすので、此點に於ては西海唯一の安全碇泊地である。近時港を浚深し、岩礁を除去し、専ら大船巨舶の入港につとめて居るが、併し今尙南部主要の貿易港と云ふ事は出来ぬ。人口一萬五千、港の改築と共に漸次繁華に向はんとして居る。米穀砂糖の積み出し多く、近來内地人の移住者が日を追うて多い。(八)阿緞 この地も製糖業の一中心地であつて、大なる製糖會社がある。(九)花蓮港 東部海岸に位し、臺東線の起點をなして居る。港は夏季風波穩かなる間は碇泊に適すけれども、冬季北東風荒ぶ頃になると碇泊に不便である。この地は内地人の移民を奨励し歓迎したるために、近時内地人によつて新部落が組織され農業の開

拓を見るに至つた。

澎湖島 澎湖諸島は大小六十餘の島から成つて居て、其中稍大なる三つの島が巴形になつて中に一大灣を抱いて居る。この島は其高度五六十尺の低山性の丘陵から成つて居るから、猛風を凌ぐに由なく、ために丘上には喬木なく、又清水に乏しい。島民は水田を得る事が出来ぬから、高粱落花生、甘藷を栽培し、漁撈をなして生業として居る。澎湖諸島は其位置臺灣海峡の中央に位し、軍事上我が南門の鎖鑰をなして居る。澎湖島にある馬公は良港であつて、臺灣本島に於て風波の避くべからざる時であつても、本港に入れば尙ほ避難する事が出来ると云はれて居る。たゞ港口に暗礁多きは此港の缺點であるが、一度港内に入れば大船巨舶も自由に碇泊する事が出来る。人口五千安平港との間に定期航路がある。而してこの港は海軍の要港である。

取扱上の注意

地理的用語 樟腦油。鐵道幹線。中心市場。製糖業。村落。海軍要港。△臺灣島の門戸。河口に臨みて。鐵道幹線に沿ひて。南部の中心都會。低き岩がちの島々。

挿繪の解説 (一)基隆港 本圖は交通の部都色の部どちらへも通じて使用すべき挿繪であるが、便宜上此處で述べる。大汽船の碇泊して居るのは大棧橋ではなく、たゞ海岸に設備せる繫船岸であつて、普通この地では岩壁と呼んで居る。この岩壁は基隆港を入ると右岸にあたりてあつて、此岩壁の長は六千噸級大汽船が四五隻も一時に碇泊し得る程である。岩壁にはレールが敷いてあつて貨物の運搬に便し、又起重機の装置があるから大貨物の積込み陸揚に容易である。起重機はレールの上を左右に動き得る事が出来るから、汽船の碇泊位置に之れを運轉して行くの便がある。但し起重機の設備の完成して居るのは基隆よりも寧ろ打狗の方が勝つて居る。(二)臺北の市街 遠景の山は大屯山麓であつて近く臺北市街の主要部を寫せるものである。畫面に表れて居る主要物を説明して行くならば、右下の大なる建築物は民政長官の官邸でこの繪には見えて居らぬが、この民政長官官邸と大通を隔て、相對して居るのが總督府である。官邸の裏手畫面の中央部一帯は臺北公園であつて音楽堂噴水も見えて居る。噴水に對し南面して居る大建築物は博物館で、この博物館後方の大通を北に數丁行けば臺北停車場に行くことが出来る。臺北公園の東繪で云へば公園の向手

に長い建物の東西に亘つて居るのは臺北病院で、病院の北挿繪で云へば公園音楽堂から一直線を引いた其線上の高い洋館の見えるのは臺北廳である。

自働作業の指導 (一)臺灣地方の略圖を描かしめ本島の主要都市を記入せしむ。

(二)本島中各都市の發達原因を明らかならしむ。

教辨物の指示 臺灣地方都會分布圖。臺北市街圖。基隆淡水打狗港部分圖。

臺灣神社及び臺北市街名勝寫真及繪葉書。

參考資料

臺灣植民案内

臺灣は母國農民を移植するの餘地が極めて少いから、之れが移住は數に於て多からんよりは、實に於て優秀なることを期して居る。故に之れが採用方法は嚴密であつて、移住希望者の出願に際しては、願書に移住者の氏名、年齢、携帶金額及び疾病の有無を記載せしめ、願人が戸主でない場合には、更に戸主の同意書を要し、尙添附書類として職業、資産、健康状態、兵役關係及び賞罰に關する町村長の身許證明書及び戸籍謄本を提出させ、適當と認めたる者に對しては更に各府縣の警察部長に依頼し、願人の生業系統、健康状態、素行及び性癖、教育程度、家庭の折合及び郷黨間の信用交誼、生計状態、及び携帶金額其他參考となるべき事項を調査し、斯くて警察部長の回答に依り採否を決し、採用者に對しては願書の提出

を命じ、汽車割引券を下附し渡航せしめる。而して移民採用の標準は、

- 一、臺灣に永住し、意志堅固にして農を專業とし、農業に縁故なき他業を經營せざること。
 - 二、身體強健にして他人に嫌忌せらるべき疾病なきこと。
 - 三、素行正しくして嘗て刑罰を受けたることなく、大酒賭博の惡癖なき者。
 - 四、既に一家を爲し、又は新に別家して一戸を作り、家族を引連れ移住する者（但し家事の家族全部を同伴すること能はざる者は、差當り）
夫婦だけ移住し、他は一ヶ年内に呼寄すること）
 - 五、渡航旅費の外、收穫あるまでの食費として移住者二人の者は百五十圓以上三人の者は二百圓以上、四人の者は二百五十圓以上、五人以上の者は一人に付五十圓以上を現金又は郵便貯金にて携帯する者。
 - 六、勤儉にして業務に精勵し、且つ母國人たる體面を保ち得る者たること。
- 尙此他特殊部落に屬する者及び本島在住者、並に滿洲朝鮮樺太及北海道其他植民地に在住する者は移民争奪の弊を避ける趣旨に依り之を採用しない。而して目下之が募集は専ら九州、四國、中國地方に於て行つて居る。
- 國家として植民地に於ける諸般の施設を爲して、間接的保護を爲すの外更に植民に對して、
- 一、汽車汽船割引。
 - 二、金品の給與。

三、金品の貸與

四、其他の保護獎勵

五、貸與費償却上の恩典

等、各種の直接保護を與へる。

植民地は東部臺灣に於ける十五の大團地、及び多數の小團地計四萬五千六百九十二町餘で、其土地の割當は抽籤法に依るのである。而して一人に對し一町歩宛で、宅地は一反五畝歩宛である。尙本島移住希望者は其詳細を臺灣總督府に照會するがよい。（最新海外植民地案内）

第三 北海道地方

一 區分・地勢

教授の主眼

本地方の位置を明らかにし、次に其區分を示し、主として北海道本島の地勢について詳細に授くべきである。而して地勢は南北に縦走せる蝦夷山脈と東西に走れる千島火山脈が、恰も菱形の對角線に沿ひて連互し、本島の中央部に於て

相會せる狀勢を明らかにし主要なる水系もこの兩對角線によつて知られたる斜面に發展し、平野の分布亦之れに従ふの關係を明瞭に知らさねばならぬ。氣候は主として産物、交通と相關聯して説く事が出来るが、又地勢の狀勢より推して其氣候に及び、生物分布上別天地をなすの事實を茲にて附説すべきである。

敷衍及附説事項

本島の山脈 (一) 蝦夷山系 蝦夷山系は樺太島から一度海中に没し、宗谷海峡を越えて本島に渡り、北部より南にかけて、本島を縦貫する所の大山脈である。北部に於ては西に天鹽山脈をなし、東に北見山脈を起し、其間に天鹽川の溪谷をつくつて透迤南に連互して居る。天鹽山脈は北見山脈に比べるとあまり山勢が高峻でなく、平均高度六百米に過ぎぬ。蝦夷山系の南部は日高山脈をなして南方に展び遂に襟裳岬に終つて居る。而して此山脈は十勝、石狩、日高三斜面の分水嶺である。日高山脈の西方石狩川の支流である空知川を隔て、夕張山脈が連互して居る。而して此山脈には石炭の埋藏多く、夕張嶺内、幾春別等の大炭田がある。(二) 千島火山脈 菱形をなせる本島の南北對角線上を走る蝦夷山系と交錯せるものは千島火山脈である。この火山脈は露領カムチャッカ半島に發

し、千島列島を形成して、十數基の活火山を起し、斯くして本島に入つたものであつて群中の主峯旭岳は高さ七千七百尺、山勢雄大なるを以て知られて居る。(三) 那須火山脈 本島の西南に當り半島の頸部をなせる所は恰も千島火山脈と那須火山脈との交錯せる所であつて、此處には幾多の火山噴出し、其活動の頻繁なる事本邦有數の地である。那須火山脈は津輕海峡を渡つて本島に入るや、渡島半島の東南端に惠山を起し、駒ヶ嶽を噴出し、内浦灣を迂回して灣の北岸に有珠火山、更に其北部には蝦夷富士の美名を持つて居るマツカリ岳(六四〇〇尺)の秀峯を起して居る。かく内浦灣を包みて幾多の火山屹立して居るから、内浦灣は一名噴火灣とも稱せられる程である。以上述ぶる如く本島の山脈は那須火山脈が本島に入りて半島部の山脈を形成し、中央部に於ては南北連互の蝦夷山系と、東西連互の千島火山脈とが交錯して、山勢雄峻を極め、千島火山脈は更に西に延びて那須火山脈に會して居る。

本島の河流 北海道本島は其地形菱形をなし、上述せる如く其對角線上に山脈連互して居るから、河川の流下する斜面は自ら四面に分たれて居る。四面とは何ぞ。日本海斜面、オホーツク海斜面及び日高山脈によつて分たれる太平洋方

面の二斜面とこれである。而して此四斜面は流走の方向や其河流の延長に於て殆んど相對比すべき細流巨川を有して居る。(一)石狩川 流程九十里餘、我國著名の大川である。この川は水源を蝦夷山系中の石狩岳に發し、流路蛇曲して西に及び、深谷を刻み、急瀑となり、或は上川盆地を灌漑し、古來北海道一の名勝の



名を恣にせる神居古潭の深峽を過ぎ、中流より下流にかけて豊饒なる石狩平野を涵養して其末終に日本海に注いで居る。而して低平なる平野に下つてからは流れ極めて緩かに、流出する砂丘幾度か河口を塞ぎて河道曲折迂回し、長く海岸に沿うて走るの奇觀

を呈して居る。かくの如き状態であるから下流附近では川底深く水流緩であつて運輸の便よく凡そ五十里の間小汽船の溯航を見る程である。(二)天鹽川 流程七十八里本島では石狩川に次ぐの長流である。而してこの川は流程の大

なる點に於て、其流路の逶迤曲折せる點に於て、其河口の容易に海に朝せず沖積平野と海岸と並行し、辛くして斜に朝宗せる點に於て、石狩川と相酷似せる點が頗る多い。僅かに相違せるは石狩川が南流せるに對して天鹽川は北流し、流向背馳せる事と、石狩川が幾多の大なる支流を合せるに對し、天鹽川に注ぐ支流に大なる者が少い事等である。天鹽川も亦下流二十里位の間は小汽船を通ずる事が出来る。(三)十勝川 流程五十里、本島第三の長流である。この川は源を十勝岳に發し、南流して幾多の大支流を合し、帯廣開墾地を涵養して太平洋に注ぎ、古來鮭漁を以て知られて居る。尙ほ十勝川と同斜面に流れる川には東に釧路川(三十四里)がある。以上の石狩天鹽十勝釧路を本島の四大川と稱して居る。尙ほ日高山脈によつて界せられたる太平洋西南斜面、及びオホーツク海に面せる斜面にはあまり大河長溪なく、常呂川、湧別川等稍々大である。本島の平野 (一)石狩平野 石狩川の流域なる石狩平野は我國にては關東平野に次ぐの大平野であつて、本道中最も肥沃なる田園の開けたる稀有の平野である。従て農業さかに行はれ、稲田麥圃相連りて一望十里、眞に本島の寶庫をなして居る。(二)上川平野 石狩川天鹽川兩川の上流にある平野であつて、僅かに

神居古潭に一水路を有するだけの一大盆地であるから、域内は河水縦横に流れ、沃野肥田打續きて、本島中石狩平野につぐの農業地である。殊に近時内地移民の開拓する事多く、ために大農場の設置を見るに至つた。(三)天鹽平野 天鹽川の流域平野であつて面積は相當に廣いが、何様氣候寒冷であるために十分の開墾を見る事が出来なかつたが、近時拓殖漸く進み、尙且つ稚内わかしほより天鹽川に沿うて上川平野に通ずる鐵道完成の曉には一層開發を見る事であらう。(三)十勝・釧路平野 十勝平野は自然の障屏となる山脈が北方に連帶して居る上に、黒潮が近海に流れ来るから、氣候稍々溫暖で、農牧に適して居る。殊に土地が高燥で地味も肥沃であるから、帯廣を中心として十勝川流域の平野では盛んに農業が行はれる。・釧路平野は釧路川の灌漑する所であるが、土地一般に卑濕であつて地味も瘠せて居るから農業には適しない。

海岸の状態 本島の海岸は頗る單調であつて出入に乏しく、僅かに渡島半島が突出して稍々變化ある海岸線を表はして居る位のものである。今若し北海道本島から西南部に於ける半島部を切斷して見ると、本島は大體菱形になつて、海岸線は四大弓形の彎入部から成る事になる。かく半島部を除いては海岸線極

めて單調であつて、良灣好津の據つて生すべき餘地がない。故に本島の好錨地と稱すべきものは多く西南部に位置して居る。

本島の氣候 土地が廣いから氣候は一樣ではないが、概して寒い事は事實である。しかし我國は更に寒冷なる樺太の地を領し、或は朔風骨を刺す滿洲、西比利亞の野に事業を興すべき時期に際會して居る今日であるから、敢てこの地の寒さに位に辟易する様ではないけぬ。但し本島の北部沿岸オホーツク海、日本海を流れる寒流岸を洗ひて一層寒威を猛烈ならしめ、中央高地は冬季西比利亞より吹き来る寒北風の襲來を受けて酷寒凌ぎ難く、氷雪地を封じて融けざる事半年餘、其間野草も凍凋して生色なく、行路全く人跡を絶つの有様となる。かゝる有様であるから本島多くの地方では寒冷の期節、極めて長く、一年の中殆んど三分の二は田圃耕作等の作業は出来ぬ。従て農業に従事する者は夏日の間に營々急遽其培養・收穫をなして長き冬季生活の安逸を圖らねばならぬ。尤も南方太平洋方面の地は北方山を負ひ、南方海岸は多少暖流の影響を蒙る所から、却て本州奥羽地方よりも暖い事がある。降雪は石狩・天鹽地方に頗る多く、積雪冬季間消融する事なく、次第に積み重なつて數尺に達する事もある。而して四五月の交

氣溫暖かになつて半歳の積雪一時に融ける頃になると、梅櫻桃李一度に開花するの奇觀を呈するのである。

取扱上の注意

地理的用語 本島。屬島。列島。道廳。主部。半島部。山系。分水嶺。沿岸。△千島列島とを占む。地勢高峻。中央部に源を發せる。我國屈指の大河。又よく開拓せられ。天然の良港も亦まれなり。

挿繪の解説 (一)駒ヶ岳と大沼 この繪は大沼公園から駒ヶ岳を望み見る繪である。駒ヶ岳は一に渡島富士の稱があつたが數度の噴火によつて山容今は富士に似ぬ。此山は渡島國第一の高山であつて、高さは三千六百餘尺に及んで居る。尖峯は繪で見ると嶄然として大沼の東端噴火灣頭に聳えて居る。大沼公園の景色はこの雄峻な駒ヶ岳の背景を得て其美は一段と色彩を添へて居る。この噴火は寛永十七年、天明四年、安政三年、明治廿八年、同三十八年の五度である。翠影を湛へ水靜かなる大沼の勝景は後の參考資料によつて知るがよい。

自働作業の指導 (一)地勢略圖を描かしむ。(二)本島を分水山脈による四斜面に分ち、各斜面の氣候、地質、生業、聚落、交通文化の程度等を比較考覈せしむ。(三)本地

方地勢の表解をなさしむ。

教辨物の指示 北海道地勢圖。本邦火山脈分布圖、駒ヶ岳、まつかり岳の山姿畫、石狩川、神居古潭、大沼公園等の景勝畫。函館、小樽、根室港等の部分圖。

參考資料

大沼公園 青森を出た連絡船は、五時間か、つて函館につく。大沼公園はこの函館から北へ一時間ばかりのところにある。汽車は廣い原野の中を走つて、そろ／＼丘陵地にかゝる。途中桔梗ヶ原などいふ牧場もある。丘陵にかゝつてから見返る後に、一帯の平野や、函館の山々が一目に見えるのも、よい眺めである。間もなく汽車は、二千四百呎もある大トンネルの中に入る。トンネルをくゞりぬけると、すぐ目の前に、大きな沼が展開される。これが小沼で、汽車はこの沼の傍を走つて、やがて大沼につく。停車場とは名ばかりの、大沼公園停車場に下りると、其附近に旅館や雜貨店がポツリとある。ガランとした、如何にも新開地らしい氣分がたゞよふ。

大沼公園の背景をして居るのは駒ヶ嶽で、大沼の景色を引き立て、居るのも駒ヶ嶽である。その裾野が西北へのびて居るのは、如何にも軟い感じを與へる。其他沼の周圍には横津嶽、渡野山、小沼山、金比羅山などがあるが、どの山も秋の頃には紅葉の眺めがよい。之等の山に

包まれた沼は、大沼、小沼の二つに分れ、兩方では周囲が十二里もあらう。中がく、れて瓢形をして居る。

湖上には澤山の島がある。そして大小の島々には、きつと樹木が生ひ茂つて、夏は緑した、るばかりの趣を見せる。しかし落葉樹であるから、冬枯の時節には寂しい景になる。島と島との間は船が通れるから、夏の暑い日屋形船で、緑の島蔭を練り行くは、楽しい事であらう。ボート漕いで島から島を廻るのも、モーターボートを海原のやうな沖合に走らせるのも爽快であらう。それにもまして楽しいのは、冬の日沼一面に張りつめた氷の上を、氷滑りする事である。近頃は氷の期節になると、函館邊からスケートに來る客が少くないといふ。大沼の景は大なる盆景といへばあたるであらう。大小百三十にあまる島が、其處に點在して、楓、桐、白樺などが、島々に生ひ伸びて居る。それ等の樹木が一續きになつて、一つの林をなして居るやうに見える所もある。しかし開けた所は、これが沼かと怪しまれる程の、廣々さをあらはして居る。又カサコソと落葉を踏んで島中を歩くと、どう考へても島とは思はれぬ程の寂しさを感じる。

大沼と小沼との境は、俗にセバットと云はれて居る。かしこくも、今上天皇が、未だ皇太子であらせられた時の、御休憩所が残つて居る。其他公園中には、大山公や、東郷元帥の銅像もある。何様百七十萬坪の大沼と、百二十萬坪の小沼と、外に六十萬坪を合せての大公園であ

るから、とても大した設備も、手入も出來るわけではない。しかし設備や手入の届かぬ自然の儘の所に、趣があるのである。

二 産業

教授の主眼

産業記述の順序は大體重要なもの、及産額多きものを前としてあるから、本地方の産業は教科書記載の順序に従ひ、水産業を第一とし、次ぎに農業、牧畜に及び、以下林業、鑛業、工業の順序に教授すべきである。而して尙ほ本地方は原野、廣淵、地味肥沃であつて、拓地植民の餘地を十分に存して居るから、特に之等の事情を明らかにし、移住上の手續等についても語り聞かしむべきである。

敷衍及附説事項

産業總説 北海道の面積は随分廣淵のものであつて、四國・九州・臺灣の三つを合せた程の廣さを持つて居る。而して四面の環海は世界三大漁場の一に數へられる程魚藻に富み、しかも其地は未墾の原野多く、到る處農牧の業に適する沃地、林業に適する鬱蒼たる森林相續き、豊裕なる鑛床も亦尠くないから實にこの地は

北海に於ける我が帝國の寶庫といつてよい。本島が曩に開拓使を設置した明治二年頃は住民も至つて少く、僅に漁民の徂徠に過ぎなかつた地が、以來年を累



大鯨魚の捕つたし（實況）

本地方の水産業

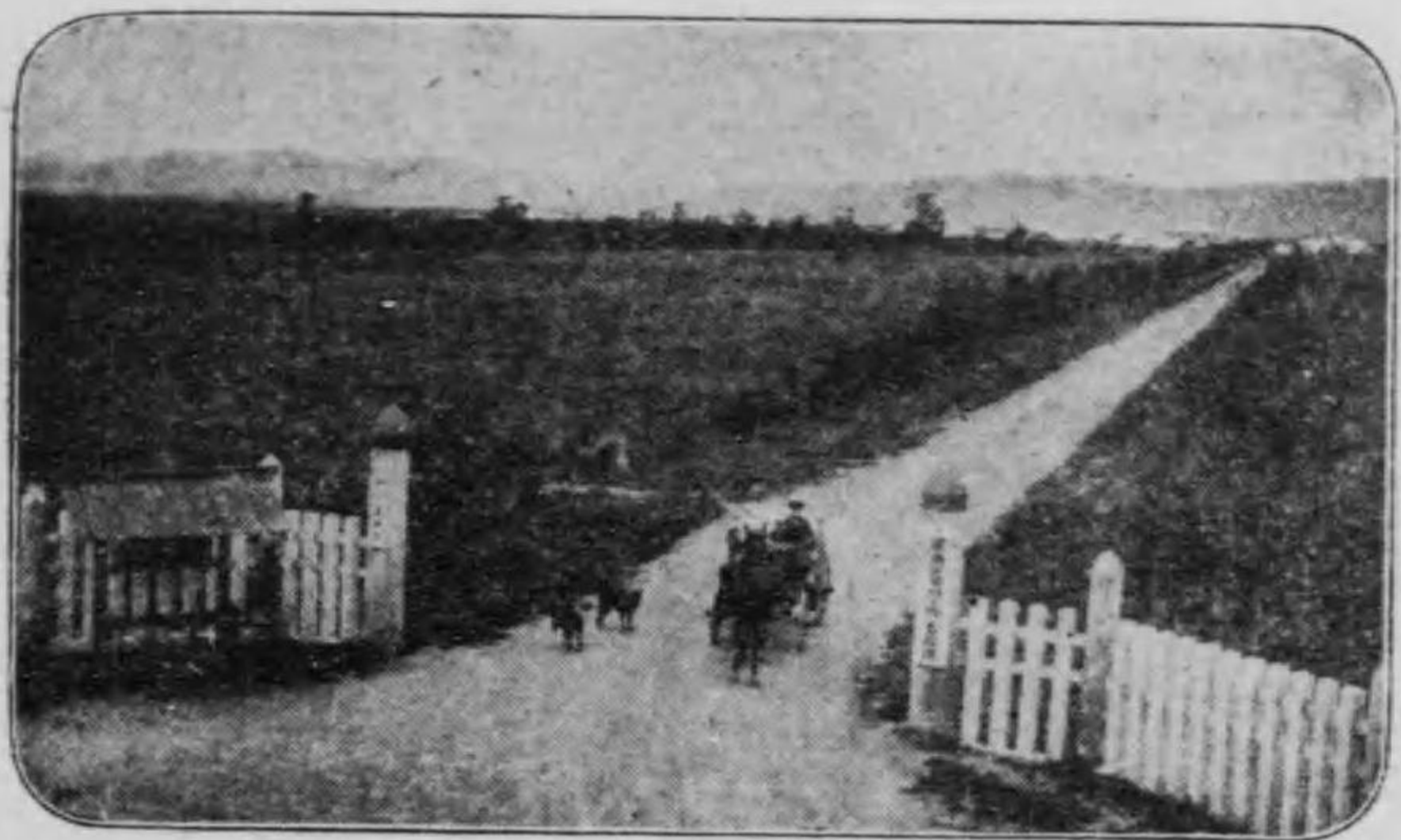
本地方の産業中最も産額の多いものは水産業である。古來

本地方の環海は魚族の群游するもの多く、實に世界三大漁場の一に算へられて居る。年によつて豊凶はあるけれども水産物中で重要なものは、鯨・鮭・鱈・鰯・鰺・魚・海扇・鱒・鱈・鯉等であつて、海藻類では昆布を最として、んぐさ・ふのり・わかめ・あらめ・のり等が隨所に産する。又海獸では臘虎・臘肭獸・海豹等の捕獲がある。近年本島中の各地に水産調査所・水産試験場を置き、水産に關する調査指導、並びに鮭・鱈の人工孵化をなし、斯業の隆盛を企圖して居る結果、水産製造事業は漸次盛大であつて、管外に移出する水産製造物の價格は年々三千五六百萬圓に及んで居る。其中主要なる品目は身欠鯨・鹽鮭・鹽鱈・乾海扇・鯨搾粕等である。

本島の農業 本島の農業は従前に於てはあまり振つては居なかつたのであるが、近時當局の奨励によつて耕地増加し、且つ農業上の施設經營についての研究日を追うて加へられるに會ひ、本島の農業は漸次開發進歩し、今や道民の約半數は斯業に従事するに至つた。農産物中の主要なるものは米・麥類・豆類・黍類・蕎麥・馬鈴薯・亞麻・蕪菁・薄荷・苹果等である。就中米は近時石狩地方に多く、膽振・渡島・後志之れに次いで多く栽培をなすが、之等は學理と實驗とによつて本道の氣候に適應し右品種を得るに至つて居る。麻はたゞに産額の多いばかりでなく品質

も優等であつて全島の産は多く札幌に集められこの地で麻布となして廣く各地の需要に應ずるのである。薄荷馬鈴薯菽豆類蕎麥等は其産額全國に冠絶し

農商務省月寒種畜牧場



飼育頭数は牛一萬八千頭馬二十萬頭豚一萬頭を算して居る。殊に往時は其飼

將來有望の特産物である。又本島の氣候風土は養蠶に適し山野に天然の桑樹を見る程であるから、近時當局の指導奨励と相俟つて本島の養蠶は漸次盛大に赴き、着實なる企業を爲すもの多きを加へて居る。而して當局は養蠶業取締所を設けて以て其普及發達に力めて居る。本島には農業の改善發達を圖る上から農事試験場及び之に類するもの設けられ、又道農會郡農會の設置整備、一方には北海道帝國大學があつて農業學理の研究を行つて斯界に貢獻する所が尠くない。

本島の牧畜 本島には原野到る所に存在して居る上に氣候風土がよく、牧畜は漸次其聲價を高め、育法粗放的であつたが、近時は經營集約的となり一段と品種の改良に意を用ひたために駿馬良牛を出す様になつた。養鶏養豚の業も漸次農家の副業として行はれるやうになつた。本島畜産業の改良機關としては本廳種畜場、日高及十勝陸軍種馬牧場、畜産試験場北海道支場、新冠御料牧場等がある。

本島の林業 天然の森林多くて殆んど木材は無盡藏と稱してよい。從來開墾に際して材木の處置に困つて多くは焼失した程であつたが、近時は交通機關の完備と相俟つて材木の利用大に行はれ伐採した材木は内地の需要に應じるは固より、支那印度亞弗利加濠洲北米合衆國及び英國等に輸出せられるものも少くない。本道の森林は大正五年末の調査によれば國有林三百四十六萬町歩、御料林九十一萬町歩、大學演習林十萬町歩、其他の官有林九萬町歩、地方費有林四十二萬町歩、民有林五十一萬町歩、合計五百五十萬町歩に及んで居る。而して之等の多くは原生林であつて斧を入れざる密林である。樹木の種類は内地と趣を異にし次の様な樹木が多い。即ち榎松蝦夷松檜榊黃蘗刺楸桂白楊槭胡桃等五十餘種に及び、多く建築用材、鐵道枕木、製紙原料として木屑、燐寸軸木等を利用してせられ、又薪炭、土木用としての需要も多い。北海道廳では各地に林業試験地を

設け、森林業の進歩發達を企圖し、又木炭改良、椎茸の培養、醋酸石灰の製法等を傳習せしめて居る。

本島の鑛業 本島に産する鑛物は石炭、金、銀、銅、鐵、砂、金、滿、俺であつて、就中石炭は九州と共に本邦の主産地であつて、一ヶ年の産額二百六十萬佛噸に及び、夕張炭田、幌内炭田、幾春別炭田等は何れも有名の炭鑛地である。硫黄は年額七千七百萬斤に達し、世界有名の産地であつて、膽振國にある幌別鑛山は硫黄の産出多き事我國第一であると云はれてゐる。

本島の工業 本島は諸種の工業原料品に富み且つ石炭の供給多く、水力の利用至便であるから、將來益々本島の工業界は殷賑を來すべき運命を持つて居る。工業品中主なるものは清酒、洋紙、澱粉、鐘詰、セメント、燐寸、軸木、小麥粉、亞麻、製絲、麥酒等であつて、清酒業の如きは近來、本島産の米を以てしては尙ほ不足を訴ふる所から、秋田庄内或は越中越後等の地方から米を移入して製酒の原料にする程の盛況であるといふ。又製絲原料の木屑は本島に無盡藏なる樹木より採る事であるから、其産額極めて多く、従つてこの原料から造り出す所の洋紙は近時著しく發達を加へ、裕に七百萬圓の産額を見るに至つた。殊に膽振の國にある苦

小牧はパルプ製造の盛んな所であつて、この地に設けられたる王子製紙會社の分工場は其規模の盛大なる其産額の多き富士製紙工場を壓倒するの觀がある。本島のセメントは樺太浦鹽にも輸出せられ、麥酒は札幌ビールとして天下に其名を博して居る。

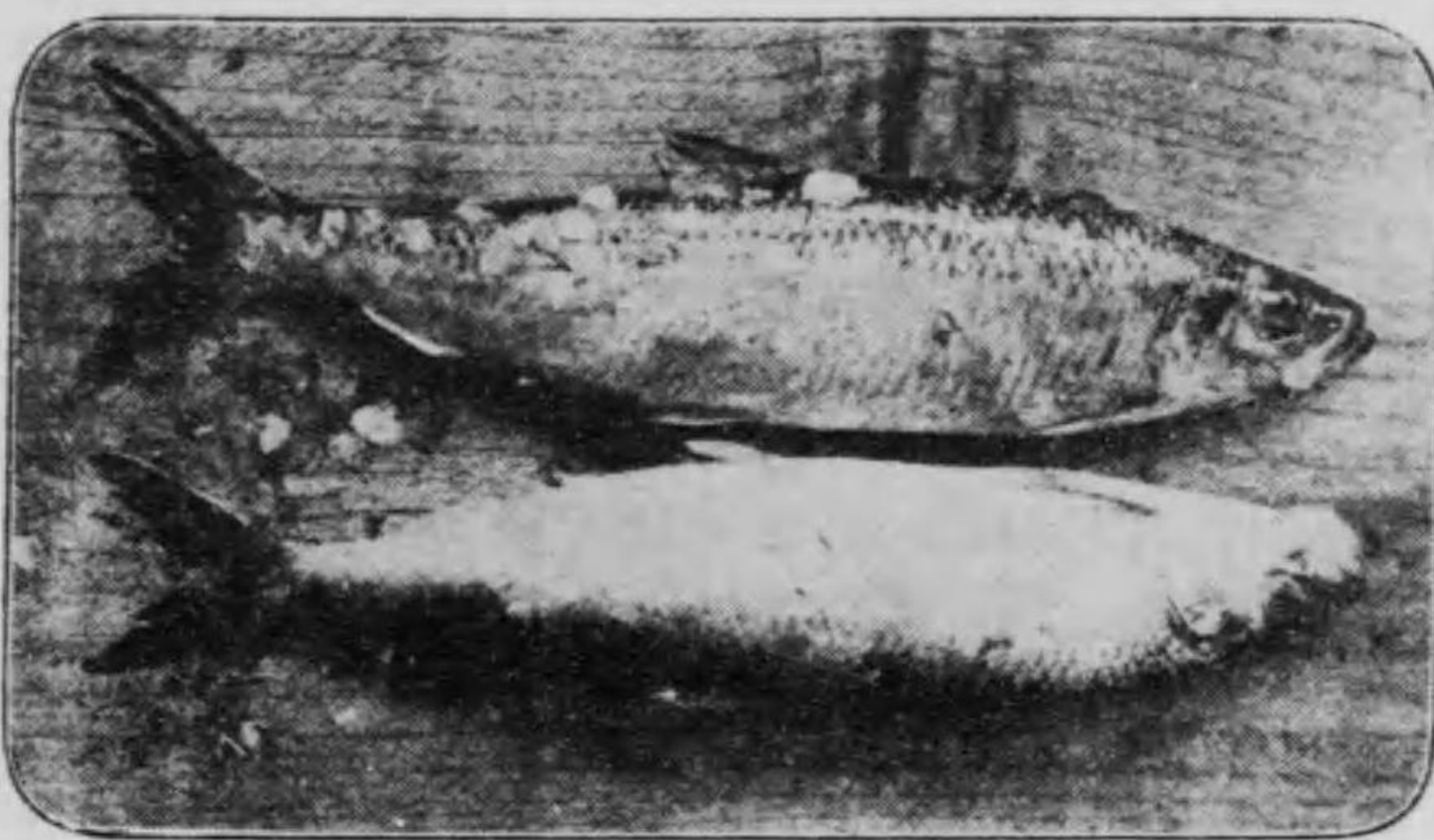
取扱上の注意

地理的用語 移住。寒流。暖流。漁場。鹽漬。鐘詰。原野。パルプ。マッチの軸木。主産地。製鋼所。△意を開拓に用ひ。魚貝に富み。開拓の歩を進め。馬の飼養。各地に輸送。紙の原料。

挿繪の解説 (一) 北海道本島に於けるにしんの陸揚 鯨は陸岸近くでとれる。

それは陸近くの岩に生ずる昆布に卵子を生みつけるためにやつて來るのを鯨建網で漁獲する。普通は沖上げと稱して沖合で船と船とを寄せ付けて網を手繰り船上に引き上げて其網にかゝつて居る鯨を船に積み込む。船一杯に鯨を積み込んだ船どもが、エツサクと岸に漕ぎつけて來ると、畚と稱する木箱の大きなのを背負ふた女子や男子が其鯨を陸揚げするために船にやつて來て挿繪に見る様に後向く。すると若者共はスコップ様のもので鯨を掘ひとつては木箱

に入れる。すると運搬者は之れを陸上の納屋に持ち運ぶ。陸揚した魚は早速鯧の鰓の所から腹を裂いて、中なる卵を取り出して別の箱に入れる。この卵がお



北 海 道 名 産 鯧

正月になくてならぬもの、一つになつて居るあの数の子(鯧鱒)なのである。鯧の食用にする部分は身欠鯧と稱して内臓を取り去つて後、挿繪の前面に見えて居る棚の上で乾燥さす。干すのは棚の上に竝べるばかりでなく、物干竿の様に設けてある柱に竹や綱を渡してそれに身欠鯧を一面に釣つて乾かす。肥料にするものは壓搾して粕にする。鯧の漁期は毎年春分から七十五日間のものである。海を蔽ふて眞白くなつて居るのを捕るのであるから其漁獲高は素ばらしいものであつて、澤山とれた時には足を踏みこむすきもない程の盛況である。(二)苦小牧にある製紙工場 苦小牧は室蘭本線の一驛であつて、岩見澤から四十六哩、室蘭からは四十哩餘ある。

この地の沿岸一帯は鱈漁の盛なところであるから昔から割合に振つて居る所であるが、王子製紙會社の分工場がこの地に出来て一層この地の景氣を添へる様になつた。挿繪の手前に鐵道のあるのは木材運搬用の軌道である。山積してある材木は椴松や蝦夷松であつて、其長さは二間位で悉く皮が剥いてある。向ふに見える工場ではこの材木を更に二尺位に切り鋸にかけて鱈節でも削る様に三四寸の薄片とし、之れに藥品を加へて蒸煮し木材の繊維ばかりを採る。之れが即ちパルプであつて、洋紙にするには松脂石鹼を加へ壯大な製紙機械を流過させる。すると第一に繊維の節が除かれ次に水分が滴下しながら繊維ばかりとなつて金網の上に移る。それから更に毛布の上に来て壓せられ略ぼ紙らしい形態になる。そして數個の乾燥筒の間を徐行して全く乾き、最後にローラーに掛つて光澤が出ると同時に軸棒に巻き附けられる、併し最新式の機械では光澤を附けてから、更に所用の大いさに截斷する装置がある。かくしてつくられた洋紙は新聞雜誌書籍等に使用されるので、今や世界に於ける紙消費額の大部分はこの洋紙によつて占められて居る。(三)室蘭に在る製鋼所 教科書の挿繪は室蘭にある日本製鋼所の全景であつて、正面の海は室蘭灣である。製鋼

所のあるあたりは母戀町といつて繪に見るやうに室蘭の市街とは丘陵一つ隔てゝ居る。丘陵の向ふに人家の櫛比して見えるのはそれが室蘭で市街は海岸



室蘭港石炭積込の高架橋

ロング・ヴキツカース兩會社との共同經營になるもので、其廣潤なる地積と宏壯

の埋立地から高臺にまで延び發展して居る。丘陵の右に突出て居るのは上圖に示すやうな石炭積込みのための高架棧橋であつて、この棧橋は十四年に竣功したもので鐵道院の設定にかゝり、其高さ水面から六十三尺、海に突出すること約千八百八十四呎、船舶四隻が一時に碇繋し得る設備になつて居る。其宏壯たしかに港内の一偉觀である。遠景の山は測量山といひ此處からの眺望は頗る絶佳と云はれて居る。上圖は室蘭製鋼所の内部を示したものであつて、技師が職工を督して砲身を製作して居る所である。而して此日本製鋼會社は北海道炭礦汽船會社と英國のアムスト

なる建築物とは大に人目を惹く所である。室蘭は又石炭木材の輸出多く、米國及び東亞諸港に往來する船舶も輻輳して繁榮日に増す有様である。

自働作業の指導 (一) 北海道の略圖を描き主要産物の分布状態を記入せしむ。

(二) 北海道の近海に魚族の多き理由を推究せしむ。(三) 北海道に於ける將來の産

業は何れが最も有利なるかを推究せしむ。(四) 北海道移住の手續を述べしめ、且

つ移住に關する諸他の計畫を立てしむ。(五) 移住地としての本島と臺灣とを比

較せしめ其利害得失を考覈せしむ。

教辨物の指示 北海道地圖。亞麻・蝦松・白楊・鮭・鱈・鯨・臘・獸・臘・虎・海豹・バルブ等

の標本又は繪畫。アイヌ土人の風俗畫。苫小牧製紙工場室蘭製鋼所・鯨漁獲等

の繪畫。

參考資料

製紙場を観る 或日叔父と共に製紙場を観る。先づ驚きたるは方十數町の地域内に山積せる木材なり。いづれも長さ二間内外にして悉く皮をはぎたり。是即ち製紙の原料なりといふ。刺を通じて參觀せん事を請へば一人の技師出で來り、快諾の旨を告げて工場に導く。第一工場に入れば蒸氣の力によりて運轉する鋸仕掛の機械あり。彼の木材を二尺

餘の長さに斷つ。木の種類を問へば、唐檜カウシキ・白檜シラヒ・樺カハなりと答ふ。隣室に鉋を裝置せる機械あり。切斷したる木材を削りて長さ三四寸の薄片となす。宛も経節を削るに似たり。薄片は旋風機によりて吹上げられ、長き管によりて次の工場に送らる。第二工場には高さ六間、直徑二間程の直立せる大鐵釜あり。技師語りていふ、此の釜は彼の薄片に藥品を加へ、蒸煮して木材の組織を破壊し有用なる纖維物を探るの用に供するものなりと。釜の前に大なる溜槽あり。蒸煮したるものを此の中にて洗ひ、水を混じてぼんぶによりて他の工場に送る。次に第三工場の階上に行く。楕圓形の槽の長徑二十四五尺、深さ三尺ほどなるが幾つも並べるあり。各槽にはぼんぶにて送られたる蒸煮物を充て、ロールを運轉せしめて種々の作業を爲す。槽毎に一二の職工ありて、各種の作業に従事せり。原質を洗ひて清潔になすも此處、不用物を離解するも此處、漂白するも此處なり。此の外、薬ぼろその他の原料より造りたる原質を調合するも此處なれば、纖維を適當の大きさにするも此處なり。原質調製は一切この階上に於て行はると聞けど、我等は唯灰色の原質が次第に白くなり、細かになりて糊の如き液汁となり、ぼんぶによりて階下に送らるゝを見るのみ。階下には抄紙機あり。運轉する眞鍮製の精巧なる金網と、鐵製のロール及び圓筒數十とより成り。階上より來る原質をこの金網の上を通過せしめて水を去り、これに連結せる白毛布にて包みたるロールに捲かせて、更に水氣を去り、次に蒸氣にて暖めたる圓筒の間を通過せしめて、之を乾かす筈

置なり。紙の厚薄はこの金網の上を通過する原質の分量によりて定まるといふ。金網の下に落つる點滴のかしましきは夕立にもまさり、蒸氣の通ふ圓筒の邊に立つ湯氣は春の野に立つかけろふにも似たり。湖の如き液の次第に紙狀となりて、ロールに捲出され、更に光澤を附するロールを経て、完全なる紙となりて捲取らるゝ、様最も目を驚かす。我等の見たるは普通印刷物に使用する西洋紙にして、幅四尺程の美しき紙なりしが、一分間に百尺の紙を抄くと技師は説明せり。若し運轉を速ならしめんか一分時に二百尺の紙を抄き得べしといふ。之に要する職工は僅かに四五人のみ。見終つて隣室に行く。此處には多くの女工ありて、紙を整理して、包装に忙はし。他に木材を磨碎して原質を製する處等なほ二三の工場ありしが、時間迫りたれば、叔父と共に技師に謝して歸る。(高等小學讀本卷二)

植民案内

(一)土地賣拂 賣拂地は立木と共に賣拂ふものであつて、三十町歩未満の者は出願につき何等の資格を要せないが、三十町歩以上のものは三年以上別に定められたる標準によつて直接國稅を納付、猶引續き納付する者でなくてはならぬ。賣拂地にあつては一人に對して賣拂ふべき面積及價格につき制限が設けられてゐる。其面積の標準は、耕作に供する土地であれば一人につき五百町歩以下の地積、牧畜に供する土地は八百町歩以下、植樹に供する土地は同八百町歩以下、其他の目的に供する土地は十町歩以下の制限である。尙ほ會社組合其他共同して事業を經營せんとする者に對しては其資本及人員に應じ前記

面積の五倍迄累加することが出来る。(二)土地貸與。特定地は立木と共に無償貸付するものであつて、出願につき一定の資格を定めて居る。即ち貸與を受けんとする者は自ら耕作をなさんとする戸主又は青年の移住者であつて、未だ所有地貸付地若くは小作地を得ないもの、又は之れを持つて居ても其地積が僅少であつて生計上他の土地を必要とするもの、若くは中等以上の農業教育を受け、部落の農事を指導し得る者でなくてはならぬ。而して又北海道移住民規則によつて、十戸以上團結して一箇年以内に移住せんとする者に對しては出願により貸付地を豫定し、又耕作の目的を以て新に移住し其證據書類を携帶する者に對しては土地の出願につきての便宜を與へる事になつて居る。尙ほ特定地の貸與は一人について十町歩以内の地積に限られて居る。(三)移住者の保護。(一)移住者多き府縣の吏員に移民事務取扱を囑託し、(二)青森(常設)神戸伏木(十一月十五日よ)に移民取扱事務所を設け、又本道内には函館小樽室蘭の三箇所に事務所を常設する外、其他の他の要所には臨時開設し、(三)青森に於ける北海道移住民保護組合、伏木に於ける北海道移住民共立組合、神戸に於ける北海道移住民周旋組合に手當を給し以て移住者に便宜を與へしめ、(四)汽車賃汽船賃の割引券を交附し、殊に北海道内に於ける汽車は大部分無賃とし、(五)新移住者たる證憑書類を有する者には未開地の貸付賣拂出願に付便宜を與へ、(六)農業者には移住後三箇年間地方費の戸數割を免除し、又未開地處分法により付與地は二箇年間反別割を免除、道廳にては移住手引草

移住者の注意、植民公報等を發行し、府縣廳郡役所町役場農會等に配布して本道の狀況並に移住に關し注意すべき事項を周知せしむるに力め、(七)新移住者に對しては特に技術者を移住地に派遣し、又部落の老農に囑託して開墾其他の事を指導せしめ、或は新開部落にして教育衛生の便を缺く所には補助金を與へて學校を設けしめ、或は補助醫を置き以て移住者に對し間接保護の方法を講じて居る。(北海道植民概覽)

三 交通

教授の主眼

本島の地勢狀況を復習しながら陸上交通の便否を推究せしめ、尙ほ主要鐵道線路の名稱及び起終點を明らかにし、内陸開發上の價值を知らしむべきである。又海上の交通に於ては近海の性質及沿海地方の地理との關係を重んじ、特に本州及び樺太、沿海州との連絡に主力を置くべきである。

敷衍及附説事項

陸上の交通 (一)函館線 函館線といふのは函館港を起點として小樽札幌岩見澤を経て旭川に至る二百六十五哩餘の本線と、外に五稜廓上磯間の小距離、岩見澤より幌内小樽手宮間、小樽岩内間等の短距離支線の總稱である。この線路は

本線中の瀧川驛から分れて釧路に至る釧路本線と相俟つて帝國鐵道幹線の一部をなすものであつて、函館から終點の旭川までは十六時間を要し、函館から釧路への直通は二十二時間半かゝる。まづ本島の玄關口である函館を發して鐵路北へ向ふと次驛は歴史で名高い五稜廓である。五稜廓から四つ目の驛は大沼で驛は直ちに大沼公園に臨んで居る。大沼小沼の相通する所を鐵路で行くと、駒ヶ嶽の峻嶺頭上を壓し、俯せば無數の島嶼碧水に浮んで、眞に北海第一の景趣である事が首肯される。内浦灣岸に出たからは汽車は灣に沿うて海岸を東北へ半圓形に迂回する。石狩灣の要港小樽を経てからは、やがて石狩平野に出て、本島の首都札幌につく。室蘭線を岩見澤で分ち、釧路線と瀧川驛で別れてからは、石狩川の狭谷に沿うて、神居古潭の絶勝の間を行く。この間兩岸の景趣頗る深く、山光水色仙寰に入るの思がある。而して此狭谷を出るとやがて上川平野が目前に展開し、間もなく汽車は上川平野の中心都會旭川に入るのである。(二)釧路線 この線は函館線中の瀧川驛から分岐して釧路に至る百九十四哩と外に下富良野驛から旭川に至る三十三哩餘の支線の總稱である。空知川本支流の合する落合驛は早や既に海拔千三百尺の高地であつて四邊老樹枝を翳

し、清新の氣自ら身に沁みるを覺える。而して此處から汽車はいよゝゝ高きに向つて、やがて三千尺の大隧道を潜り、本島全線中の最高點である海拔千七百餘尺の所を過ぎる。此處から眼を放つと黛色描けるが如き四周の山々相迫り、瞰せば十勝平野茫茫として際涯を知らず、身は恰も雲上畫中を行くの感がある。かくして鐵路は北海道の脊梁である十勝石狩國境の山嶺を這ひ横ぎつて、恰も中天より降下するの勢を以て十勝平野に下り、中心都市帯廣を過ぎてからは東海岸に沿うて雄大なる景趣の間を本線の終點釧路に向ふのである。終點釧路と函館の間には毎日一回の直通列車があつて、約二十二時間で達する事が出来る。(三)室蘭線 室蘭線といふのは岩見澤から室蘭までの八十六哩を本線とし、外に萬字夕張等の炭山に通ふ支線を加へての總稱である。沿道には水田沃野多く又本島の主産物たる石炭の産地を控へて居るから殷賑なる小都市が發達して居る。中でも産業の部でも述べたやうに、苦小牧の如きは水力を利用して發電をなし、木材を原料としてバルブを作り、之れを以て製紙業を營んで居る。此地にある王子製紙會社の分社の如きは工場發電所等の建築規模頗る宏壯を極めて居る。苦小牧からは鱈漁の本場である海岸地を走り、靈泉あるを以て世

に名高い登別のぼりべつを過ぎ尙ほ二三の驛を過ぎて室蘭に至るのである。(四)網走線
 網走線といふのは釧路線中の池田驛から北に走つてオホーツク海おほしづみに面する網
 走に至る百二十哩の鐵道であつて外に多少の支線もある。沿線樹木多く従つ
 て木材の搬出さかんである。殊に十勝北見の國境附近では満山悉く蒼蔚たる
 樹林であつて翠影兩窓に迫り眞に壯觀である。本道の旅行に於ては特に植物
 の景觀に於て目新らしさを感じ、山海の風光自ら大陸的なるを思はしむる者が
 ある。しかれども雄渾の氣到る所に現はれ、開拓の趾隨所に充ち、想像以上の進
 歩に驚かされる。(五)宗谷線 旭川から本島の北端稚内わかしほに通ずる鐵道で、將來は
 樺太と本島との聯絡上大切な交通路となり、又天鹽平野の開拓に資せられる鐵
 道であるが、未だ全部の完成を見る事が出来ぬ。

海上の交通 海上の交通は濃霧に妨げられ、又流水に禍されてあまり便利では
 ない。内國航路の方では小樽を中心として此處から神戸に至る線が二つある、
 一は本州の西廻りで一はその東廻りである。又函館を起點とするものには日
 本海方面に敦賀に至る航路あり、東太平洋方面では横濱に至る線がある。本州
 との聯絡は青森函館兩港から毎日二回の發着船があつて海上四時間で津輕海

峽を横ぎる事が出来、又青森室蘭の間も毎日一回の定期航海が行はれる。本道
 の沿岸航路としては函館から室蘭釧路根室を経て千島に至るものと、西北方面
 では、小樽から留萌るもへ稚内わかしほ網走あはしほに至るものがある。又函館小樽からは樺太に至る
 線があつて、本島と樺太との聯絡をなして居る。別に外國航路としては小樽函
 館から浦鹽斯德に通ずるものがある。要するに小樽及び函館は本島に於ける
 海上航路の二中心をなして居る。

取扱上の注意

地理的用語 連絡船。發着地。起點。鐵道幹線。流水。航路。

挿繪の解説 (一)小樽港 この繪は小樽港の一部分を示せるものであつて、小樽
 市街は更に右に臨んで居る。港内左方から一直線に長く一線を引いて居るの
 は第一の防波堤であつて、其長さ七百餘間、これによつて波浪を防ぎ船舶の碇繫
 に便であるが更に安全を期すために、向つて右方からも防波堤を突き出して其
 第一第二の防波堤の間を汽船が往復する様になつて居る。第一防波堤の突端
 に立つて居るのは出入船舶に便するための燈臺である。防波堤の根元の方に
 あたつて高い建築様物の長く續いて見えるのは石炭積込用の高架棧橋である。

この棧橋は手宮停車場の構内にあつて海に突出する事約九百五十二呎、船舶四隻が一時に其兩側に繋つて石炭を積み込み得る様になつて居る。特殊の装置があるから一時間に約五百噸の石炭を積込む事が出来る程である。高架棧橋の後ろの丘陵は高島岬であつて、この繪では見えぬやうだが其左方に手宮遊園地がある。挿繪の近景に長い建築物の見えるのは小樽中央停車場である。兩館方面から来た汽車は繪の左方よりこの停車場を経て挿繪の右方に進み、今一つ小樽停車場を過ぎ築港停車場を経て札幌方面に向ふのである。別に一線は小樽停車場から市街を左に進み手宮停車場に至り、かの前に説明した高架棧橋に至つて終るのがある。停車場前の大通りは一直線に海岸に及んで居るが、其突あての海岸には棧橋がある。

自働作業の指導 (一)北海道の略圖を描き主要鐵道線路及主要航路を記入せしむ。(二)將來本島を一層開拓するには尙如何なる交通線路を要するかを考察せしむ。(三)本島の交通路が生産業に如何なる影響を及ぼし居るかを推究せしむ。**教辨物の指示** 北海道交通圖。旅行案内。本島の定期航路表。鐵道線路の風景及主要都市の繪畫。小樽室蘭港の部分圖。

參考資料

神居古潭

神居古潭カムイコタン

神居古潭の名は、一寸他では珍らしい名前だが、之はアイヌ語に漢字を宛てた

ものだから、自然さう聞えるのである。此處は古來北海道第一の景勝と稱せられる所で、石狩平野から、上川平野に通ずる峡谷にある勝地である。札幌から旭川に向ふ汽車は、この峡谷を通るので、今は車窓からこの景勝を恣にする事が出来る。今峡谷中には神居古潭と名のつく停車場があつて、此處からあと二つの停車場を過ぎると、次は旭川驛である。

古潭の景は内地でいふと、丁度球磨の峡谷に類する者である。而して其谿の深さ、及び山川の模様がよく似て居る。しかしどちらかといふと、谿は球磨の方が深い、景に變化の多いのは、或は古潭の方が勝つて居るだらう。

深川から留萌へ行く汽車が、左に分れてから、一里あまり東に走ると、そこはもう石狩平野が盡きて、山々の連亘が、次第に目前にせまつて来る。さうして汽車は、石狩川に沿うて走るので、車窓から見ると、潺々たる清流が岩に激し、岸にせかれて、瀬音高く流れて居る。やがて神居古潭の美しい瀬と潭とが、展開して来るやうになると、山のたゞすまひも、次第に深山の趣を加へ、幽邃の景となる。緑のかけにクッキリと白く白樺の幹が光る。

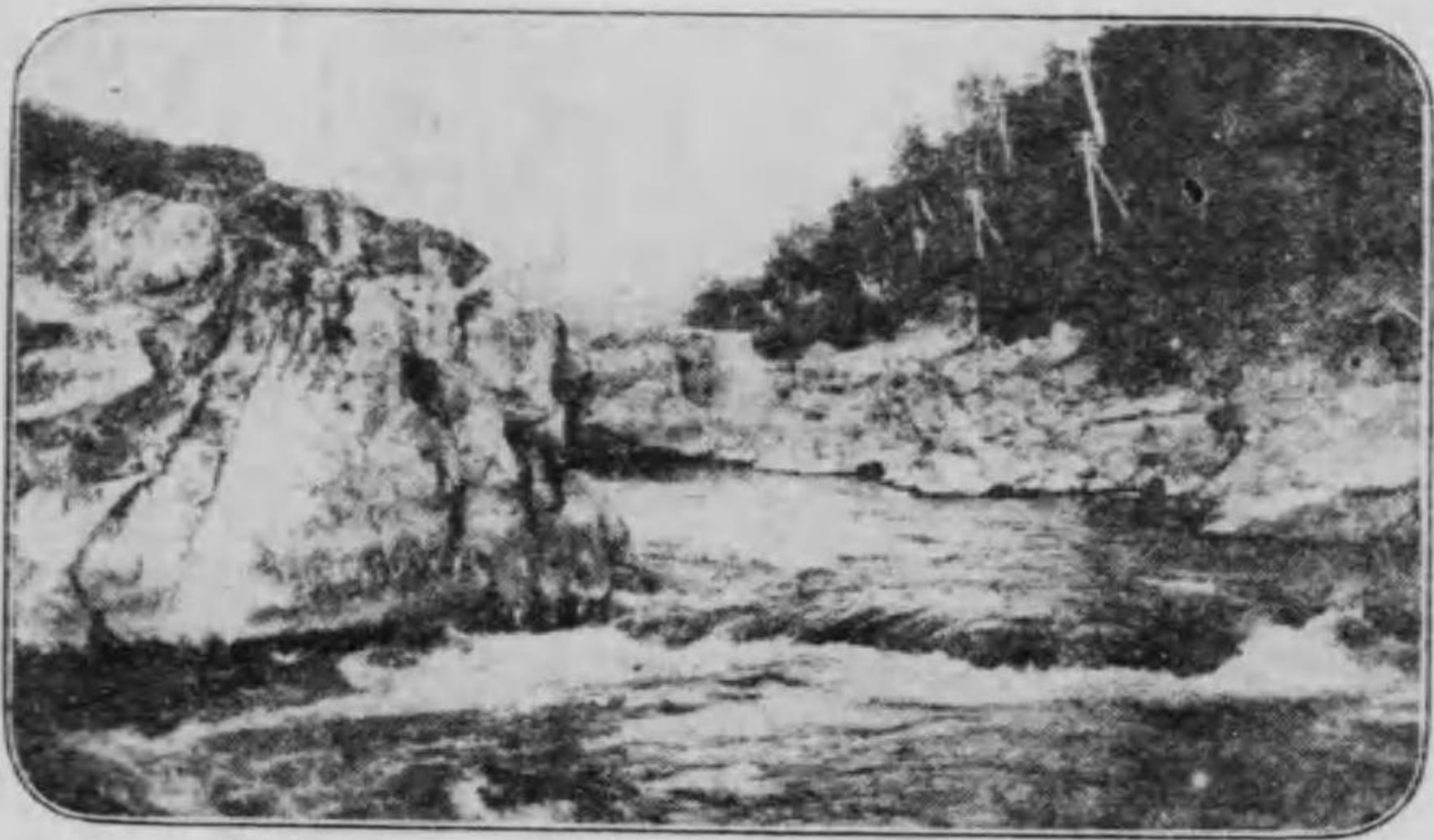
翠巒が次第に迫つて来ると、溪は益々狹隘になつて奇巖の數もだんだん多くなる。突兀たるものは虎の嘯くごとく、又獅子の相闘ふが如くである。而して其間を、石狩川の奔流が

激しては岩をうちよどみては蛟龍の潛むかと疑はれる深淵をなして居る。見上げるやうな絶壁に偏よつて、川の瀬が渦を巻いて流れて居る所もあれば、又打展けた間を、靜かにゆる

やかに流れて居る所もある。釣橋を渡るもの、小船に棹さして流れを下る土人などを、汽車の窓から眺めつゝ、行くと、やがて汽車は神居古潭の停車場につく。その附近には小さな鑛泉などもある。

古潭の景は四時ともによい。春は青葉の木蔭に晚咲の山櫻がチラチラと見えて、谷間をわたる小鳥のさへづりを聞くのが美しい。夏は滴るばかりの翠緑が、碧水に影を浸して、山も川も一色の涼しさを見せる。秋は霜に焦けた潤葉樹が、燃ゆるやうな紅葉して、全山錦とまがふ麗しさを呈し、冬は青松雪に傲るの眺めがある。四季の風光、山水の景勝と相俟つて、海道一の名に背かぬ

やがて山谷の中を向ふに出ると、廣い上川の高原が目前に展開する。二つばかりの停車場をすぎて、間もなく

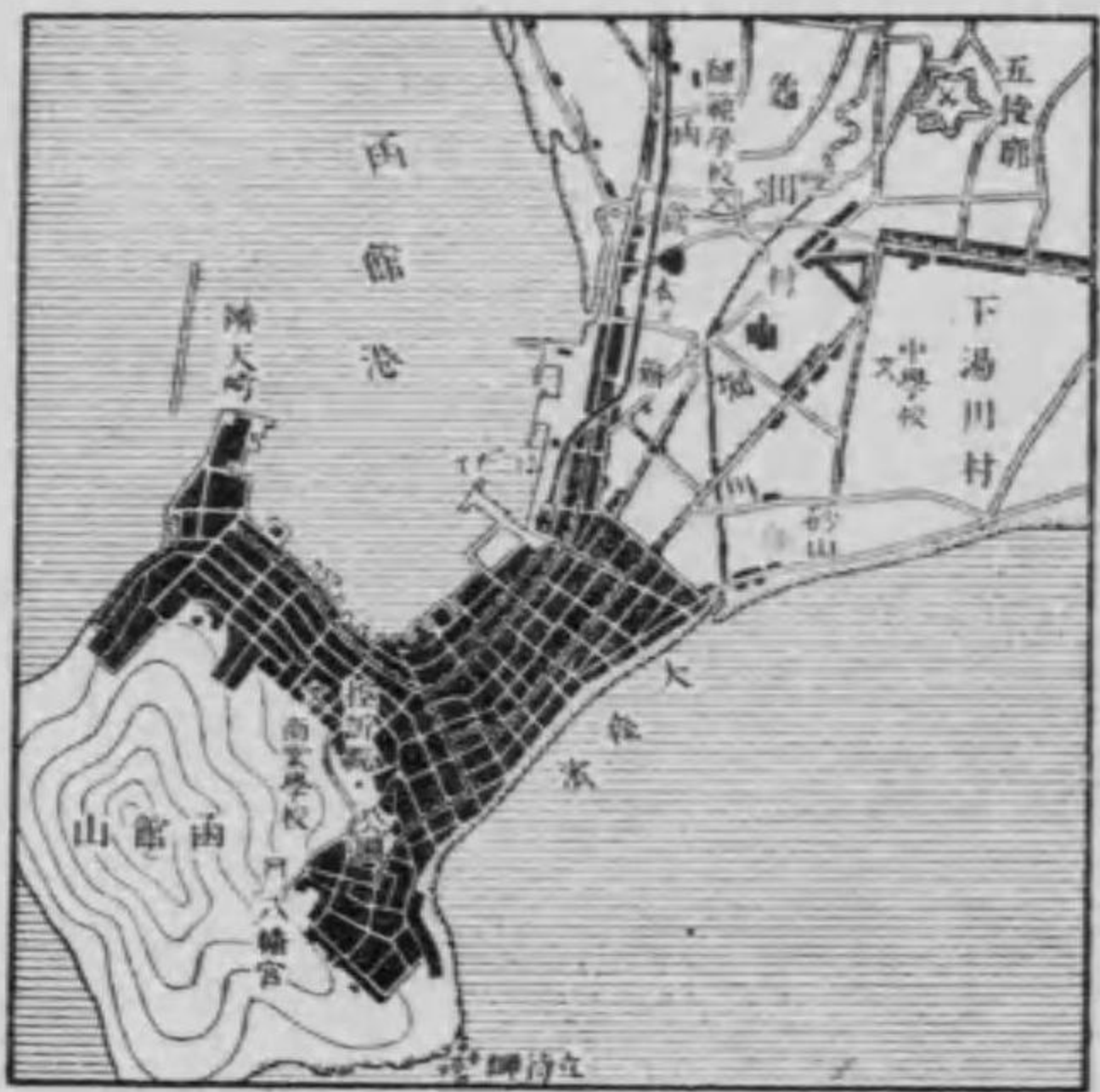


神居古潭

汽車は上川平野の中心都會旭川に入るのである。

四 都 邑

教授の主眼

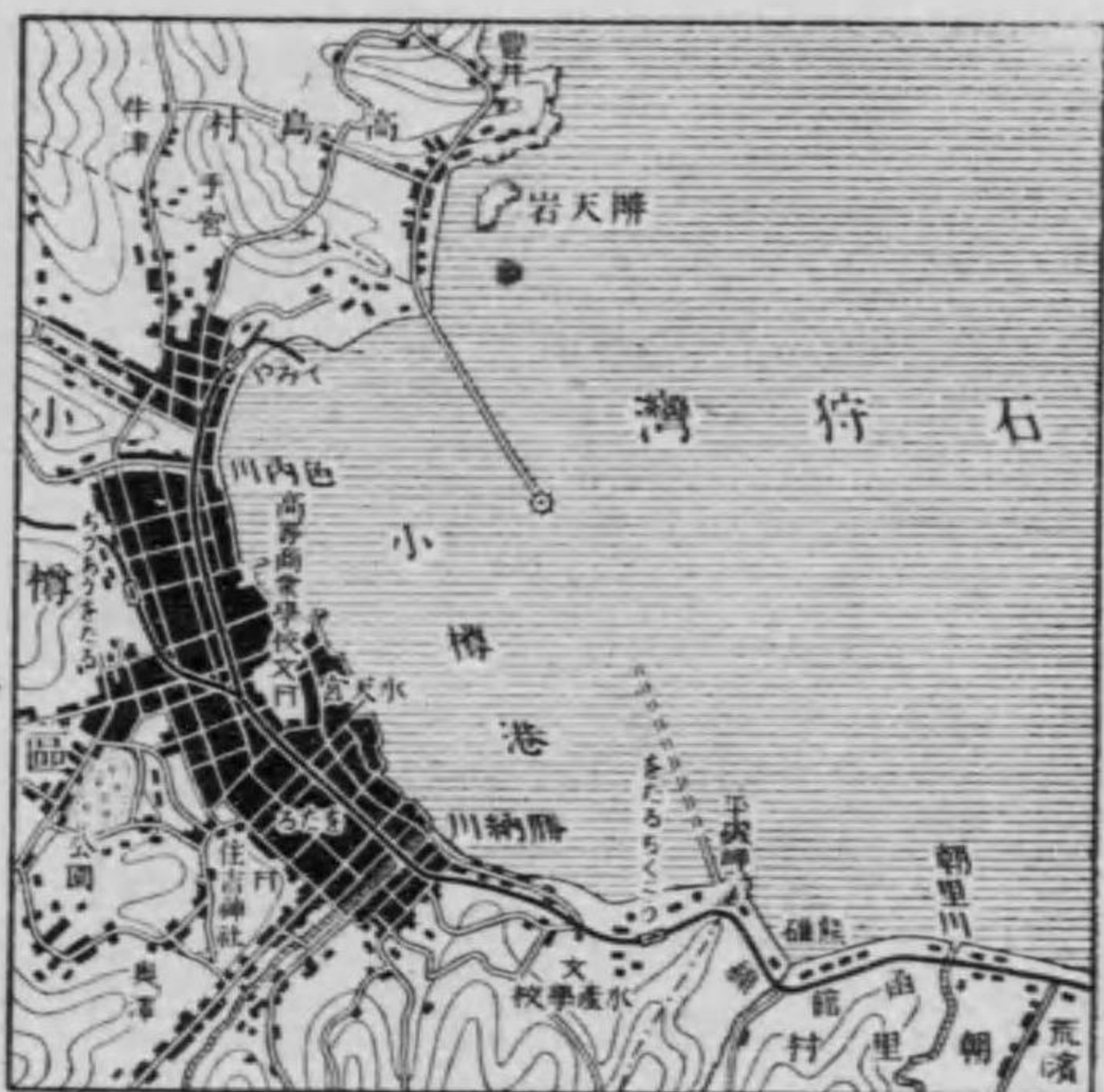


地勢交通等に關係して一度は教授せるものであるが、更に都邑として纏まつた取扱をなさんとするのが、玆での任務である。依て教授の事項と關聯し、本課の取扱を通して地勢産業交通等の復習をなす様に取扱はねばならぬ。

敷衍及附説事業

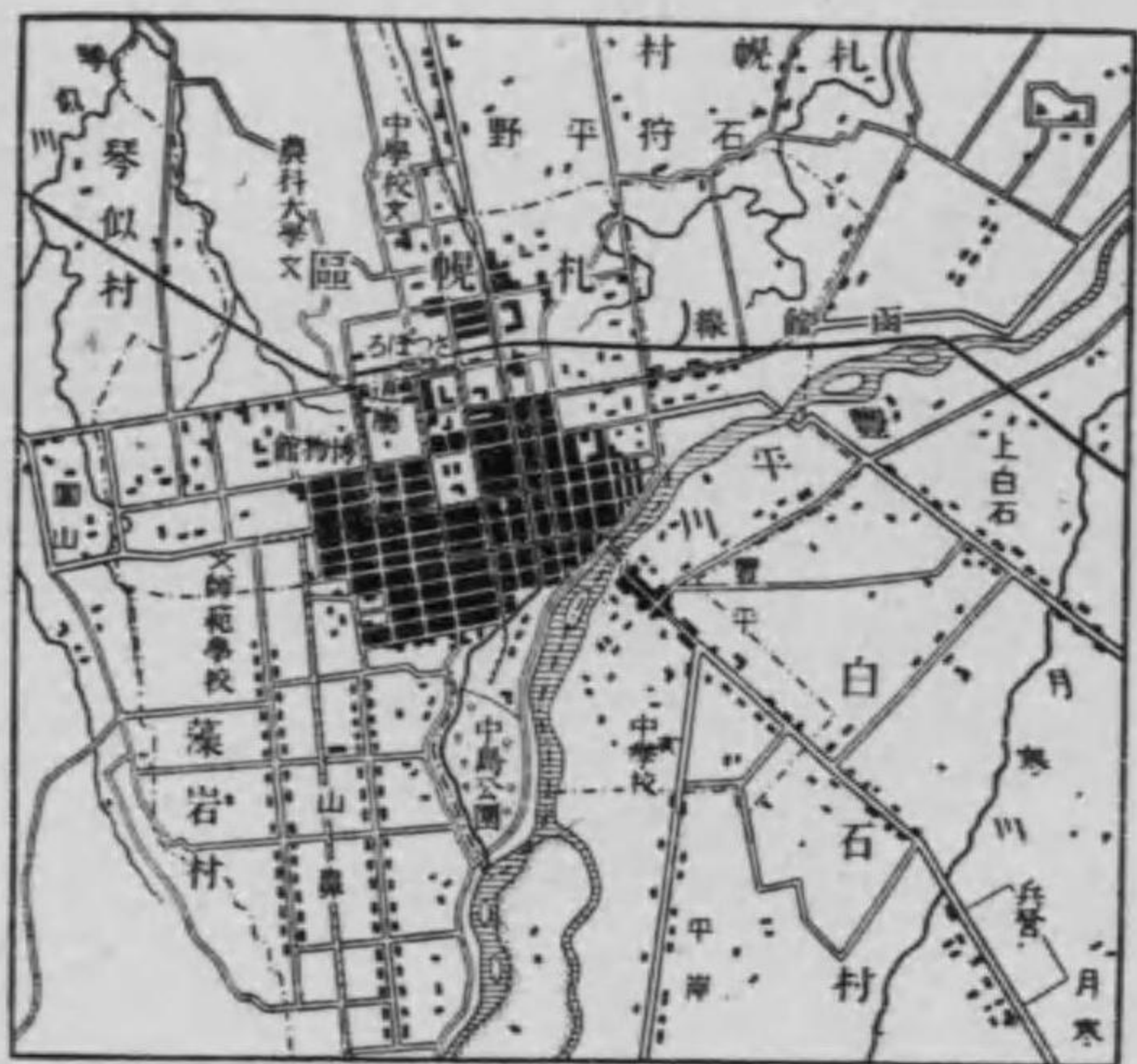
(一) 函館區 北海道の門戸であつて青森から海上五十九哩、相互の間に毎日二回宛の定期航海があつて四時間餘で相連絡して居る。人口十萬一千、北海道第一の都市である。函館が此の如き大都市になつた原因は第一其位置が本島の支關口にあつて居て、本州よりの往來者は是非此處を經由し、相互の鐵道に連絡する

から勢此處が殷賑になるのである。又物貨の方から見ても本島から他に移出のものは多く此地を経由する事になる。恰もこれ等の關係が九州の門司に似通つて居る。山嘴が拳の様に突出し、巴形に彎入して居る本港は水深もあり又



風波の患もなく大船巨船も碇繋する事が出来るから、従て商船の出入が多く物貨の取引が盛大である。曾て本邦五港の一であつた事は人のよく知る所であるが、現今も北海に於ける開港場として海外貿易額が五百萬圓餘に達して居る。市區は極めて整然として居つて、其間に函館支廳控訴院税關要塞司令部等が散在して居る。市の重要産物は水産物セメント製氷等であつて、古來五稜廓の外濠からとる氷は函館

氷として世に知られたものである。維新の戦亂に榎本武揚が據守した此五稜廓は町の東北郊外を真直に一里ばかり行つた所にある。函館では是非一訪せねばならぬ所となつて居る。(二)小樽區 小樽は本島の西海に於ける開港場であつて海外貿易は函館港と互に覇を争つて居る。人口九萬五千、この點に於ても亦函館に相近い。港は弓形に彎入して居



て、港の防波堤は東北及び西南から長く海中に突出して居る。そして其處には汽船と言はず、和船と云はず、いつも一杯になつて居る。この町は明治になつてから開けたのであつて、これ以前は海岸の一漁村に過ぎなかつたのである。何様本港は西海岸に於ける第一の良港である上に、近時又樺太との交通が頻繁となるに及び本港は其要港として一層重んぜられる様になつた。魚油、酒、味噌、鑄物等は區の名産で木材は重要輸出品である。尙ほこの地には支廳の外に高等商業學校が置いてある。(三)札幌區 本島に於ける交通の中心であり、又本島政治上の首府である札幌は人口十萬、曩に述べた函館、小樽と相鼎立の觀がある。市街

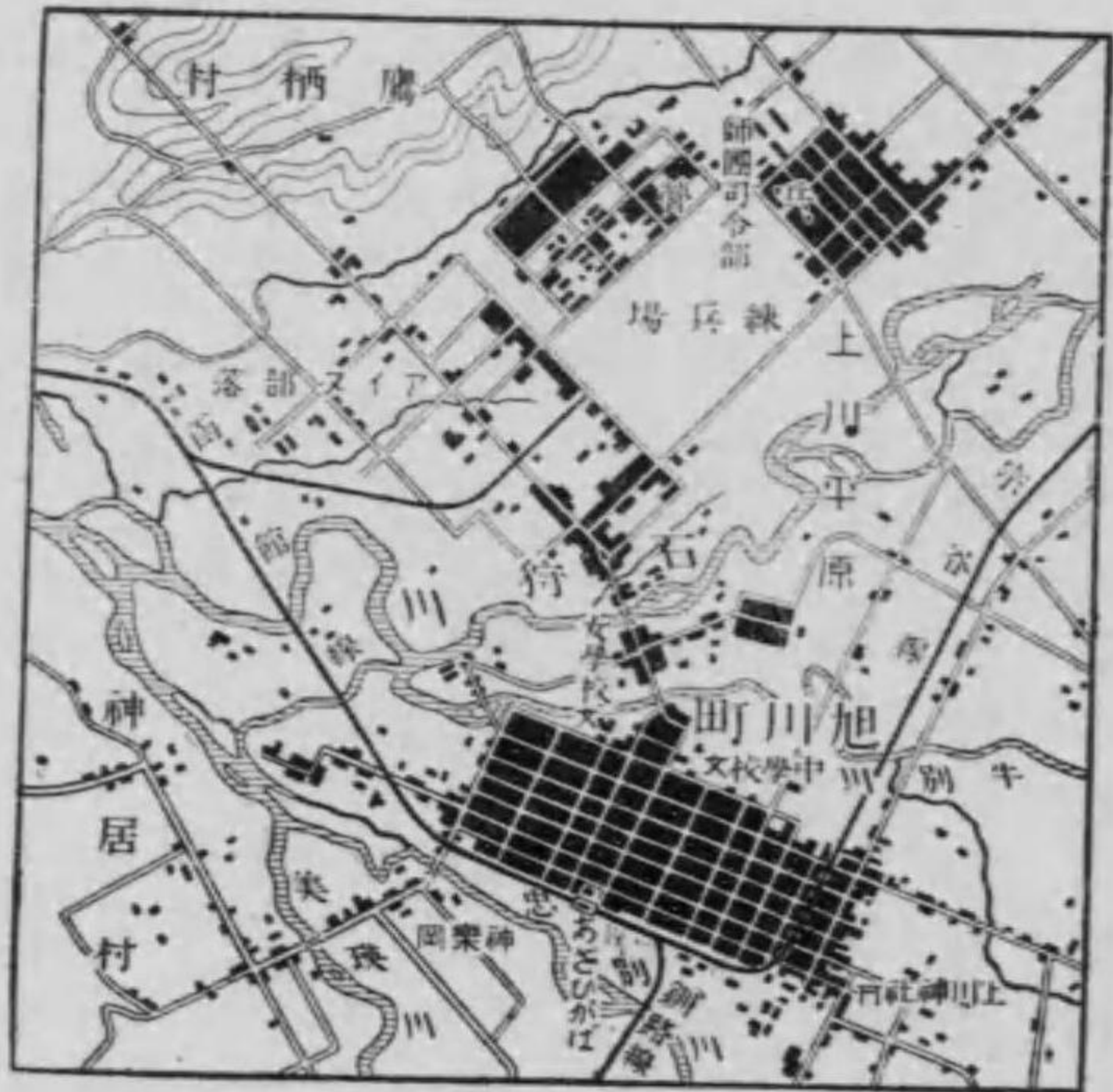
の區劃が整然として居る事は一寸内地では見られぬ所であつて、恰も碁盤目の如く、大通を界として北に十五條、南に七條、縦には川を界として東に六町、西に二



札幌市街の大通

十町といふ風で、何處か外國の市街を見る様な趣がある。平坦な上に道幅も頗る廣く、しかも街路にはアカシヤ其他の行路樹を植ゑてゐるから、すつきりとしてよい感じを與へる。区内には道廳支廳の官衙の外に北海道帝國大學、麥酒工場、製麻工場等がある。市街は石狩平野の西部に位して居るから、近郊は田圃よく開け、農産裕かに、就中林檎、葡萄の産出に富んで居る。(四)旭川區 上川平野の中心に位し、四周に沃野を繞らし、形勢自ら有望であつて、全道の中樞に當つて居る。第七師團が此地に置かれるやうになつてから著しく膨脹した市街であつて、近時の人口は六萬七千に達した。宗谷線はこの地から北に向ひ、釧路線に通ず

る富良野線は南に走つて、此處も亦本道に於ける交通系の中樞地である。市街は兵營町であるから、石狩川に添つた近文公園と、兵營の西北である春光臺と、神



樂丘の離宮豫定地の外には何も見るべきものが無い。但し新開地の都會の特色として街路は廣く、札幌程ではないが、此處も市區が稍々整然として居る。(五)室蘭區 室蘭は嘗ては鎮守府開設地と豫定せられた程であるから、港は廣く、水は深く、南方と東方とは丘陵が連互して風波を防いで居るので、大抵の巨船は安んじて碇泊する事が出来る。それに附近の噴火灣は風景が好いばかりでなく、函館及び其他の港との間に汽船の往來もあるから水陸交通の衝にあつて居るといつてよい。人口は三萬二千、大きな工場としては日本製鋼會社がある。(六)釧路 東海岸の要港で開港場の一つである。釧路川の水運もあり、又陸上鐵道の便も備はり、水陸相俟つて本港の價値を添へ

て居る。硫黄・マツチ・昆布等の産物がある。人口はやがて三萬に近い。(七)根室
人口は一萬五千ばかりであるが、東部に於ける本道の要港で現に開港場の一で
あつて、水産物の取引が多い。この港は千島との取引が多く、千島諸島の海産物
は全部殆んどこの港に依るから、従つて船舶の出入が多い。

取扱上の注意

地理的用語 沿岸。中心都市。盆地。△海陸交通の要地。農産物を集散し。
第七師團の所在地。

●挿繪の解説 (一)札幌の市街 この繪は札幌市街の東西に貫通して居る大通で
あつて火防線と公園とを兼ねて居る。其町幅は實に六十間に及ぶ大通である。
この繪には見えぬがこの大通の手前にあつて永山將軍の銅像がある。永山
將軍は北海道長官であり、また第七師團長として令名のあつた人である。この
永山將軍の銅像と相對して大通の偉觀をなして居るものは黒田伯の銅像であ
る。黒田伯は人の知る如く開拓使の長官として本道の開發上に負ふ所が多大
であつたのである。この繪の正面中央大通の向ふに小さく見えて居るのは即
ち黒田清隆伯の銅像である。その銅像の少し手前に記念碑様の見えるのは開

拓記念碑である。繪の左の上に黒ずんだ山のあるのは圓山であつて、その圓山
の裏五町ばかりの所には圓山温泉がある。客室よく整ひ全市を瞰下する事が
出來て、眺望に富んで居る。圓山温泉の東、挿繪で云へば大通の突當りにあたる
所には札幌神社がある。大通を真直に行くと左側にあつて師範學校がある。
北海道大學はこの繪で云へば右の方にあつて居て挿繪には表はれて居らぬ。
しかしその構内は樹木老いて枝葉地を蔽ひ附近は森閑として別天地を成して
居る。

自働作業の指導 (一)本道主要都市の發達原因をそれ／＼記述せしむ。(二)各都
市間の距離及び海路、鐵路による行程時間を測定せしむ。
教辨物の指示 北海道地圖。函館・小樽・札幌・旭川市街圖。五稜廓・札幌市街の街
路。北海道帝國大學。北海道廳第七師團司令部室蘭製鋼所等の繪畫及繪葉書。

五 千島列島

教授の主眼

北海道地方に屬しては居るが、千島は一連の列島狀をなして東北の海上に碁布

散點して居るから、便宜上別に一項を設けて千島の記事を取離したのである。依て教授に際してはなるべく北海道本島との關係を忘れぬ様すべきである。

敷衍及附説事項

本列島の成立 千島列島は北海道本島の根室の北にある。國後島から北東に延びること三百餘里の海上を三十二の島嶼もて飛石の如く、露領カムチャッカ半島に近接せる占守島に終る一連の島嶼である。列島中で大きな島は國後色丹、擇捉、得撫、新知、捨子古丹、恩禰、古丹、幌筵、占守、阿頼度等であつて、他は小さい島々である。これ等三十餘の島々の總面積は一千方里にあまるから大約四國島の面積に匹敵する。

地勢と氣候 列島は何れも千島火山脈に屬する火山島であつて、島嶼は何れも山岳丘陵起伏し、平地耕野は殆んどない。加ふるにこの地は緯度が高い上に寒流の流れに當つて居るから、氣候頗る寒く、從て生産物に乏しいから、僅かに漁獵に従事する者の外は生活せぬ。よつて人口は極めて少く、一方里に對して六七人の割合にしかならぬ。しかも三十餘の島々の中には無人島が頗る多く、割合に民烟のさかんなのは國後色丹、擇捉、得撫、占守の五島である。

産物 沿海には鮭、鱒、鱈、鯨、昆布が多く捕れる。海獸では臘肭獸、臘虎が多く、又上には狐や熊が棲息して居る。鳥類にはエトピリカ、千島カラスの種類がある。又山には硫黄の産出ある地もある。兎に角千島の生命は水産物にあるといつてよい。無人島へも漁期にはどん／＼漁民が押しかける。

擇捉と占守 擇捉島は列島中第一の島であつて面積四百三十方里、周圍二百九十里に及んで居る。島内には山多く、樺や落葉松が繁茂して居る。河川には鮭、鱒の漁獲があるから、漁期になると根室地方から出稼ぐ者が随分多い。占守島は列島中の北端にあつて、一衣帶水露領に對して居る。巨樹が無いために薪材や建築材に不便を感じるが、灌木類が生ひ茂つて居るから飲料水の缺乏はない。かの郡司大尉が二十六年來報效義會を組織してこの地の開墾事業に従事した事は有名な話であるが、今は又住民も少く、僅かに漁期になつて漁民が出稼に來る位である。

第四 樺太地方

一 地 勢

教授の主眼

地勢を授くる前に先づ本島が我が國の屬領となりし由來を明らかにし、本島の區分、面積及び北門の鎖鑰と稱せられる位置上の價值を知らしむべきである。地勢を授くるに際してはまづ地形の概観より海岸地方の状態を授け、次に樺太山系を中心として西部山地帯中央低地帯東部山地帯の三地帯に分つて授けるがよい。

敷衍及附説事項

位置と面積 本島は嘗て亞細亞大陸に接続せるものであると思惟されて居た程であるから、露領沿海州となす間宮海峡は極めて狭く、最短距離の所は僅かに四哩に過ぎぬ。又北海道本島との間は宗谷海峡をなして居るが、この海峡は約三十哩ある。全島の廣さは北海道本島位あるが、併し我が國の領地になつて居る南半は全島の約四割六分位であるから、略々本邦領の面積は九州島位あると

見れば大差なからう。露領樺太とは北緯五十度線を以て相界して居るのであるが、この境界は何も自然の境界物があるのではなく、たゞ一續きの森林地であるから、西岸から東岸へかけて幅五間位の林空地をつくり、尙ほ其間に境界標を建て、其國境界を明らかにして居る。(挿繪の解説參照)

本島の地勢 本島の骨格をなせるものは樺太山系であつて、これは北海道の所で述べた蝦夷山系と系統を同じくせるものである。この樺太山系は低山性の山脈であつて、脈中には高峻の山はない。僅かに四千尺の山が本邦領土内の最高峯たるに過ぎぬ。しかし狭長なる本島を其島形に従つて南北に連互して居るから、従て島内は山岳丘陵相連り地勢一般に高峻である。但し北部に於ては東樺太山脈と樺太山系の間に一大平原を形成し、南部に於ては鈴谷川流域に本島中最良の沃野をつくつて居る。依て本島の地形は大體分つて東西兩部の山地帯と中央凹地帯の三つに分ける事が出来る。(一)西部山地帯 露領樺太の北部から起り半島を南北に縦貫して本島の大部分を占めて居る西樺太山脈の連互する地方であつて、本島の脊梁をなし土地一般に高い。殊にこの山脈は高度大體に於て相平均し脈中の山岳は殆んど大差なき高度を以て居る。(二)東部山

地帯 北部の露領より發する東樺太山脈は南方にのびて北知床半島をなし、一度海に没して再び海豹島となつて表はれて居る。この山脈地方は東部山地帯と稱し中央凹地帯を挟んで西部山地帯と相對して居る。併し東部山地帯の方は西部山地帯の如く土地一般に高くない。殊に西部の方の山岳は緩漫な傾斜をなして居て山勢透迤として起伏して居るが、東部の方の山岳は全く之れと反對であつて、山頂が鋸狀をなせる奇峯峻嶺が少くない。西部山地帯は一般に石炭を産するが、東部山地帯の方は貴金屬の産出あるも亦相違せる一項と數へる事が出來よう。(三)中央凹地帯 東西兩山脈の間に挟まれて居る狭長の低地であつて北部幌内川の流域は我が領土内に於ても南北約三十里、東西約七八里の平地を有し、南部低地は西樺太山脈と鈴谷山脈との間に挟まれたる平地であつて内淵河口から鈴谷河口まで約二十五里に互る平地である。幌内川流域地方である北部低地は所謂凍土帯と稱せられる一種の低濕地であつて、地面には蘚苔類密生し、處々矮少の落葉松が疎生して居る。この地方は夏季と雖も地下數尺の下は凍結して居る。南部の低地は海岸附近に間々低濕の地があるけれども、一般には土地肥沃であつて、本島中最も生産に富む地方である。かつて露人

も、この地方を開墾して幾多の農場をつくつて居たが、我が國の領土となるに及

び、一層開墾され、以て本島内に於ける政治産業交通の中心地となるに至つた。



馴鹿

これ等主要なる平原地を流る、川には北に幌内川があり、南には内淵・鈴谷・留多加川がある。幌内川は本島第一の大河であつて全長八十里、我が領土内のみでも五十里の延長を見て居る。ボロナイとは本來アイヌ語にて大河の意味であるといふ。河口から十四五里の間は小艇の遡航も自由であり、國境附近までは獨木船が上る事が出来る。内淵川は西樺太山脈に發し、南より來る支流を合せて北流しオホーツク海に入るものであつて、全長三十里、其中十里餘は舟楫の便もある。鈴谷川は本島の主要地である南部平原を北より南に流れて亞庭灣に注ぐものであつて、全長二十里に及ぶが河底が淺くて舟楫の便はない。留多加川は延長五十里

もあつて本島第二の川であるが、下流數里を除く外は山脈の間を縫うて流れるために河流急湍であつて舟楫の便はない。

取扱上の注意

地理的用語 樺太廳。海岸線。低地。開拓。△南半を占め。シベリヤに對す。半島の突出。一灣をいだく。彎入にとぼし。良港も亦まれ。

挿繪の解説 (一)日露の國境と境界標 上圖は第四天測境界標であつて樺太東海岸にあるものである。北緯五十度の國境を劃する標石には大體二つあつて、其一は天測境界標であり他はたゞの境界標である。この普通の境界標は六軒毎に建て、ある標石であるが、天測境界標の方は全體で四つしかなくて、西海岸網干にあるものが第一、幌内川流域の星野並に境にあるものが其の二三で、第四はこの挿繪に載つて居る東岸鳴海に立つて居るものである。普通の境界標は天測境界標よりも小形の標石で、天の字が省かれて居る。下圖は鳴海附近の林空の模様と、天測境界標の建て、ある柵の模様を示せるものであつて、柵の中に菊花御紋章の一部が見えて居るのは即ち境界標なのである。標は菊花御紋章を中央にして、上に大日本帝國と刻し下邊に境界の文字が刻してある。側面に

は第四號の文字と、明治三十九年の文字とが彫つてある。北方露西亞領に面して居る方には露西亞双頭鷲御紋章と露西亞國境と年號を露國文字で高彫し、又左側面にはアストル第四號と刻んである。用材は三河豊橋産の花崗岩であつて、其形は恰も將基の駒に似て居る。林空地のあたり密生して居るのは假松、落葉松の林である。

自働作業の指導 (一)本島の地勢圖を描かしむ。(二)本島の長さ及び國境に於ける土地幅等を縮尺にあて、測定せしむ。

教辨物の指示 樺太地圖。凍土帶幌内川の流木近海結氷日露國境標石等の繪葉書又は寫眞。蝦夷松落葉松の標本。

參考資料

本島の沿革 我が邦人の初めて樺太を發見せし事蹟は詳かならず。唯後水尾天皇寛永の初年、松前公廣が其領土を巡檢し、翌年家士をして此の島に越年せしめし事あり。是れ松前氏が樺太探檢の初めなるべし。此後二十餘年、慶安三年(西紀一六五〇年)露人初めて樺太に到わりといふ。其後元祿年中及び明和年中又安永六年に松前氏家臣を此島に派し視察せしめし事あり。徳川幕府は天明五年初めて御普請役山口鐵五郎等をして蝦夷地を巡檢

せしめし時にして、此時下役大石逸平なるものあり。樺太に渡り東はシレットコ、西はタラトマリに至り宗谷に至りて越年し、翌六年再び渡航し、西海岸を行く事三十一日、久春内に至り糧盡きて歸る。寛政四年幕府は御普請役最上徳内、御小人目附和田兵太夫を樺太に遣はし視察せしむ。寛政十年幕府又吏を遣はし蝦夷地を巡察せしめ、松前藩の兵備克く外夷を防ぐに足らざるを知り、松平信濃守をして北邊警備の事を掌らしむ。翌享和元年幕府中村小一郎(意積)御小人目附高橋次太夫(一貫)を遣はし按檢して東海岸はナイブツに、西海岸はシヨウキに至りて歸る。此時露人既に屢來寇するものあり。因つて文化四年幕府松前藩より蝦夷地を收めて直隸とし、函館奉行をして管理せしめたれど、本島に對しては設備未だ充分ならざりしが如く、その後も露人の來寇するもの數次に及べり。文化五年幕府松田傳十郎、間宮林藏と共に樺太シラヌシに至り、夫れより傳十郎は西海岸を經、ラツカ崎に至り、林藏はシレットコに至り、舟行難きを以て、陸路西海岸ナヨロに出で、終に二人宗谷に歸る。既にして林藏一人に命じ、北蝦夷樺太の奥地を探檢せしむ。林藏同冬はトンナイに越年し、翌文化六年韃靼海峡を横ぎり、深く韃靼の地に入る。(此の時林藏初めて韃靼海峡を發見すとの説あれども、其の二十年前佛國の航海家ラベールズ既に之を探檢し、外國地圖には樺太の離島と記せり、又邦人に在つても、林藏の同行者松田傳十郎もラツカ崎に至る記中、既に之れを斷定したれば、林藏は唯之を明確に公表せしに過ぎずと云ふ)。

文政四年幕府再び蝦夷地を松前藩に返付す。嘉永六年露國使節ブーチャチン軍艦を率る長崎に來り通商開始及び國境の確定を求め、同時に露兵クシユンコタンに上陸し、砲臺を築く。茲に於て幕府掘織部正利、齋藤等をして、蝦夷及び樺太の地を視察せしむ。時に安政元年なり。同年ブーチャチン復た下田に來り、國境の事を談せしも決せず。安政二年幕府復樺太を直隸とす。文政五年露國ムラヴィヨフを遣はし、樺太境界を議せしめしも談判不調。文久元年幕府竹内下野守等を歐洲諸國に遣はすに際し、露國に行きて境界を定めしむ。當時我は北緯五十度を以て境界とせんとしも決定に至らず。明治初年岡本監輔官命を以て樺太の事を管理せしが、議容れられずして去り、同八年露國と樺太、千島交換の條約を結び終に樺太は全く露領となれり。三十七年兩國戰端を開くや、我が軍連戰連勝、其の一部隊は三十八年七月樺太に上陸し、之れを占領せしが、米國ボーツマウスに於ける講和條約の結果五十度を以て境界と成し、其の南部を我に割讓し、樺太南半は永く我が版圖に入るに及べり。(木島古代の名稱に就ては歴史地理第九卷に白鳥庫吉氏の論文あり)。(帝國地名辭典)

樺太の夏 樺太の夏といつても涼しいことはない。樺太の夏全體を兩度越えて居るの處に到つてすら、天幕の中で攝氏の四十二度即ち華氏百八度に上つたことが二日あつた。それから八月に西海岸のマツカでは平均溫度六十七度、内陸の豊原即ち樺太廳所在地では

平均温度六十五度であり、東海岸のガルギノウスコエでは平均温度六十二度で高極に至ると百度近くになるといふやうな次第である。之を樺太といへば甚だ涼しいと思ふのは大間違である。現に私は一回樺太で夏を過し、自分では餘程樺太通だと信じて居たに拘はらず、其の翌年の夏季には單衣を二枚位しか持ち行かず、それがため汗ビツシヨリで通し、これでは樺太通の自分免許も返納しなければならぬと思つた程であつた。

併し樺太の夏が内地の夏と違ふ所は、暑いといふも八月即ち酷暑の月だけで、前の七月後の月の九月となると、温度はズツと下る。此に至ると内地と比較は出来ぬ。其の變化の様が急激である。しかのみならず酷暑の時といつても、朝と夕方とは低度であり、特に夜半の二時半には晝の暑さはスツカリ無くなり、能くも此のやうになつたものだと思ふ程に寒くなる。中部では九月一日には霜が降り、同月十日頃には初氷を見る。此の様に一日にしても暑い間は極めて僅かであり、夏としても其の期間が短いから要するに矢張り樺太の夏は暮し宜いと思ふ。

「あら忙し花見の中に越の夏といふ有名な句のある如く、北方は花見の中に夏が来る。況んや樺太の如きは春かと思ふとすぐに夏である。菜の花黄色に咲く處に、馬鈴薯の花白く開き、小麦は半ば黄ばみ、甜菜の葉は紅を染め、キャベツは緑滴らうとして、燕と鳴と雲雀と頬白が私語いて居る。又其の邊の露人の會で住んで居つた小屋に行くと、三色葦、蝦夷菊、雛菊龍

膽だの櫻草だのと咲き亂れて居るから、如何しても春かと思へば直に夏が来るといふ趣がある。春草梅の如くになつたと思ふ所に、白鷺が雪の如くに咲くと思へば、初鱗が出る。少しすると又鮭が取れる。鰻鼠が出て来る。黄鮭が出て来るといふ譯で、南方人の目から見ると、春夏ごつちや混ぜの様子に見える。

今一つ内地と違ふ所は百度位の温度に上るから堪らなくなり、河に水泳ぎに行くと冷たさ堪へられず十分間と入り居る人は殆どない。井の水も随つて寒冽で、それにビールなり、サイダーなり平野水なりを二十分漬けて置くと全く氷のやうになる。それから魚の洗ひを作るに、水の冷たいため肉が緊つてこりこりする。外は百度近い温度の所に、氷の如きビールを酌み、こりこりした魚肉を味ふのも、亦一種清爽の感を覺える。(志賀重昂)

二 産 業

教授の主眼

本島産業の現状を知らしむるのみでなく、將來開拓の餘地ある點に注意せしめ、兼ねて移住植民上の手續を語り聽かすがよい。

敷衍及附説事項

本島の住民 本島には内地よりの移住者の外に、本邦占領以前より農牧に従事

せし露國人の居残者尙ほ少數を有し、又支那、朝鮮人の外にアイヌ、ギリヤーク、オロチヨン、トングース等の土人が棲んで居る。大正五年度末の調査によると現



樺太の家

住の内地人は六萬三千九百九十人に及び、朝鮮人は三十五人、露西亞人は百一人、支那人二十人であつて、アイヌ人千六百六十二人、ギリヤーク九十九人、オロチヨン三百四十七人、トングース二十四人を示して居る。アイヌ人は本島西海岸に住して居て主として漁獵及農牧を事とし、其他の土人は東北部に居住して漁獵、農業、牧畜等に從事して居る。支那人は漁業備役の目的を以て早くより來住せしものであつて、少數ながら今尙殘留者を見て居る。露人は日露戰爭終結後日本が本島を占領するに及び、南部樺太に居住せるもの、歸還を命じた爲に著しく其數を減少したが、併し今尙ほ百人ばかりの露人が居残つて農牧狩獵等に從事して居る。

本島占領の明治三十九年に於ける人口は一萬二千五百六十人であつたのが、大正元年に於ては四萬二千餘に及び、今日に於ては約七萬を算して居る。之を戶數に見るも明治三十九年に於ては二千六百九十五の戶數であつたのが、大正五年には一萬四千六百餘の戶數に上つて居る。若しそれ一方里内の人口に割當てんか、明治三十九年に於ては僅かに六十人に過ぎぬものが大正五年には二百八十三人の割合に及んで居る。蓋し本島の開拓いよゝゝ加はるに及んで益々人口の増加を見るは當然の事であらう。内地よりの移住者は少數の官吏を除く外は農業、商業、漁業等に從事する者であつて、就中漁業に従ふ者が最も多い。本島は氣候寒冷なるために冬季は航海殆んど杜絶し、事業に従事する事も殆んど不可能であつて、全く冬眠の状態に歸する地方多きため、内地よりの移住者はこの季に至る前に内地に歸還し、再び春暖の期に向ひて渡航する者あるため、本島の人口は夏季と冬季とに於て著しく其數を異にするの奇觀を呈して居る。大正五年末の調査によれば、同年夏季には内地よりの移住者男四萬七千二百八十二人、女二萬九千四百二十三人に及んで居るが、冬季に於ては男子三萬七千二百四十人に減じ、女子は二萬九千四十人になつて居る。かくの如く夏季と冬季

とに於ては約一萬人の相違を見るの狀態である。
本島の農業 我が國が占領以前に於ても露人によつて農業が經營されて居たのであつたが、併し之等の農民は露國の流刑民であるために忠實に農耕に従事したのでは無い。従つて本島の農業は極めて遅々として見るべきものはなかつたのである。然るに一朝我が國の占領に歸するや當局はさかんに内地移住者を歓迎し以て本島農業の隆盛をはかつて居る(都會の部參考資料參照)。併しながら本島は高緯度の位置にある爲に冬季極めて永く、しかも寒冷であつて耕作に従事する季節乏しく、加ふるに肥沃の土地ばかりでないから、他の地方の如く多くを農業に期待する事は出来ぬ。前にも述べた様に内淵、留多加、鈴谷川流域地方が本島農業の主腦地といふべきものであらう。農産物として産額多く土地に好適せるものは麥類、馬鈴薯、蔬菜、豆類等である。大正五年度に於ける主要農産物の産額を擧げて見ると、馬鈴薯の十八萬六千五百圓を其最とし、蔬菜類の十七萬九千圓之れに次ぎ、燕麥十四萬六千圓、裸麥十一萬一千圓、豌豆の八萬六千圓等の順位である。それ以下の農産物としては牧草、蕎麥、蕁麥、小麥、大麻、大麥、蠶豆等の種類がある。平地には牧草多く従つてこの地の牧畜は頗る有望であ

るが現時は未だ盛んといふことは出来ぬ、併し如上の理由によつて將來は農業の副業として行はれる事であらう。

本島の林業 本島は到る處樹木鬱葱として茂り良材も少くない。但し氣候寒冷であるために植物の生育は極めて遅く、又其種類もあまり多くはない。本島林産中の王とも云ふべきは落葉松であつて中には高さ十六七間に及ぶものもある。この木は電柱や土木用として多く使用せられる。製紙原料のバルブを製造し又建築用材其他として用途多き蝦夷松、榎松は全國到る處に生育し、落葉松と共に本島主要の良樹である。この外本島には燐寸軸木として使用せられるどろ及柳の樹、薪炭材に適するしらかんば等がある。林業も從來注意されて居たものでないから、將來益々其經營をよくすれば次第に其産額を増し本島主要の財源となるであらう。

本島の鑛業 未だ盛んなりといふ事は出来ぬが、本島の石炭は將來有望の産物として採掘激増するに至るであらう。その分布北は國境に發し西南端西能登呂岬附近に達し、西樺太山脈に添うて炭層長くのび、厚層五十尺に及ぶものもある。加之品質は頗る良く、高島三池炭にも劣らぬ程の品質を持つて居る。現時